

京丹後市立幼稚園・学校評価自己評価報告書一覧

| 学校名 | 学校・園教育目標 |
|------------|--|
| 1 峰山幼稚園 | ・主体的に活動し、健康な心と体で生きる力をもった幼児の育成を目指す。 |
| 2 網野幼稚園 | ・幼児自らが環境に意欲的にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。・自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 ・幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、課題に応じて基本的な生活習慣や態度を育てる。・常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 ・地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。 |
| 3 丹後幼稚園 | 生き生きと遊び心豊かでたくましい子の育成 1 ころ豊かで優しさがあふれるこども 2 意欲的に遊びを作り出し笑顔の輝くこども 3 人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言えるこども |
| 4 峰山小学校 | 適切な教育課程を編成し、PDCAサイクルに基づく実践管理と組織的な教育実践により、児童にとって行きたくなる楽しい学校、保護者・地域から信頼される学校をつくる。 |
| 5 吉原小学校 | 豊かな未来をつくるために、『知恵の輪を広げ、心豊かに伸びていこうとする児童』（校歌の精神）の育成を主眼に地域から信頼される学校をめざした教育を進める。 |
| 6 五箇小学校 | 1 「心の教育」を最重要課題とし『いつでもどこでも生き生きと活動し楽しい学校』を目指した取り組みを進める。 2 全ての教育課程の中で3つの達成目標に沿った取組を計画し、PDCAのサイクルの実践を進める。 |
| 7 新山小学校 | 児童にとって「明日が待たれる楽しい学校」づくりを推進し、心身ともに健康な児童を育成する。 |
| 8 丹波小学校 | かしこく仲良く元気よく生き生き笑顔の児童の育成（学びいっぱい、優しさいっぱい、元気いっぱい）を目指した組織的な教育活動の推進 |
| 9 長岡小学校 | 1 基礎学力の定着を図る。 2 「考える力」を培う。 3 生徒指導の徹底 |
| 10 大宮第一小学校 | 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「知・徳・体」のバランスの良い人格の形成をめざす。 そのために、安定した学習環境を創り出し楽しく学べる学校・地域と共に育つ学校の教育活動を協働的に進める。特に、多くの児童一人一人に「生きる力」をつけていくために、指導力の向上に努める。 <めざす教師像> 1 児童に確かな学力をつけるために自己研鑽に励み、授業力向上をめざす。 2 児童と共に行動し、心をつかみ、よさを評価し、生徒指導と学級経営の向上をめざす。 3 児童の信頼と地域保護者の期待に応える。 |
| 11 大宮第二小学校 | かしこく やさしく たくましく ～自分で考え、行動できる児童の育成 |
| 12 大宮第三小学校 | 一人一人が輝く学校 1 児童一人一人の可能性を追求し、伸ばす。 2 一人一人に居場所がある楽しい学校 3 家庭や地域に愛され開かれた学校 |
| 13 網野北小学校 | 「やさしく かしこく たくましく」 学校経営方針中期目標には、6年間の教育活動を通して「確かな学力を身に付けるとともに、思いやりの心を育み、健康や安全に対する実践力を育てていくことへの願いを込めている。 |
| 14 網野南小学校 | ○心やさしく進んで学びきり輝く子の育成 |
| 15 島津小学校 | 「郷土を愛し、かしこく、心豊かで、たくましい児童の育成」 1 理科を中心に「学ぶ」意欲を育てるとともに、校区の豊かな自然に積極的にかかわる態度を育てる。（確かな学力） 2 良さを認め、良さでつながる人間関係を作る。（豊かな心） 3 挨拶や体力づくりなどきびきび生き生き活動できる力を育てる。（健康な体） |
| 16 三津小学校 | 一人一人の良さや可能性を引き出し、基礎基本の徹底を図ると共に自ら学ぶ意欲、思考力、表現力、知識・理解などの資質や能力の育成を図る。 |
| 17 郷小学校 | 「心やさしく何事にも粘り強く活動する児童の育成」 ○自ら進んで学習に向かう子（学ぶ意欲・考える力・話す聞く力） ○思いやりの心を持つ子（相手の気持ちを考える力・命や体を大切にすること） ○たくましい体を持つ子（健康な体・挑戦する力・継続する力） |
| 18 橋小学校 | ○児童・保護者及び地域の期待に応える教育を推進する。 ○新しい時代を生きるにふさわしい児童の育成を目指す。 ○生涯にわたる学習の基礎を培うとともに、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指した教育実践を推進する。 ○創意ある教育計画、進行管理及び評価を行い、協働体制により教育実践を推進する。 ○家庭・地域社会との連携を深め、諸制度・組織を活用して、信頼と協力を基本にした教育活動が展開できるよう努める。 【めざす児童像】 1. たくましく元気な子（体） 2. 知恵を出しがんばる子（知） 3. なかよくやさしい子（徳） |
| 19 豊栄小学校 | 自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成 ・全教職員が一致した指導体制のもとに、保護者や地域の人たちと連携し、心豊かでたくましく、意欲的に学ぶ児童を育成する。 |
| 20 間人小学校 | ○みずから学ぶ子（知） ○友達を思いやる子（徳） ○生き生きと表現する子（体） |
| 21 竹野小学校 | (1) 授業改善を進め、学力向上を図る教育活動。 (2) 児童が、のびのびと活動に励む教育活動。 (3) 情報発信と関係機関との連携を推進する教育活動。 |
| 22 宇川小学校 | 「ともに学びあう宇川の子の育成」に努めるとともに保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。 |
| 23 吉野小学校 | やさしい心もち、かしこくたくましい子を育てる |
| 24 溝谷小学校 | 「挑戦意欲と心の安定」と「確かな学力」を培う (1) 確かな学力を培う基盤として、全教育活動を通して良好な関係づくりを重視し、豊かなコミュニケーションをとって心の安定や意欲的に挑戦する、我慢する、最後までやりとおす等の逞しい心と体をもった児童を育成する。 (2) 確かな学力をつけるため、ことばを大切に、よく聞き、意欲をもって学び、考える力や自分の言葉でのびのびと表現できる力、考える力を育む授業づくり及び学習環境づくりを進める。 (3) 教職員は豊かな人間性を身に付け、日々研鑽して個々の指導力、実践力を高める。 |

| | |
|-----------|---|
| 25 鳥取小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 不登校児道の未然防止 2 小学校の果たす役割への意識の高揚 3 人材育成 |
| 26 黒部小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 知、徳、体のバランスの取れた「生きる力」を育成する。 2 京都府教育委員会指定「京の子ども、夢・未来校（教育課題対応校）」、並びに京丹後市教育委員会研究指定校の研究実践の推進 |
| 27 野間小学校 | 保護者や地域の方々との信頼関係を土台にして、少人数であることを利点と捉え、児童一人ひとりに生きる力を育む。そのために、地域の自然や人材を十分活用し、体験を重視しながら教育活動の充実を図る。 |
| 28 久美浜小学校 | 確かな学力と豊かな心と体の育成を図るとともに、保護者・地域から信頼される学校づくりをめざす。 |
| 29 川上小学校 | 「さらなる高みへの挑戦」個に対応した指導意欲の喚起と継続をめざした指導 |
| 30 海部小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 児童に確かな学力を付ける。 2 教職員が組織的・協働的に活動する。 3 保護者や地域から信頼される学校づくりをめざす。 |
| 31 佐濃小学校 | 児童がお互いの良さを認め合い、学び合って持っている力を高めあっていく学校 |
| 32 田村小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 生き生き笑顔で学ぶ学校・児童 ・「意欲的に学び、努力する」児童の育成 |
| 33 神野小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 学力の充実・向上の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・思いを言葉で表現し、伝えあい・深めあいのある授業づくり 2 豊かな人間性と心身ともにたくましい児童の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・互いの違いを認めあい、励ましあい、苦手なことにもチャレンジする児童の育成 3 安全・安心な学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・集団の登下校の実施 4 地域とつながる学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「神野チャレンジ教室」「神野っ子セーフティネット」への協力 ・挨拶でつながる学校・家庭・地域連携による安心、安全の確保(付き添いボランティア・SGLとの連携) 5 信頼される学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学習参観懇談会の充実、家庭との連携、 ・学校評議員会・学校関係者評価の実施等 |
| 34 湊小学校 | ・自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く児童の育成 |
| 35 峰山中学校 | <p>【教育目標】</p> <p>「確かな学力を身につけ、こころ豊かで、たくましく主体的に生き抜く生徒の育成」</p> <p>【めざす学校像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとって開かれた学校 <p>【めざす生徒像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って生き生きと活動する生徒 ・人の気持ちがわかる優しい生徒 ・心のこもった挨拶ができる生徒 ・からだを鍛え、たくましい生徒 <ul style="list-style-type: none"> ◎確かな学力の育成 ◎豊かな心の育成 ◎開かれた学校づくり |
| 36 大宮中学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 生涯学習の基盤として、豊かな心とたくましく生きる力の育成をめざし、基礎基本を徹底し、確かな学力を付ける教育活動の充実を図る。 2 教養と社会対応力、思いやりの心を持つ視野の広い生徒を育成するため、学校内外での体験活動と生徒指導・教育相談を充実させる。 3 体育・スポーツ活動を重視し、挑戦することを通して向上心、忍耐力、協調性等の育成を図る。 4 地域・保護者連携を高め、開かれた教育活動を通して信頼される学校づくりを推進する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>教育活動に対する「結果責任」意識の高揚</p> |
| 37 網野中学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学び、確かな学力を身につける。 ・自尊感情を尊び、豊かな心を育てる。 ・心身を鍛え、克己心を養う。 ・地域に開かれた学校作りを進める。 |
| 38 橋中学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 学校教育目標 知・徳・体の調和のとれた発達を図るため、「基礎学力の定着」と「学力の向上」を図り「豊かな心」と「主体的に生きる能力」の育成に努める。 2 目指す生徒像 (1) 基礎・基本の学力を身に付け、目標を持って学習に取り組む生徒 (2) 郷土を愛し、思いやりの心を身に付けた生徒 (3) 何事にも「頑張り」「努力する」生徒 3 学力向上のための具体的目標 1年 授業規律と基礎学力の定着 2年 学習意欲の向上と学習習慣の定着 3年 学力向上と進路を目指した計画的・意欲的な学習態度 |
| 39 間人中学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 確かな学力を身につけ進路を切り拓く力をつける。 2 心の教育の充実をめざし、豊かな感性を身につける。 |
| 40 宇川中学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 質の高い学力の育成 2 進路指導の充実 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上 |
| 41 弥栄中学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 一人一人の生徒に確かな学力の定着を図る教育活動の推進 2 心の教育の充実を図り、心を揺さぶり、心を鍛え、主体性をはぐくむ教育活動の推進 3 自立への歩みを理解し、深い信頼と強い絆のもとに進める不登校の未然防止と解消 4 安心・安全で、開き、信頼される学校づくりの推進 |
| 42 久美浜中学校 | 「ふるさとを愛し、夢を持ち、賢く逞しく生き抜く生徒の育成」 |
| 43 高龍中学校 | <ul style="list-style-type: none"> 1 創意ある教育課程の編成 2 学力の充実・向上 3 心の教育の充実 4 特別支援教育の推進 5 開かれた学校づくり |

平成21年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立峰山幼稚園〕

| 幼稚園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動し、健康な心と体で生きる力をもった幼児の育成を目指す。 | | <ul style="list-style-type: none"> 自然体験を中心とし、異年齢交流や体験活動が活発にでき、保護者の理解信頼、保護者間の交流も強まり親と子の育ちの場としての幼稚園であった。 主体的な戸外活動や運動活動の活発化に向けての環境構成の工夫 挨拶運動の更なる推進と言葉によるコミュニケーション能力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 戸外活動、運動活動の充実による基礎体力の向上と望ましい基本的生活習慣サイクルを構築する。 挨拶運動の徹底と、言葉によるコミュニケーション能力の向上を推進する。 環境教育の推進、異年齢教育の推進で、優しさ・思いやりの心を育てる。 子育て支援活動を実施する。 |
| 評価項目 | 重点項目 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ○自然体験の充実推進 〈泥んこ太陽は友達〉 ・自然体験の構築で、豊かな感性と知的好奇心の醸成とたくましい体作りを目指す。 ・戸外遊びや運動遊びを充実させ、運動能力や体力を向上させる。 ・主体的で伸び伸びと遊ぶ力を育て、遊びを学びにつなげる。 | <ol style="list-style-type: none"> 米や野菜の栽培を行い、食育を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・米作り(泥んこ遊び、田植え、草取り、かかし作り、稲刈り、脱穀、餅つき等) ・野菜作り(種まき、親子で定植、収穫、クッキング) ・花作り(峰山高校園芸科生徒の指導で種まき、移植、公共施設へのプランターの貸し出し) 園外活動「森の幼稚園」を積極的に行い、豊かな感性と体力、持久力を養う。 <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回の園外保育 ・その季節ならではの場所を選定した自然体験を設定 ・保護者に自然体験の機会を提供(親子遠足、親子森の幼稚園) 園庭、山の運動場での遊びを奨励し、運動能力の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊び、運動遊びの奨励 ・薄着や裸足の奨励 ・主体的に遊びが発展する魅力ある環境の工夫 基本的生活習慣の確立を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・体を使った遊びを行い、望ましい生活サイクルの確立 | <ul style="list-style-type: none"> ○野菜栽培は、成長の感動を保護者と共有できた。収穫野菜のクッキング体験等で、食に対する関心が向上し、偏食解消にも役立った。 ○「森の幼稚園」は、好奇心や探究心、長時間歩行持久力も向上した。 ○直接体験や自然体験を通して、疑問を持ったり試したりすることで知的好奇心の芽生えが、主体的に環境に関わりを持つことで遊びに広がりが見られるようになった。 ○運動遊びの取組を活発に進めたことで、多くの幼児に、土踏まずの形成が見られた。 △戸外活動で幼稚園教育の目指す方向や、成果について保護者に具体的に知らせ、更に理解を求める。 |

| | | | |
|----------------------|---|---|---|
| | <p>○環境教育の芽生えの心の育成 <地球はみんなの宝物> ・もの・ひと・生き物・自然 とのかかわりを通し、思い やりの心を育てる。</p> | <p>(1) 飼育栽培活動を充実させ命の大切さについて学ばせる。 (2) 異年齢交流保育を推進し、他者を思いやる心を育てる。 (3) 豊かな体験活動を展開し、物を大切にすることを育てる。 ・浄水場、クリーンセンター見学 ・アルミ缶、エコキャップの収集 ・「(親子)クリーンデー (通園路ゴミ拾い)」の実施 ・「グリーンカーテン(ゴーヤ栽培)」</p> | <p>○合鴨の孵化や種からの栽培活動を通し、命の大切さを学んだ。 ○様々な体験の積み重ねが物を大切にすることにつながり、環境意識として定着してきている。 ○異年齢交流を活発に行ったことで、いたわりや憧れ、尊敬する気持ちが育ってきた。</p> |
| | <p>○言語力向上のとりくみ推進 <言葉で握手・育てよう言葉の力> ・話をしっかりと聞き、自分の思いを言葉で表現する力を身につける。</p> | <p>(1) 挨拶の奨励を家庭と連携して行う。 (2) 言葉で表現したくなるような体験の場を構築し、言葉を引き出す。 (3) 自分の経験したことや考えたことを話し伝え合う喜びを味わう機会を設定する。 (4) 絵本や物語に親しむ活動を多く設定する。</p> | <p>○毎月合言葉を決めて挨拶を意識づけたことで、全児に挨拶の習慣が身に付きつつある。思いを言葉で表現することでも成果が見られた。 ○目と目を合わせることを意識させたことにより、話を聞く態度の向上につながった。 ○異年齢交流を活発に行ったことにより、互いに刺激しあい、主体的に活動する姿が多く見られた。 △家庭での挨拶奨励やノーテレビデーなど、更に取り組みを発展させる。</p> |
| <p>子育て支援</p> | <p>○幼稚園開放の実施 ○家庭の教育力の向上 <親も子も育ちあう幼稚園> 子育ての基地として、保護者地域から愛され、信頼される幼稚園を目指す。</p> | <p>(1) 未就園児対象の幼稚園開放日を実施する。(月1回程度) (2) 親子での体験活動を設定する。 ・米や野菜の栽培 ・親子園外保育 (3) 子育てについての情報提供、相談活動を行う。 ・毎月1回、「園長とお喋り会」の実施 (4) 保護者同士の交流の場を設定する。 ・PTA「ママのおしゃべり会」の援助 ・PTAと共催行事の実施 (5) 子育て講演会を行う。</p> | <p>○幼稚園開放を実施し、園児との交流ができた。またPTAの「ママのおしゃべり会」への参加呼びかけで、未就園児保護者と幼稚園保護者の交流も実現した。 ○親子での体験活動の場を提供し、親子の絆作りや家庭の教育力向上につながった。 ○毎月1回「園長とお喋り会」を実施し、保育の意見交流や子育て相談の場となった。 ○保護者参加の行事等で交流の機会を設けたことにより、保護者間の絆が強まった。 △幼稚園教育理解を進める為にも、充実した幼稚園開放の在り方を模索していきたい。</p> |
| <p>次年度に向けた改善の方向性</p> | <p>・教育目標や指導の重点の取り組みの様子や成果等を、詳細に保護者に伝える。(特に5歳児保護者に) ・更に言葉でのコミュニケーション力の向上について取り組みを進める。 ・子育ての基地として信頼される幼稚園を目指し、保護者、地域との更なる連携、幼稚園開放の充実をめざす。</p> | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立網野幼稚園〕

| 幼稚園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・幼児自らが環境に意欲的にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。 ・自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 ・幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、課題に応じて基本的生活習慣や態度を育てる。 ・常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 ・地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の理解力や語彙数が気になる子が多かったが、絵本の読み聞かせの繰り返しや活動の中で話し合いを重ねていくことで、自分の言葉で思いを伝えることができるようになった。 ○キッズサッカーの指導を受け、動くことが楽しいと感じるようになり、通常の活動となってきた。風邪やインフルエンザで欠席する子どもも少なかった。 ○幼児の生活環境を把握し懇談会により理解してもらうとともに指導を重ね、家庭と協力して改善を図ることができた。△体を動かして遊ぶことは楽しめたが与えられている状況から脱皮することはできなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 信頼を基盤に活力ある園作りに努める。 (2) 新教育要領に基づく指導方針を見直し、遊びを通した総合的な指導と、多様な体験を基本に幼児の豊かな人間性の育成に努める。 (3) 基礎基本の力をしっかり身につけることを重点におき、「どきどきわくわくきらっ〜一人一人がかがやいて〜」をテーマに深化を図るとともに教師の専門性の向上を目指した研修を充実する。 (4) 家庭との効果的な連携に努める。 |
| 評価項目 | 重点項目 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 | (1) 信頼を基盤に活力ある園作りに努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・色々な機会を設け、教育目標や課題及び改善を保護者に説明する。 ①幼稚園の教育グランドデザインの小冊子を配布する。 ②1学期の子どもの姿を映像化し、具体的な教育の姿を知らせる。 ③個人懇談会、個別の家庭への訪問や電話相談などきめ細かに子育てについての相談、指導に当たる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な子供の姿を見せ、教育方針を知らせることで、理解を深めることができ、園や職員・活動に対して信頼や協力を得られた。 ○細かく関わることで保護者の意識を変え、幼児自身の変化へと繋がった。 |
| | (2) 遊びを通した総合的な指導と多様な体験を基本に幼児の豊かな人間性の育成に努める。 ・体を使って遊ぶことが楽しいと感じられ、自らが主体的に遊びに関わろうとするようになる。 ・絵本やお話に触れ、「聴く」ことに慣れると | <ul style="list-style-type: none"> ①キッズサッカーの指導を受ける。(年10回) 自主的に楽しめるようにする。 ②毎朝、マラソンや体操をする。 ③外で体育遊びのコーナー・時間を設定し、体育遊びができるようにする。冬は遊戯室に設定。 ④さくらさくらんぼのリズム運動を行い、体の隅々まで意識して動かす。 ⑤担任、園長や保護者・図書館の読み聞かせボランティア等、様々な人に絵本を読んでもらう経験を積み重ねる。 ⑥日々の遊びや役割等の話し合い、お休み調べなどでみんなの中で話す経験をしたり、生活の中で必要な言葉のやり取りの指導等を繰り返す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○時間や空間、遊びの種類を提供し、徹底して戸外遊びを入れた。時間を費やすことで、確かな活動へと繋がった。 ○友だちと教え合い仲間意識も育って、どうしたらうまくいか等話し合えるようになった。何より幼児が進んで運動へ向かうように変容し、動きも機敏になってきた。 ○どういう風に話せば相手に伝わるか、考えて話そうとするようになった。理解できる語彙数も増え、相手の話を聞こうとするようになった。 △休みを経ると、獲得した言葉での対応が後退することが多かった。 ○異年齢の活動を組み入れることで互いに興味・関心が |

| | | | |
|----------------------|--|--|--|
| | <p>ともに話し合いを繰り返し、自分の思いや考えが言葉で表現できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～ふれあい・つながり ・ささえあい (丹幼研・平成21年度府公立幼稚園研究指定発表園岩滝幼稚園との共通テーマ)～園内外の様々な人と触れ合い、相手を尊重し、労り協同する中で、自らが社会的存在であることに気づき、参加する取り組みをする。 | <p>、言葉でのやり取りに慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦活動の度に話し合ったり、家庭での様子や友だち関係等、子どもたちの話を十分聞く時間をもつ。 ⑧1年の園生活を振り返り、楽しかったことや頑張ったことの経験を話し合い、発表会で保護者へ向け発表する。 ⑨なかよしデーを設定し、意図的にクラス・異年齢交流を図る。 ⑩様々な園行事を縦割りのグループで活動する。⑪園外の保育所の友だちや高齢者や社会人講師との交流や指導を受ける。(5歳児交流会・高齢者者大学、丹後園との交流・お茶、お琴の体験など) | <p>わき、年長の活動に憧れ年少を労り可愛がるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の方々の協力で園内の限られた人間関係だけでなく、様々な人と触れ合って学び他人に対する優しい感情も芽生えた。 △インフルエンザの流行で、交流会に参加できなかった。 |
| | <p>(3)基礎基本の力をしっかり身に付けることを重点目標におき、研究の深化を図るとともに教師の専門性の向上を目指した研修を充実する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びの環境をどう整えるか、研究や工夫を行い、日々の研究に生かす。 ①重点目標をテーマに『エピソード研究』を行う。(毎学期) ②公開保育を行い、担任間で保育の方法・子どもの姿・支援指導の方法を学び合う。(3学期) | <ul style="list-style-type: none"> ○写真や指導の方法、姿容等資料を持ち寄り話し合った。公開保育でより深められ、自らの保育の見直しにもできた。 ○客観的に自分の保育を振り返ることができ、重点研究の工夫もできるようになった。 |
| | <p>(4)家庭との効果的な連携に努める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立の重要性を啓発し定着への取り組みをする。・生活の姿を保護者に伝え、家庭とともに育てていく。 ・クラスだよりや個人懇談会を設定して保護者との話し合いの機会をもつ。 ・親同士が互いに連携し学び合えるように支援する。 ①ママのおしゃべり会 ②読み聞かせボランティアの募集 ③『親父の料理隊』により、父親の子育て参加の機会を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○便りによる啓発と個別の指導をする。子どもたちと自己点検等も行った。日々の生活の見通しがもてるようになった。 ○ママのおしゃべり会では紙芝居作り等、ママの協同活動へと進んでいくことができた。 ○父親同士の交流の場となり、好評だった。 |
| <p>子育て支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・園開放により就園前の親子での保育参加を行い、子育ての安定を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市の広報やおたよりで宣伝活動を行う。・学校支援ボランティアの派遣を依頼する。園児と一緒に製作やリズム遊戯等で遊んだりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○年間10回開催した。親子ともに安心感をもてる一步となった。 △予算も人手もないことは負担が大きい。 |
| <p>次学期に向けた改善の方向性</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの保育の充実とともに「協同の活動」の取り組みを進める。 ・言葉の力の育成に向けて研究・指導を継続して推進していく。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [京丹後市丹後幼稚園]

| 幼稚園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|---|---|
| 生き生きと遊び心豊かでたくましい子の育成 1 ところ豊かで優しさがあふれるこども 2 意欲的に遊びを作り出し笑顔の輝くこども 3 人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言えるこども | | | <ul style="list-style-type: none"> ・一体化施設の活用、長所の探求 ・異年齢児の交流で、人と人とのつながり等、連携を通していたりや優しさ、思いやりの心を育む心豊かな経験をする。 |
| 評価項目 | 重点項目 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 | 1 異年齢の交流の取組 ア思いやりの心を育成 ・年少児に対する優しさ、責任感を育てる。 ・つながりを深め育ちあう仲間作りを進める。 イ言葉の力の向上 ・日常の中で、自分の言葉として使えるようにする。 | 1 合同散歩、遊びの交流(週1・2回) 2 行事を通しての異年齢交流 ・異年齢チームの取組(運動会) ・「仲よしオリエンテーリング」(秋の遠足・お別れ会・発表会・クリスマス会) ・生活や自由遊び ・共同制作・「お遊びパラダイス」・集団遊び 3 野菜の栽培を通してのつながり 4 言葉の力の育成 ・絵本読み聞かせ会(職員以外の人) ・ママの読み聞かせ、ボランティア 5 挨拶の奨励 ・「にこにこあいさつ」キャッチフレーズ掲示 ・園児保護者へ声をかけ、通信で広報 | ○年少児は年長児に憧れまねて遊ぶなど、交流を重ねるごとに豊かな関わりがもてた。 ○子どもたちに責任感と思いやり、助け合いなどの姿が見られ、やさしさも育ってきた。 ○年少児が、年長児の野菜栽培を間近で興味深く見ることで、栽培の話で年長児と交流があった。また、収穫野菜を給食食材として使用する際に、年長児が『今日の給食には僕たちが作った〇〇が入っています』と園内各クラスを回るなどしたことで、言葉を介してのつながりもみられた。さらに、子どもたちの変化を認めた保護者から、支持・支援の声も聞かれた。 ○教職員・ボランティアの読み聞かせ、絵本貸し出し(個人、図書室団体貸し出し利用)を通してたくさんの絵本に親しめ、まだ集中して聞く力が育ってきた。 △日常の挨拶については、“大きな声で”は一定の成果はあったが、自分からはできていない。また友達同士の広がりも弱い。 |
| | 2 家庭との連携 ・保護者との信頼関係を築き、相互理解を図る。 | 1 活動内容 降園時話し合い、ママのおしゃべり会(月1回) 読み聞かせ会、畑作り(親子で野菜栽培活動)、子育て講演会・懇談会 2 基本的生活習慣の獲得 「早寝早起き朝ごはん」キャラバン隊受入 生活点検表 | ○保護者同士の親睦を目的としたスタートであったが、回を重ねていくうちに活動が活発になり、中学校の畑を借用した畑作りへと発展できた。地域の方の協力もあり、子育て交流、親子の育ちの場を提供できた。 ○楽しみながら良い生活習慣を身に付けるきっかけ作りとなった △幼児教育の理解を図るという点では、不十分さが残る。 |

| | | | |
|----------------------|---|---|---|
| | <p>3 地域、学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に親近感と期待感を持ち、つながりをスムーズにする。 ・人とのさまざまな体験を通して生活を豊かにする。 | <p>1 学校との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問受け入れ《間人小学校2年生、宇川中学校体験学習（手作り遊具）》 ・学校訪問体験（間人小学校、間人中学校） ・職員間の連携（参観と懇談会） ・間人中の畑借用（野菜栽培、給食食材使用） ・行事参観案内発送 ・ボランティア受け入れ（網高間人分校生徒） <p>2 地域との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲、野菜栽培と合鴨放鳥の取組 ・園外保育 ・コスモス畑訪問 ・いちがお園（デイサービス）との交流 | <ul style="list-style-type: none"> ○園行事の参観（学校）を重ねることで学校との距離が近くなり、教員の存在を身近に感じたり、行事を楽しみながら進めたりするなど職員の意識に変化が見られた。さらに、保護者にも学校との連携の様子が伝わり、『就学に向けて安心できうれしい』との声が届いた。 ○学校の畑を借りたりして接する機会が増えたことで、中学生に声をかけてもらうなど、自然に関わりが増えてきた。 ○地域の方の協力でサツマ芋の苗さし、ジャガイモ掘り、合鴨放鳥などを体験することが出来た。また、地域の方に子ども達も元気に挨拶を交わすことが出来るようになり、『子どもたちの声が聞こえると元気が出る』など喜ばれ、地域の子どものとして守り育てられていることが実感できた。 ○いちがお園との交流では、2回目は自分から関わりを持つなど、主体性も出て成果を感じた。 △大勢の地域の方にまでは広がっていない。 △小学校との交流は、計画的に進めきれていない。 |
| | <p>4 職員の資質向上と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育や教育の専門家としての自己研鑽に努める。 ・幼保一体化施設としてスムーズな運営に努める。 | <p>1 研修会参加と報告会実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修会への積極的参加 ・幼稚園保育所研修の実施（毎月2回・定期的） ・園内研修（カリキュラム検討会、月反省会、行事検討会、特別支援） <p>2 幼保一体化施設のスムーズな運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル検討（月に一回） ・常に報連相を心がけ、朝礼、終礼で確認 ・保護者説明のしおり作り ・職員アンケート実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○複雑な勤務体制と職員人数が多いことから、朝礼、終礼で再確認を心がけたことにより、職員の手際よい連携が良かったなどの評価を保護者から受けた。 ○外部研修会への機会が増え、職員の資質向上へつながった。 △開園一年目ということもあり、細かいところまでの確認に時間がかかる。職員の連携が課題である。 △幼稚園教育を進めるに当たり、研修、話し合いが出来にくかった。 |
| <p>子育て支援</p> | <p>1 保護者同士のコミュニケーションの場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の支援を行う。 | <p>1 ママのおしゃべり会</p> <p>2 未就園児の積極的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園開放を行い未就園児との交流 ・支援センターに来ている子どもと園児の交流 | <ul style="list-style-type: none"> ○ママのおしゃべり会は5月後半より実施した。子育ての悩みを話したり、自主活動のきっかけ作りとなった。 ○行事や、日常保育の中で交流を図り、幼児教育の大切さを発信できた。 |
| <p>次学期に向けた改善の方向性</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校（中学校）との連携を進める。 2 異年齢交流を進める。（異年齢児への親しみやいたわり共感の育成） 3 言葉の力、表現力を育てる。（進んで挨拶、自分の言葉で話す、考えて行動するなど、自分の思いや考えを表現し行動できる力） 4 地域への情報発信の機会を一層拡大していく。（町域へ園だより回覧） 5 幼保一体化施設の中の幼稚園教育の進め方を検討する。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|--|--|
| 適切な教育課程を編成し、PDCAサイクルに基づく実践管理と組織的な教育実践により、児童にとって行きたくなる楽しい学校、保護者・地域から信頼される学校をつくる。 | | ○「授業づくり」「学級づくり」を重点とする教育活動の推進により、多くの学級で児童の学習意欲と生活規律が改善した。 △学力については、一部の基礎的・基本的内容や応用力・活用力等に課題があり、授業改善を一層進める必要がある。 | (1) 楽しく、わかりやすい充実した授業づくり (2) 居心地よい、安心と安定のある学級経営 (3) 生徒指導と不登校の未然防止に向けた取組の充実 (4) PTA等と連携した安心・安全の充実 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | 課題に向かって粘り強くやりきる児童を育成する。 (1) 学習の基盤となる力を育成する。 (2) 基礎的・基本的な学力を向上させる。 (3) 一人一人の学習状況に応じた指導を充実する。 | (1) 朝読書等の読書活動の推進 (2) すべての学級における基本的な学習規律の徹底 (3) 全員がめあてに沿って考え意見を出し合う授業づくり (4) 国語科を中心にした言語力の育成、言語環境の充実 (5) 少人数学級、少人数授業加配教員等を活用し、一人一人の学習課題や習熟の程度に応じた丁寧な指導の実施 (6) 学力分析を行い、ドリル学習・個別補習等の組織的实施 (7) 家庭学習の手引き等による家庭学習習慣の確立 | ○学習規律や学習態度が向上し、集中して学習に取り組む態度が定着した。結果として、学習の基盤となる力が身に付き、学習の質も高まりつつある。 ○指導方法や指導体制の工夫改善、ドリル・補習等の取組が有効に機能し、基礎学力の底上げができた。 △児童の学習態度と授業の質を更に高め、一層目に見える学力アップを図る必要がある。 △家庭での生活習慣・学習習慣の改善を進める必要がある。 |
| 生徒指導 | 思いやりと優しい心を持って助け合う児童を育成する。 (1) 児童を鍛え高める全校活動・学級経営を充実する。 (2) 生活規律を高める。 (3) 教育相談を充実する。 | (1) 高学年のリーダー性を鍛え、異年齢チーム活動を充実 (2) 「あいさつ」「人や場に応じた言葉遣い」を重点的に指導し、校内での心地よく規律正しい生活を徹底 (3) 授業、行事等のあらゆる機会を通じた人権教育の実施 (4) 早期対応と継続指導を重視し、問題行動や不登校を起こさせない生徒指導・教育相談体制の確立 | ○すべての学級が年間を通して安定的・肯定的に推移し、落ち着いた集団と児童個々の成長が醸成できた。 ○異年齢活動の中で豊かな関わりや思いやりが培われた。 ○問題行動や不登校の未然防止の取組が効果を上げた。 △児童の内面まで届き定着する「豊かな心」については、引き続き粘り強い指導の継続が必要である |
| 健康(体育)・安全 | 元気に遊び、規則正しい生活ができる児童の育成 (1) 健康で、自己管理のできる体づくりを進める。 (2) 基本的な生活習慣の定着を図る。 (3) 学校事故を減少させる。 | (1) 体育的行事と関連させ、日常的に自ら取り組む体づくり活動を実施 (2) 高学年を中心として校外の体育的行事への積極的参加 (3) 計画的・重点的な保健指導と共に、家庭と連携した生活改善の取組を実施 (4) 交通安全の指導徹底と共に、PTA、峰小校区安全ボランティアの会との連携を重視 | ○京丹後市小学校駅伝競走大会における本校歴代最高位入賞等、体づくりの取組の効果が上がった。 ○学校事故が半減し、教育課程外においても大きな事故なく1年が終了しようとしている。 ○自転車乗車時にはヘルメットを着用させる等、PTAと連携した交通安全への取組が進展した。 △食を含む基本的な生活習慣改善については、一層家庭と連携して粘り強く取り組む必要がある。 |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 特別支援教育 | <p>(1) 通常の学級において特別な教育的ニーズのある児童に対する適切な支援を進める。</p> <p>(2) 特別支援学級と通級指導教室の教育活動を充実し、校内における支援センターとして機能させる。</p> | <p>(1) 低学年指導補助教員、特別支援教育加配教員等を活用し、一人一人の発達課題、学習のスタイルやスピード等に応じた指導支援を研究・実施</p> <p>(2) 毎週1回を基本とした実態把握と支援計画の策定</p> <p>(3) 特別支援学級担任による通常学級の支援、スクールサポーターの活用</p> <p>(4) 通級指導教室担当者を中心とした通常学級に在籍する児童の実態把握と通常学級担任への具体的支援の実施</p> | <p>○通常の学級の中での特別支援教育が機能し、発達上の課題のある児童や、学習に対して特別な配慮の必要がある児童が学級の中で安定的に力を伸ばした。</p> <p>○特別支援学級・通級指導教室の指導が充実し、児童の確かな成長が見られると共に、保護者等の信頼が高まった。</p> <p>△より具体的・日常的な支援に結び付く個別の指導計画を作成・活用する必要がある。</p> |
| 研修(資質向上の取組) | <p>(1) すべての教員の授業力を高める。</p> <p>(2) ベテラン教職員の持つ指導技術や児童理解を若年教職員へ継承する。</p> | <p>(1) 指導教諭を教員の指導力を高める要として活用 アモデルとなる実践の発信と授業改善への指導助言 イ研究推進の中核として実践的な校内研修を推進</p> <p>(2) 児童全員で学習をつくり出す学習集団の育成を研究</p> <p>(3) 校内研修を教材分析や指導方法の具体的・実践的な学習の場に改善し、日々の授業につなげることを重視</p> <p>(4) 初任者指導教員やベテラン教員による若手教員への日常的なアドバイスの実施</p> | <p>○指導教諭を中心とした授業改善等の校内研修が機能し、教員の指導力向上に大いに結び付いた。その結果、授業の質が向上し、学級や児童個々の安定に結び付いた。</p> <p>○校内研修を通して、すべての教職員が同一歩調で教育活動を進めることができ、指導の効果が上がった。</p> <p>○初任者など若年教職員の資質能力の向上により、学校に活力が生まれている。</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>(1) 学校改善に、保護者・地域の声を活かす。</p> <p>(2) 外部の力を活用し、学校の教育活動の質を向上させる。</p> <p>(3) 学校関係者評価を機能させる。</p> | <p>(1) 定期的な授業・行事参観、日常的な家庭訪問、学級懇談会などの実施</p> <p>(2) 各種たより、ホームページ等による情報の積極的発信</p> <p>(3) 保護者・児童への評価アンケートを行い学校改善に活用</p> <p>(4) 学校評議員との連携を一層充実し、学校関係者評価も活用して学校改善を推進</p> <p>(5) 地域の人材、学校支援地域本部事業を活用する。</p> | <p>○リーフレット「峰小の教育」や各種たより、教育活動の参観・懇談等を通して、学校への理解と協力が得られた。</p> <p>○学校外部の講師、学校支援ボランティア等より、教育活動が充実した。</p> <p>△ホームページや学級通信等の一層の積極的活用により、保護者との連絡・連携を更に進めることが必要である。</p> <p>△学校評議員、学校関係者評価委員等との連携を質・量ともに高め学校改善に更に活かすことが必要である。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>(1) 学力向上に関する本年度の取組をつなぎ充実させる。特に、授業の質の向上と学習量の確保、家庭学習習慣の確立等の取組を更に追求し、客観的に見える学力のアップを図る。</p> <p>(2) 豊かな心を定着させため、「人と場に応じた言葉遣い」「あいさつ」など、児童の内面に届く指導を家庭と連携して一層重点的・継続的に進める。</p> <p>(3) 学力を高める授業づくりや児童の内面に届く指導ができる力量を身に付けるため、教職員研修を一層充実する。</p> <p>(4) 児童全員の自転車ヘルメット着用等、安心・安全づくりの課題を明確にして、PTA、峰小校区安全ボランティアの会との連携を進める。</p> <p>(5) 学校からの情報発信を質・量ともに高める。</p> | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立吉原小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|---|--|
| 豊かな未来をつくるために、『知恵の輪を広げ、心豊かに伸びていこうとする児童』(校歌の精神)の育成を主眼に、地域から信頼される学校をめざした教育を進める。 | | 「京の子ども、夢・未来校」・研究(国語科)発表会をとおして、児童一人一人の表現力を高めるための授業改善の取組が広がり、教師個々の実践意欲が高まった。 ・研究成果を生かした指導力の定着と個に応じた指導の工夫 | ・児童の学力充実につながる重点研究の検証実践 ・児童の主体性を伸ばすための学級経営・学習環境づくりに力を入れる。 ・教育活動や指導の改善に生かせる評価の工夫をする。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | 重点教科(国語科)の授業研究を通して、検証実践し、児童の学力の定着と表現力育成をめざす。 | 児童の主体性と表現力を育てる指導・授業づくりに努める。 ①授業実践力向上のために、年2回の研究授業を実施する。(一人学び・深め合い学習を柱にした授業、若手教員への援助) ②安定した学級経営を土台に、児童の表現力・コミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。(音声表現力を学年・全校発表で鍛えていく。) ③マナビータイム・放課後の補習等により未定着な内容や児童への指導を行う。 ④PTAと連携した家庭学習・親子読書の取組(読書貯金20,000冊) | ○年2回の全員の研究授業の実施を通して、学年に応じた一人学び・深め合いの授業を検証実践することができた。児童の表現力を高める取組が広がった。 ○PTAとも連携し読書冊数の掲示や読書月間、親子読書の取組を通して、意欲的に本を読もうとする児童が増えてきた。 ○未定着な内容や児童への対応を、個別の指導計画を基に授業やマナビータイム・放課後の補習等に取り組み、基礎学力の定着に向けて頑張れた。 △児童の主体性や表現力を育てる更なる指導が必要である。 |
| 生徒指導 | 生徒指導の3機能(所属・自己決定・共感)を重視し、積極的な生徒指導をする。 | 「学級づくりの指標」を基に、教職員評価と関連させ、PDCA化した学級経営を基本に実践を進める。 ①児童のコミュニケーション能力や意欲を引き出すために全校的な取組に力を入れる。(生活目標づくりと○○取組旬間の設定) ②心の教育(道徳・人権教育)を重視した取組を設定する。児童の変容を通して指導課題を焦点化し、喜びを共感させる取組をしていく。 ③学期毎の重点的な取組を設定し、児童の関わりをつくる。(1学期チーム遠足 2学期運動会 3学期大縄跳び) | ○教職員評価の自己申告書や学級経営案等の振り返りを定期的に設け、PDCAのサイクルで、改善に向けた取組ができた。中でも、コミュニケーション能力の伸びを感じる。 ○学期ごとに重点的な学校行事の取組を設定し、児童に山場のある行事を意識させることができた。(若手教員の指導力の向上) ○定期的に生徒指導部会を持ち、課題から次の月のめあてや取組を考えられるように各学年めあてに沿った取組を進めた。 △子どもの心に訴えかけるような人権教育の取組の工夫 |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 健康・安全 | 健康で安全な生活を、主体的に実践していく児童の育成をめざす。 | 健康・安全教育と給食指導の関連を考え、学級の活動を基本に児童課題の克服に向けた全校的な取組を推進する。 ①基本的な生活習慣の確立を図る取組（生活リズムづくり、フック物洗口） ②体力づくり（朝マラソン・朝縄跳び）と外遊びの奨励 ③安心・安全な学習環境づくり（交通教室、通学班会での指導、見守り隊） ④食の年間計画指導の実施（給食週間、学級給食とチーム給食） | ○生活習慣の確立に向けた長期休業後の点検活動の実施 ○食の年間計画に沿って他校の栄養教諭の協力のもと栄養指導を実施。また、性教育Q&A講座や保健・子育て講座設定、カウンセリングを実施した。 ○体力づくり、アスレチックの整備により、活発な児童の増加 △日常的に指導しているが、通学に対する児童の意識が薄い・安全な登下校指導や保護者の意識を高める更なる取組が必要。 |
| 特別支援教育 | 障害のある児童のニーズに応じ、支援と指導方法の改善をする。 | 「のびっこ」学級での実践を基にした要配慮児童への対応と支援・指導を学校全体に広げ、特別支援教育と丁寧な就学指導を進める。 ①児童発表や交流学习の場を設定し、相互に評価し合う。 ②個々の支援が必要な児童への見立て・支援の手立て検証を行う。 ③保幼小の連携を図り、就学指導を充実する。 | ○全校での特別支援学級の発表をとおして、特別支援学級への理解が深まった。 ○アセスメント票・個別の支援計画の策定が出来、支援が必要な児童への関わりが進んだ。 △発達検査をもとにした就学指導を継続してきたが、保護者の理解が得られにくい側面がある。 |
| 研修（教職員に資質向上） | 「楽しい学習体験の追究」をテーマに授業づくり（指導力の向上）を中心に研修を進める。 | 理論・実技研修を通して若手の人材育成を図る。 ①学習意欲を引き出す教科指導と表現力の向上を図る。 ②要配慮児童への対応や支援を基本に理論・事例研究を実施する。 ③理科・体育・図工・音楽・外国語活動等の実技研修の実施 | ○若手教員の指導力の向上を目的に、重点教科や実技教科の研修を実施することができた。（外国語活動・センター研修や市小研での研修の復講習、陸上運動・絵画指導） △取組途中での交流・実践の修正等、丁寧な進行管理が必要。 |
| 開かれた学校づくり | 保護者・地域と連携した安心・安全で開かれた学校づくりをする。 | 「一人一人の存在感のある楽しい学校」づくりのため、保護者・地域関係機関と連携した取組と丁寧な情報発信を行う。 ①学校公開・参観授業・ゲストティーチャー等の活用 ②ホームページの更新、学校便り・学級通信等で学校の様子や要望をまとめ、発信する。 ③教育活動アンケートや学校評価の発信（民生児童委員・学校評議員の学期毎の参観・懇談・見守り隊との連携）。 | ○学校の教育活動を授業参観や各便り等で公開・発信し、保護者・地域からの理解と協力を得た。 ○社会科や総合的な学習の時間でゲストティーチャーを招き、地域の方から学ぶ機会が多く持てた。 △学校アンケートやホームページの更新を通して、児童の安心・安全な学習環境づくりの協力体制を確保できている。更なる連携強化が必要。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 組織・運営、教師の指導、児童課題や学校課題を把握し、学力向上と望ましい人間関係を広げる教育活動を推進する組織運営に努める。 ①若手教員の指導力・実践力の向上に向けた教育活動に力を入れていく。 ②日々の教育活動の評価を通して、児童の学習意欲や職員の実践意欲を引き出し、学校課題の克服を図る。 ③特別支援教育や教育相談活動の充実を図る。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立五箇小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|--|---|
| 1 「心の教育」を最重点課題とし『いつでもどこでも生き生きと活動し楽しい学校』を目指した取り組みを進める。 2 全ての教育課程の中で3つの達成目標に沿った取り組みを計画し、PDCAのサイクルの実践を進める。 | | 1 課題のある学級の改善に向けた取り組みで、授業は成立するようになった。更に心の安定を図り授業に参加させる。 2 府小研研究協力校として授業研究を進め、全校的な取り組みが出来た。本年度は本発表に向けて更に研究の充実を図る。 3 学力診断テストなどを活用した学力向上の取組を進めることが出来た。更に授業改善を進め学力の向上を図る。 4 三つの達成目標は児童も意識できるようになった。更に課題意識を持った取り組みを進める。 | 1 心の教育の推進 生徒指導、人権教育・道徳教育の充実を図る。 教育相談活動の充実を図る。 2 学力の充実と向上 学習規律や家庭学習を確立し、授業を充実させる。 学力実態を把握し、課題に応じた教育を推進する。 3 健康安全教育を推進し、研究発表会を成功させる。 4 保護者・地域へ積極的に情報を発信し連携する。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | ア学力の充実・向上を図るために学習環境を充実させる。 イ診断テスト等を基に、個に応じた指導や授業改善を進める。 ウ特設時間を設け、補充学習に取り組む。 | ア授業研究を推進し、授業改善に努める。 イ言語力(表現力)を高める授業改善を図る。 ウ保護者と連携して家庭学習の習慣化と充実を図る。 エ学力診断テストの分析により、回復指導を徹底する。 オ放課後学習会を支援ボランティアの協力も得て行う。 カ特別支援教育の視点から、個に応じた教育を推進する | ○研究発表会に向けた授業研究を通して、授業規律について研修し、統一した基準で指導出来た。 ○学習計画表で家庭と連携し、個に応じた指導に努力出来た。 ○ボランティアによる放課後学習会で学習意欲を高めた。 △言語力を付けるための指導の充実。 △支援を要する児童に対しての指導法の研究を進める。 |
| 生徒指導 | ア「心の教育」充実に向けた生徒指導の取り組みを進める。 イ魅力ある学校生活を送れるよう指導し、不登校の未然防止と解決を図る。 | ア生徒指導部会を定例化し週毎の評価を明らかにしながら具体的な指導を進めていく指導体制を構築する。 イ不登校児童への取り組みを充実する。 ウ家庭との連携を深め教育相談活動の充実を図る。 | ○原則的な取組を通して、問題事象発生件数が減少してきた。 ○教育相談を通して児童の課題を整理し保護者と連携できた。 △更に全教職員が機能する指導体制の確立を進める。 △課題児童への個別指導の充実と家庭との連携を更に図る。 |
| 健康(体育)・安全 | ア健康安全に関する学習を進めて実践力の向上を目指す。 イ発達段階に応じて健康に関する総合的な認識を高め、実践的な態度を育成する。 ウ児童が安全な生活を営む正しい判断力と実践力を育てる。 | ア健康安全教育、「心と体」の学習の授業研究を進める。 イ日常活動(朝マラソン、縄跳び、全校遊び等)を通して、健康で自分らしく生きようとする態度(心)を育成する。 ウ安全に関する活動(安全な授業、怪我の防止、登下校、交通安全等)を通して安全な生活や環境について正しく判断し行動できる力を育成する。 エ家庭と連携し、児童の生活改善や安全の取り組みを進める。 | ○健康安全教育研究の授業研究・体力作りや安全指導・給食指導等を通して、健康安全に対する意識を高める事が出来た。 ○保護者への授業公開や各種たよりによる啓発で、保護者の意識を向上させることが出来た。 △日常活動の中で更に主体的に行動する児童の育成を目指す。 △更に家庭の協力を得られるように工夫していく。 △性教育の研修を深め、各学年の課題を明らかにしていく。 |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 特別支援教育 | <p>ア障害及び発達の遅れや配慮を要する児童について共通理解し発達を保障する取り組みを進める。</p> <p>イ関係諸機関と連携し、修・就学の指導の充実に努める。</p> | <p>ア特別支援教育研修を計画的に行い、配慮児童の実態交流をもとに指導課題を明らかにしていく。</p> <p>イ配慮児童のアセスメント票を作成し、児童課題の把握を進めると共に適切な指導を進めて行く。</p> <p>ウ関係諸機関（療育センター、巡回相談、通級指導教室等）保護者と連携した取り組みを進めて行く。</p> <p>エ就学指導該当児童に対する発達保障の取り組みを進める。</p> | <p>○研修を計画的に実施し、個別児童へ丁寧な指導が出来た。</p> <p>○配慮児童のアセスメント票の取り組みが出来た。</p> <p>○特別支援学級新設に向けて校内体制を確立できた。</p> <p>△より良い指導方法について研修をさらに進める。</p> <p>△保護者とより連携した取り組みを進める。</p> |
| 豊かな心の育成 | <p>ア一人一人を大切にする教育を推進し、互いの良さを認め合う集団活動の充実を目指す。</p> <p>イ身近な問題について主体的に考え解決しようとする児童の育成を目指す。</p> | <p>ア学級経営の充実を図り、教師と児童・児童相互の好ましい人間関係を育成する。</p> <p>イ道徳教育の要となる「道徳の時間の指導」を充実させる。</p> <p>ウ多様な体験活動を進め、地域人材の積極的な活用を図る。</p> <p>エ挨拶運動の充実を図る。</p> <p>オ身近な問題について自ら気づき、人権教育を推進する。</p> | <p>○教師が一致・連携した取り組みを進める中で、課題解決に向けた指導が出来た。</p> <p>○学級課題を踏まえた道徳の授業の取り組みが出来た。</p> <p>○児童会活動とも連携した人権についての取り組みが出来た。</p> <p>△日常的に肯定的評価を基にした人権教育を更に高めていく。</p> <p>△児童会活動を活性化し、自主活動を増やす。</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>アPTAとの連携を密にした取り組み（授業参観、学級懇談会、家庭訪問、個人懇談会等）を進める</p> <p>イ学校評価を活用し、PTA・地域・関係機関等との連携を深め、積極的に学校の情報を発信するとともに、一層の学校改善に努める。</p> | <p>ア学校行事、授業参観、学級懇談会、家庭訪問、個人懇談会等への積極的な参加を呼びかける。</p> <p>イ学校だよりを月2回発行し、校区内全戸にも配布し、学校の取り組みについて理解と協力を呼びかけていく。</p> <p>ウ学期末、行事終了毎にアンケートを実施し、結果を公開するとともに校内実践に生かす。</p> <p>エ地域の安全サポート隊と連携を進め活動の充実を進める。</p> <p>オ地域の区長会・公民館・民生児童委員・老人会などとの連携を深めた取組を進める。</p> | <p>○健康安全教育研究発表会に向けた取組では、広く公開し、PTAや地域からの支援を受ける中で充実した取組が出来た。</p> <p>○各行事終了時にPTAにアンケートを実施し、指摘された課題について改善の方針を示し、取り組むことが出来た。</p> <p>○地域の関係機関と連携し、各行事の実施ができた。</p> <p>△全教職員が、地域と連携した取り組みを進めることの大切さについての理解を深める。</p> <p>△地域の積極的な参加が得られるために、更に魅力ある教育活動を構想していく。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>本年度は「いつでもどこでも生き生きと活動し楽しい学校」になることを目標として、年間を通じて「楽しい学校」を評価基準としてきた。来年度も「3つの達成目標」を踏まえ、年間の教育活動の目標を整理して下記の内容を中心に、より具体的な取組を進めていく。</p> <p>○教職員の支援体制を充実し、課題のある学級の正常化と児童が生き生きと活動する学校づくりを進めていく。</p> <p>○学力診断テストの活用・授業改善を進める中で、基礎学力の充実と向上を進めていく。支援ボランティアの更なる活用を進めていく。</p> <p>○日常的に道徳教育の場を大切に、様々な活動場面で豊かな心の育成を進めていく。</p> <p>○特別支援学級の新設にあわせた理解教育の充実を進めていく。</p> <p>○全ての教育活動を進める中で保護者との連携を大切にした取り組みを進めていく。</p> <p>○関係諸機関と更に連携し、教育活動の充実を図る。</p> <p>○評価活動場面を丁寧に受け止め、学校改善に向けた取り組みを組織的に進めていくようにする。</p> | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立新山小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|-------------------------------------|--|--|
| 児童にとって「明日が待たれる楽しい学校」づくりを推進し、心身ともに健康な児童を育成する。 | | 児童が安心して授業や行事に取り組むことができる学級づくりを推進することにより落ち着いた学級となってきた。今後、活発に学習活動が展開できる学級づくりを推進する。 | 児童が安心して生活できる学級経営を基盤に、「ことばの力」を鍛え、学力の充実・向上を図る。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 教育課程 学習指導 | ○学習意欲を高める魅力ある学習指導を行い、学習内容を確実に定着させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・深い教材研究に基づき発展性のある学習課題を準備し、授業を行う。 ・「家庭学習の手引き」を作成し、保護者へ配布する。 | <p>○93%の児童が授業はわかりやすく楽しいと感じている。</p> <p>△基礎・基本を応用したり活用したりする学力を高めるための指導方法を開発する。</p> |
| 生徒指導 | ○生活上の諸問題を解決する力を培い、規律ある学校生活を送る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守って行動する態度、掃除や当番活動を責任を持って行う態度が育つよう学級指導を行う。 ・自己決定の場のある教育活動を増やす。 | <p>○93%の児童が時間を守って行動し、95%の児童が当番活動をしっかり行っている。</p> <p>△自己決定力を育てる指導方法を工夫する。</p> |

| | | | |
|-----------------|--|---|--|
| 健康 (体育)・安全 | ○家庭との連携を図り、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活実態アンケートを行い、児童の生活実態を把握する。 ・学校生活のリズムに切り替えができるよう、夏季休業後半、冬季休業後半から生活点検を行う。 | <p>○基本的な生活習慣の確立を話題に学級懇談会で話し合うことができた。</p> <p>△早寝の達成率 63%、早起きの達成率 58%と課題がある。</p> |
| 危機管理 | ○積極的に新型インフルエンザ予防を行い、地域への蔓延を防止する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席状況、発症状況を毎日確認し正確に状況を把握する。 ・校内の発生状況を保護者へ情報提供し、家庭・学校双方で状況に応じた予防策を迅速に行う。 | ○新型インフルエンザの罹患率は 40%であり、9 学級中 3 学級の学級閉鎖を行ったが、短期間での急激な蔓延を防止することができた。 |
| 特別支援教育 | ○一人一人の教育的ニーズに応じた、すべての子どもを支援する教育を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童について、個別の指導計画を作成する。 ・一斉授業において配慮すべき指導の仕方について研究する。 | <p>○アセスメント票や個別の指導計画を整備した。</p> <p>△一斉授業における特別な支援を必要とする児童に適した指導方法について研究する。</p> |
| 研修 (資質向上の取組) | ○新設された英語活動の授業を学級担任が行うことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語活動の研修回数を増やし、授業展開の仕方や効果的な学習活動について研修する。 ・英語活動の年間指導計画を作成する。 | <p>○92%の児童が英語活動の授業は楽しいと感じ、91%の児童が英語活動の授業に進んで参加している。</p> <p>△中学校での英語教育への接続について研修する。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>1 質の高い学力を身に付けさせるとともに学習することが楽しいと感じる児童を育成するため、引き続き指導方法の工夫・改善・開発に努める。</p> <p>2 良好な人間関係を育成するため児童と教職員及び児童相互の心のふれあいを大切にする学級経営の充実に努める。</p> <p>3 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、英語活動の授業研究を行うとともに年間指導計画を改善する。</p> <p>4 学力が高く且つ学習が楽しいと感じる児童を育成するため、教員の労力と時間を授業に集中できる教育課程を編成する。</p> | | |

平成21年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹波小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|---|---|
| かしこく仲良く元気よく、生き生き笑顔の児童の育成(学びいっぱい、優しさいっぱい、元気いっぱい)を目指した組織的な教育活動の推進 | | <p>○「感謝感動ありがとう」をキーワードに、多様な体験活動の場や、読書活動の充実等により、豊かな心の育成が図れた。</p> <p>△「聴く・話す」言語活動の弱さが克服できなかった。</p> | <p>「聴く・話す姿勢」「自ら考え自ら行動する姿勢」を全ての教育活動を通して、とことん追求する。</p> <p>家庭との連携による学習習慣の定着を図る。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <p>1 新教育課程に向けた対応</p> <p>2 学力の充実向上</p> <p>3 豊かな言語活動</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・丹波小学校の「聴く話す姿勢の《あいうえお》」の徹底 ・長期休業中の学習会、放課後補充の全校体制による実施 ・書く、読むなど、全ての教育活動で言語活動を活性化 | <p>○キーワードの児童や教職員への浸透による日常の教育活動の場における言語活動の活性化</p> <p>△時と場に応じた言葉遣いや声量の不十分さ</p> |
| 生徒指導 | <p>1 豊かな感性、想像力の育成</p> <p>2 人権意識、規範意識の育成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動において「自ら考え自ら行動」を柱として意識し、正しい規範、ルール、協力、思いやりなどの育成 ・読書、全校音楽、芸術鑑賞等による豊かな感性の育成 | <p>○地域の協力による読書活動のより一層の活性化と読書好きな児童の増加及び整然とした全校集会の開催</p> <p>△人権意識の希薄さによる不適切な言動や行動</p> |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 健康(体育)・安全 | 1 防犯や避難訓練による安全意識、危険予知能力の育成 2 「食」に関する意識の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ・交通教室、避難訓練や防犯訓練の計画的実施 ・食物への関心や命の大切さを学ぶための掲示や展示 ・保護者への自転車の安全に関する啓発の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○訓練の積み重ねによる安全に対する意識の高まり ○展示した食物や掲示物を意識して見る児童の増加 △ヘルメット着用が3割程度であり不十分 |
| 開かれた学校づくり | 1 積極的な広報活動や懇談 2 外部講師の積極的活用 3 定期的な学校への意見聴取 | <ul style="list-style-type: none"> ・こまめな情報発信と意見聴取 ・月1回の参観や懇談、家庭訪問等による情報収集 ・教科や総合学習、クラブ等の指導における地域人材の活用 | <ul style="list-style-type: none"> ○確実に月2回以上の学校便り発行とHPの更新 ○延べ40人以上の講師招聘、峰山町子ども囲碁大会優勝 △更なる地域人材の発掘と活用 |
| 危機管理 | 1 報告・連絡・相談・確認の徹底による危機の未然防止 2 地域や保護者等との緊密な情報交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内における事象や気づきの交流と指導方針の共通理解 ・個々の教職員の主体的な服務規律の確保 ・学校内外の情報収集や情報交流による児童や保護者の状況把握と必要に応じた具体的取組の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○教職員間の報告・連絡・相談・確認が定着 ○新聞報道や身近な事象を教訓としたこまめな注意喚起 △定期的に地域から情報が入るシステムの構築 |
| 教職員の資質向上 | 1 各種研修会への積極的参加 2 研究授業の実施による研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の担当している研修会への参加とその伝達講習の実施 ・思考力や表現力を高める授業のあり方を考える算数科研究 | <ul style="list-style-type: none"> ○算数科のみでなく多方面にわたる研修への参加と、伝達講習による学び合いや学習の進展及び6回の研究授業実施 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の徹底による学力の定着、読書活動や体験活動による豊かな心の育成をさらに進める。 ・思いや考えを言葉で伝え合い、児童同士が穏やかで温かな人間関係を切り結べる力を育成する。 ・保護者との連携を深め、学習意欲、人権意識、規範意識の高揚を図る。 ・積極的な公聴・広報により、地域に信頼される学校づくりをより一層推進する。 | | |

平成 21 年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立長岡小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--------------------------------|---|--|
| 1 基礎学力の定着を図る。 2 「考える力」を培う。 3 生徒指導の徹底 | | ○ 学習規律が確立し、学習の定着が一定前進した。 ○ 生徒指導が組織的に行え、問題事象が少なくなった。 △ 全ての児童に基礎学力の定着を図る。 | 1 基礎学力を定着させ、学習意欲を向上させる。 2 「考える力を育成」する指導方法の充実を図る。 3 規範意識の高揚を図る。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 教育課程 学習指導 | 1 基礎学力の徹底指導 2 考える指導の充実 | 1 授業時間における有効な繰り返し学習の充実 2 課題のある児童を対象に放課後・夏季休業中の補習 3 「書く」ことを随時及び特設で取り入れ、書くことが 苦にならないようにする。 4 総合的な学習の時間に考えさせる指導を充実する。 5 家庭学習の充実（個々の児童に応じた内容に） | ○ 全児童に好きな教科があり、また、以前より勉強ができるようになったと実感している児童が7割いる。 ○ 食育の指導を通して、考える活動が豊かになった。 ○ 書く取組により、ユニークな文が書けるようになったり、書く量が増えた児童が多くなってきた。 △ 一部の児童に基礎学力を付けることができなかった。 |
| 生徒指導 | 1 規範意識の高揚を図る 2 児童同士の連帯感を強める | 1 授業規律、学校生活のルールを厳守させる。 2 児童会活動の充実を図る。 | ○ 先生に注意されたらしっかり聞くという児童が増えた。 ○ 9割の児童が、よく遊ぶ友達がいると答えている。 |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 健康（体育）・安全 | <p>1 健康・安全の意識を高める</p> <p>2 スポーツの奨励</p> | <p>1 健康・安全について具体的に適時指導する。</p> <p>2 様々な競技会への参加、校内での大会を通して、体力の向上及びスポーツへの関心・意欲を高める。</p> | <p>○ 安全への意識付けにより、大きな怪我や事故がなかった。</p> <p>○ 市駅伝大会2位、府小学校陸上大会へ12名出場</p> <p>△ 体力テストの結果、低学年の持久力が弱く取組が必要</p> |
| 特別支援教育 | <p>1 学習支援が必要な児童について支援を行う。</p> | <p>1 教務主任がTTで学級に入り支援・援助をする。</p> | <p>○ 個に応じた指導ができ、対象児童の学習理解が進んだ。</p> <p>△ 担任外の教諭がいないと実施は困難になる。</p> |
| 研修 | <p>1 総合的な学習の時間の指導の充実を図る。</p> | <p>1 「考えさせる」指導方法を充実させる。</p> | <p>○ 事前・事後研究会、模擬・公開授業を通して、指導方法の一つのパターンを習得した。</p> |
| 保護者・地域との連携 | <p>1 学校の活動が見える取組をする。</p> | <p>1 学校だより、学級通信等で常に情報を伝える。</p> <p>2 行事を通して児童の成長を伝える。</p> | <p>○ 保護者との連携がとれた。長寿会との交流も進んだ。</p> <p>○ 運動会、音楽フェスティバル、学習発表会で、涙が出たという保護者があるほど感動を与えることができた。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>1 基礎学力の定着に向けて</p> <p>2 考える力の育成</p> <p>3 体力の向上</p> <p>4 様々な行事・取組の精選</p> | <p>→ 特に低学年での指導の充実が不可欠。低学年から低学力の児童を出さない決意で実践する。</p> <p>→ 考える活動を充実させながら考え方を習得させる指導方法の確立</p> <p>→ 日常的に、体力及び持久力を養う継続した取組を考案する。</p> <p>→ 上記のことが余裕を持ってじっくりと取り組めるように、児童に獲得させる目的の優劣に応じて精選をする。</p> | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|--|
| <p>学習指導要領の趣旨を踏まえ、「知・徳・体」のバランスの良い人格の形成をめざす。そのために、安定した学習環境を創り出し、楽しく学べる学校・地域と共に育つ学校の教育活動を協働的に進める。</p> <p>特に、児童一人一人に「生きる力」をつけていくために、指導力の向上に努める。</p> <p><めざす教師像></p> <p>1 児童に確かな学力をつけるために、自己研鑽に励み、事業力向上をめざす。</p> <p>2 児童と共に行動し、心をつかみ、よさを評価し生徒指導と学級経営の向上をめざす。</p> <p>3 児童の信頼と地域保護者の期待に応える。</p> | | <p><成果></p> <p>1 多くの児童一人一人に応じた教育に努め、「不登校を防ぐ取組」「不適應には適切な支援」など、教育相談部を中心に組織的に進める事が出来た。全校児童が楽しく学ぶ事が出来た。</p> <p>2 校内の安全指導（廊下を走らない、階段を飛び降りない）等に心がけてきた。怪我の防止につながった。</p> <p>3 学級経営評価及び各取組の評価、あるいは教職員評価等を活用し、学校全体の「やる気」や指導力の向上をめざし、全員レポート（一人一人の実践の振り返り）による交流が出来た。</p> <p><課題></p> <p>1 個々の任務を明確にした学校全体の取組にしていく。</p> <p>2 個々の指導方法の工夫改善を進めていく。</p> | <p>学校像Ⅰ「楽しく学べる学校」にしていくために</p> <p><具体的な目標></p> <p>1 学んだ事を表現していくために、全教育課程において「ことばの力」をつける。（言語活用能力の育成）</p> <p>2 豊かな人間関係を築いていくために、「行動を判断する力」をつける。（自己管理能力の育成）</p> <p>3 全校的な取組を高めるために、「全校で関わる力」をつける。（豊かな心の充実・向上）</p> <p>学校像Ⅱ「地域と共に育つ学校」にしていくために</p> <p><具体的な目標></p> <p>1 「登校班」の取組を通じたネットワーク作りを広げる。（児童の安全意識の醸成）</p> <p>2 地域の人材を活用した教育活動を進める。（開かれた学校づくりの推進）</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 教育課程 学習指導 | <p>1 学習の連続性を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活用能力の向上 ・ 計算能力の向上 <p>2 学習規律の定着を図る。</p> | <p>1 二学期より、読書時間を週時程に位置付け、読書に親しむ力をつける。（ことばの力の育成）また、計算力の向上を図るために、全校的な計算ドリルの作成・取組を行う。</p> <p>2 「話し方や聞き方」の基本を定着させる。</p> | <p>○読書の時間（5校時前）が定着した。また、午後の学習活動の集中にもつながってきた。</p> <p>○全校的なドリルの検証テストも実施し、定着度を見ていくことが出来た。</p> |
| 生徒指導 | <p>1 望ましい集団的な活動を行い、「お互いを認める関係」を高める。</p> <p>2 学校のきまりを通して、よい人間関係を作っていく。</p> | <p>1 児童朝会、児童会活動（異年齢活動をベースに）や学校行事を主体的に取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童朝会の発表の仕方、提案の仕方 ・ 学期に1つの大きな行事（運動会、全校遊び、大縄） <p>2 基本的な生活習慣の確立（学びにつながるリズム）やみんなが楽しく生活できる「きまり」を守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」の言葉を伝え合う関係 | <p>○全校的な取組から6年生のリーダー性が育ってきた。特に学校行事を全校的に動かしていく力がついてきた。</p> <p>○人権教育・特別活動（児童会）・生徒指導の合同で、「ありがとう」の言葉が少しずつ広がってきた。</p> <p>△毎日の学校きまり（名札をつける。あいさつや返事。等）の基本的な所に課題を残した。（習慣化）</p> |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 健康(体育)・安全 | <p>1 日常の衛生に対する意識を高める。</p> <p>2 遊びや運動に親しむ環境を整え、体力の向上を図る。</p> <p>3 命を守る登校班にしていく。</p> | <p>1 公衆的なマナーを定着してくために、「トイレの使い方」について、掃除を通して意識化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に、手洗いについて、「ブラック・ライト」を活用し、気づきから定着を図る。 <p>2 朝の体力づくりや外での遊びを広げる。</p> <p>3 77班の登校の仕方が良くなる取組を行う。</p> | <p>○主体的に校内マラソンや駅伝大会(6年)の練習を行い自己目標やチーム目標に向かって取り組むことが出来た。また、日々の健康意識も高めていくことが出来た。</p> <p>△地域から信頼される登校班を目指してきた。「集合・一列歩行・横断歩道での感謝のありがとう」に課題を残したが、意識は高まってきた。</p> |
| 危機管理 | <p>1 避難訓練の充実を図る。</p> <p>2 校内における「怪我の減少」に努める。</p> <p>3 危機対応における「連絡・報告・相談体制」を確立する。</p> | <p>1 学期毎に、火災・不審者・地震を想定して、実施における危機回避の心得を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に、訓練終了後の振り返りを丁寧に行う。 <p>2 学校のきまりと怪我の内容や場所について一斉の学級指導を繰り返しながら啓発をしていく。</p> <p>3 欠席の確認、怪我の状況などを「即」伝える。</p> | <p>○全教育活動に「命の大切さ」を位置付け、避難訓練や怪我の防止に取り組む事が出来た。特に、校内屋外の怪我の件数が激減した。</p> <p>△「雨天時の渡り廊下通行禁止」などの細かい約束が守れない時がある。</p> |
| 特別支援教育 | <p>1 個の教育ニーズに応じた支援教育を行う。</p> <p>2 特別支援学級や通級指導教室、障害のある児童への理解を深める。</p> | <p>1 教育ニーズに応じて、個別の指導計画にそって、その子のよさや能力を伸ばす。</p> <p>2 日常のふれあいを大切にしていく。</p> <p>3 全学級の理解教育を進める、</p> <p>4 配慮を要する児童について共通理解を図る。</p> | <p>○個の障害の実態や発達の状況を週1回の会議で交流し、共通理解を図りながら、個々への支援が出来た。</p> <p>○全ての学校行事等に参加させることが出来た。特に、修学旅行への参加は良かった。</p> <p>△具体的な指導の手立ての研修が必要である。</p> |
| 特色ある学校づくり | <p>1 学年会を機能させた学校づくりを進める。</p> <p>2 食育(知・徳・体・食の教育目標)の充実に努める。</p> | <p>1 22学級が日々の連携や行事のねらい等の共通理解を図り、個が生き生きと活動していく基盤を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に、学年主任を中心にした学年経営を行う。 <p>2 地域の素材を通した食文化を学び、食に対する興味関心を高める。</p> | <p>○全校的な取組に対して、「ねらい」を持って参加することが出来た。特に、弱い立場の児童や低学年の参加の仕方に工夫が見られた。</p> <p>○栄養職員のたよりやレシピの家庭への配布により、家庭地域との連携を行うことが出来た。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>1 「学校で学び、地域で育つ」教育を行う。</p> <p>(1) 「生命の大切」「感謝の言葉」「認め合う心」等の豊かな心を全教育課程に位置付けた教育を行う。即ち、確かな学力と豊かな心を互いにつなぎ合わせながら、知・徳・体・食のバランスの取れた教育を行う。(教育内容の充実・向上)</p> <p>(2) 更に学年会を機能させるために、各学年からの参加が可能な部会を設定し、部会と学年会との連携を図る。関連付けながら、効率的な学年会や研修のあり方を探り、時間外勤務時間の削減にも努める。(組織の活性化)</p> <p>(3) 地域の自然や文化、歴史を活用した学習内容や人材の活用等を図り、新しい分野の教育(自然科学や理数教育)や連携に挑戦していく特色ある学校づくりを進めていく。(学校改善)</p> <p>2 「保・幼・小・中」の連携を行う。</p> <p>「小1・中1」へのスムーズな連携を行うために、今日的な教育課題の研修や交流を行う。将来的には、教育課程等についても共同研究を行う。</p> | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮第二小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---------------------------------------|---|--|--|
| かしこく やさしく たくましく ～自分で考え、行動できる児童の育成～ | | <ul style="list-style-type: none"> ○不登校児童0人の継続ができた。 ○学力向上に関する取組課題をより焦点化して取り組む。 ○人間関係力の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ①自分の考えを理由をつけて言える児童の育成 ②友達の気持ちを思いやれる児童の育成 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○読み・書き・計算する力を伸張させる。 ○考える力を育てる。 意味や理由を考える授業・学んだことを利用、活用する授業づくり ○ことばを増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> ○計算・漢字・読書等、週程に位置づけ、繰り返し練習する。 ○全校計算大会・漢字チャレンジに取り組む。 ○家庭学習の充実(「家庭学習の手引き」の改訂)を図る。 ○自分の考えを、理由をつけて発言させる。 ○全校1万冊読書に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○読み・書き・計算する力の伸張が図れた。 ・各学年、2～約3万問練習し、計算力が向上した。 ・新出漢字、80%以上習得することができた。 ○自分の意見に理由をつけて、発言する児童が増えてきた。「考える」ことをいとわない児童が増えてきた。 ○全校で12,000冊の本を読んだ。 △読み・書き・計算する力を土台に、活用・応用力を伸ばしていく。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○不登校0人の継続 ○生活規律の向上 ○人間関係力の育成 ○あいさつをしっかりとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学級経営の充実(仲間づくり、班づくり、学習集団の育成、学級ルールづくり、作文や日記の交流) ○全校活動・学級活動の充実を図る。(児童会活動、学級活動と学校行事との連動) ○学校のルール・生活マナーを仲間と共に守る取組の充実を図る。(「社会律」の育成の強化) ・児童会・学級活動との連動 ・生活改善の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○不登校児童0人の継続ができた。 ○学校生活の約束を学年に応じて守ることができてきた。 ○肯定的で優しい言動が増えた。互いの理解に繋がった。 ○共通の感動体験、達成感や成功感のある行事を行い、児童が自信を深めた。 △地域での健全な過ごし方について、一層指導し、自律的な行動を促す。 |

| | | | |
|---------------------------------------|--|--|--|
| 健康 (体 育)・安 全 | ○体に関する科学的な認識を 育てる。 ○健康な生活をつくる。 | ○食育・安全教育の充実を図る。 ・日常の給食指導の徹底 ・「食」に関する授業の充実を図る。 ・「早寝・早起き・朝ご飯+家庭学習旬間」に取り組 む。 ○健康な生活づくりの取組 ・朝マラソン・縄跳びの取組 ・児童会廊下歩行の取組等 | ○全校児童皆出席の日、100日を達成した。 ○朝食欠食児童0人の達成ができた。 ○体や食に関する科学的な認識が深まった。 ○1週間に1日は給食の残菜がなくなるようになった。 △テレビゲーム・テレビ視聴時間平均2時間以内を目指 す。 |
| 開かれ た学校 づくり | ○学校の教育理念や指導方針 等理解していただく。 ○地域の人材を発掘し活用す る。 | ○学校便り・学級便り・ホームページの充実を図る。 ○月1回の授業参観の開催、地域住民の学校行事等の参 観を行う。 ○地域人材の発掘と活用、地域支援ボランティアの活用 を図る。 | ○学校の教育理念や指導方針等を理解していただくツ ールとして、学校便り・学級便り・ホームページ等を 機能させることが出来た。 ○地域人材の活用が、一歩進んだ。 |
| 危機管 理 | ○危機管理マニュアルの見直 しと確認 ○些細な事象に関しても、連 絡・報告・相談を怠らない。 | ○報・連・相を徹底し、状況把握と迅速な対応を図る。 ○管理マニュアルの見直しを図る。 ・マニュアルに従った管理、指導を徹底する。 ・「報・連・相」の徹底を図る。 | ○報・連・相を組織として機能させることができた。 ○学校事故、文書管理、学級費管理等マニュアルを生か し、対応できた。 |
| 職員の 研修 | ○授業力の向上を図る。 ○学級経営力の向上を図る。 ○保護者対応力の向上を 図る。 | ○教職員評価の充実を図る。 ○三者による日常の授業参観を通しての研修を行う。 ○授業研究会で研修する。 ○学級経営の理論・実践研修を行う。 ○家庭訪問の仕方の研修を行う。(伝える内容の確認と 報告等) | ○教職員評価による実践力の向上が図れた。 ○研修に若手教員が積極的に参加し、授業実践力・学級 経営力・保護者対応力を一歩向上させた。 △一層、児童課題を把握する視点を向上させる。 |
| 次年度 に 向け た 改善 の 方向性 | ① 「読み・書き・計算」力を一層高め、それを土台に課題解決的な学習の充実を図り、「考える力」を育成する。 ② 「他律」的な規範意識や言動を、「社会律」的なものに高めていく。 ③ 不登校0の継続と欠席日数を一層減少させる。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮第三小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|
| <p>一人一人が輝く学校</p> <p>(1) 児童一人一人の可能性を追求し、伸ばす。</p> <p>(2) 一人一人に居場所がある楽しい学校にする。</p> <p>(3) 家庭や地域に愛され開かれた学校にする。</p> | <p>○不登校児童が解消し、児童欠席日数が減少した。</p> <p>○保護者の要望であった大宮第三小学校区セーフティーネットが再稼働し、久住・五十河地区児童のバス通学が実現した。</p> <p>○対外的なコンクール・行事へ積極的に応募して結果を出し、児童に自信を持たせることができた。</p> <p>△保護者アンケートで3つの項目において目標を達成しなかった。</p> <p>△基礎・基本の学力の徹底と児童全体の学力の底上げを図る。</p> <p>△児童の運動能力の向上を図る。</p> | <p>(1) 保護者アンケート「子どもは学校が楽しいと言っている。」で100%を目指す。</p> <p>(2) 児童の欠席に細心の注意を払い、学校を休まない児童を育てる。</p> <p>(3) 基礎・基本の学力や体力を徹底して付ける。</p> <p>(4) 対外的な取組へ積極的に応募、挑戦して自信を付けさせる。</p> <p>(5) いじめや仲間外れの無い学級・学校をつくる。</p> |

| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
|-------------------------|--|---|---|
| <p>教育課程</p> <p>学習指導</p> | <p>1 確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童を育てる。</p> <p>2 小規模校・極少人数学級の利点を生かした授業を行い、基礎学力の向上を図る。</p> <p>3 極少人数学級の弱点を補う。</p> | <p>1 国語科を中心とした授業づくりのなかで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人学びの書き込みを生かした授業 ・自分の考えを自分の言葉で話す力を付ける授業 ・書く力を付ける授業の研究を行う。 <p>2 明確な目標を明示した全校統一の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で付けたい基礎学力を全ての児童に付ける取組 ・学習規律で統一できる部分は統一する取組 ・漢字まとめのテストと漢字がんばり教室の実施 <p>3 人との関わり合いを広げる取組を行い、極少人数学級の弱点を補う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校暗唱、他学年との音読交流会の実施 ・外への積極的な挑戦 ・地域人材や学校支援ボランティアの積極的の活用 | <p>○全員発言や丁寧な個別指導ができ、一人一人を大事にした極少人数学級の良さを生かした授業展開ができるようになった。</p> <p>○授業の中や行事作文、感想文など「書くこと」を大事にした。児童は、抵抗なく書けるようになり要約する力が付いた。</p> <p>○全校統一した取組では、目標を明確にし、数値化したことにより、全教職員が共通理解をして進めることができ、ほぼ目標達成できた。</p> <p>例：各学年、配当漢字の全てが読め、9割の漢字が書ける。</p> <p>○学級内にとどまらず、他学年や全校、さらに学校外で発表する機会を持つことにより、自信や他者理解につながった。対外的なコンクールにも積極的に応募し、昨年度よりさらに多くの賞を取った。</p> <p>△「話すこと」については、文末まで話す力が付いてきたが、場にあった声の大きさや明瞭な話し方に課題がある。</p> |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| 生徒指導 | <p>1 いじめや仲間はずれのない学級や学校をつくり、学校が楽しいと思える児童を育てる。</p> <p>2 楽しい学校生活を送るためのルールやマナーを行動に表せる児童を育てる。</p> | <p>1 生徒指導部を核として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席者の状況、気になる児童の状況を克明につかみ、手だてを打つ取組 ・ 月目標を設定して、社会規範意識を高める取組を児童会と連携して行う。(あいさつの励行・時間励行) <p>2 児童・教職員の人権意識の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回の人権旬間の取組 ・ 人権アンケートの実施 ・ 教職員研修会の実施 | <p>○生徒指導部が機能したことにより、問題に対して即動け、解決できたことが多かった。いじめや仲間はずれの深刻な事象がなかった。</p> <p>○全校の取組とは別に「月目標」の学級取組を決め、毎月成果と課題を振り返ることにより、規範意識の向上が見られた。地域からも挨拶がよくなるようになったという声が多くあった。</p> <p>△保護者アンケートにおいて「子どもは学校が楽しいと言っている。」100%を目指していたが、85%に止まった。保護者にも返し、学級懇談会で話し合ったが、深刻な理由からではなかった。</p> |
| 健康(体育)・安全 | <p>1 運動能力の向上を図る。</p> <p>2 自己管理できる児童を育て欠席日数を減らす。</p> | <p>1 年間を通した朝の体力づくり(朝マラソン・縄跳び)の結果を校内マラソン大会や市小学校駅伝競走大会につなげる。</p> <p>2 家庭と連携して基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早寝・早起き・朝ご飯の取組 ・ 肥満児童への組織的な指導 | <p>○体育部の仕組みと児童の頑張りにより、持久力がアップし、校内マラソン大会や市駅伝大会に成果として現れた。</p> <p>○児童の欠席日数が激減した。</p> <p>○教育相談部を中心にした保護者も巻き込んだ肥満児指導により、改善が見られた。</p> <p>△PTAと連携した早寝・早起き・朝ご飯の取組で課題が見えたが、家庭まで変えることができなかった。</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>地域の力を学校教育に活用し、児童の人間関係の幅を広げる。</p> | <p>1 総合的な学習において地域の人的の活用を積極的に図る。</p> <p>2 大宮第三小学校区セーフティーネットと連携した取組の充実に努める。</p> <p>3 学校支援ボランティアの活用を積極的に図る。</p> | <p>○学校支援ボランティアについては、学習支援、クラブ活動支援など年間を通じて多くの力を借りた。</p> <p>△地域の方を講師として地域の自然・農業について学ぶことができたが、活用は学年により偏りがあった。</p> |
| 研修(資質向上の取組) | <p>教員の資質能力・授業力の向上を図る。</p> | <p>1 重点研究(国語科)を中心とした校内研修を実施する。</p> <p>2 放課後の職員室を研修の場とする意識を育てる。</p> <p>3 研究授業以外にも積極的に授業公開をする体制を作る。</p> | <p>○放課後の職員室で聞き合う・学び合うことが日常化され、若い教員の授業力が向上し、自信を付けた。</p> <p>△自ら進んで授業公開する教科が限られた。</p> |
| 特別支援教育 | <p>教育的支援の必要な児童の実態を把握し、適切な指導・支援を組織的に図る。</p> | <p>1 学力に課題を有する児童への丁寧な個別指導と組織的な対応</p> <p>2 登校しぶり傾向児童への組織的な対応</p> | <p>○学力課題を有する児童に丁寧な個別指導を組織的に行うことにより回復が顕著に見られた児童もいる。</p> <p>△定期的な保護者懇談を実施し、学校と保護者との連携は進んだが、保護者の考えを変えるところまではいかなかった。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>児童の主体性・自立性を高める取組(自信とやる気を育てる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の主体性を育てる学習の推進 ・ 児童の自主・自立をはぐくむ生徒指導と特別活動 ・ 学校外への積極的な挑戦 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) | |
|--|--------------------------------|---|--|---|--|
| <p>「やさしく かしく たくましく」</p> <p>学校経営方針中期目標には、6年間の教育活動を通して「確かな学力を身に付けるとともに、思いやりの心を育み、健康や安全に対する実践力を育てていくことへの願いを込めている。</p> | | <p>【成果】児童へのアンケート結果からも児童同士の良好な人間関係づくりを通して安定した学級経営となっており、学校生活への満足度は高い。「勉強が楽しい」とする回答も多く、学習活動への条件整備は整いつつある。</p> <p>【課題】夕方に忘れ物を取りにくる子が大変多い。言葉使いの乱れがあるためにトラブルも発生。衣服類の忘れ物も多く、自分の持ち物に対する自覚も不足。校外での自転車の乗り方、交通マナーとともに、ヘルメットの未着用など、全体的に規範意識に課題が見られる。</p> | | <p>①教師と児童及び児童同士の良好な関係が築ける教育活動を行う。</p> <p>②各学年で学習すべき内容の確実な定着を図り、学年間の円滑な接続を行う。</p> <p>③各教科、道徳、特別活動等を通して、社会生活に必要な規範意識を高める。</p> <p>④健康や安全に対する意識を高め、心身ともにたくましい児童を育成する。</p> | |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | | 成果と課題(自己評価) | |
| 教育課程 学習指導 | ○学年で学習すべき内容の確実な定着と活用力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画の中に形成的評価を取り入れる。 ・学習の定着や習熟を図れる時間の確保と個々の児童に応じたきめ細かな対応を行う。 | | <p>○授業規律も一定確立しており、児童は自己肯定感があり、読書、国語、算数への関心意欲も高い傾向にあることが各種調査結果に現れている。</p> <p>△学習への関心意欲は高いが、そのことが学習内容の定着につながっていないことが各種テストに現れている。また、活用力の面においても指導の不十分さが見られる。</p> | |
| 生徒指導 | ○児童同士の良好な関係が築ける教育活動の推進と規範意識の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ・互いの違いや良さを認めあえる学級づくりを行う。 ・異年齢集団による遊びや行事の取組を通して良好な友人関係の形成と規範意識を高める。 ・PTAや地域と連携し交通マナーの向上を図る。 | | <p>○約96%の児童が「学校生活が楽しい」と回答するなど、児童同士の良好な関係が築かれ、どの学級も安定した学級経営となっている。</p> <p>△校内では忘れ物が多いこと、校外では自転車の交通マナーの自覚を高めていくことが今後も必要である。</p> | |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 健康(体育)・安全 | ○健康や安全に対する意識を高め、心身ともにたくましい児童の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と協力して学習の基盤である健康や安全への意識を高める。 ・体育、スポーツ活動を通して体力・競技力の向上を図る。 | <p>○過去3年間を比較すると、健康や安全への意識が高まり年々怪我や事故等も減少してきている。</p> <p>△能力は高いが、長期的な視点での取り組みが弱く、体力、競技力等も期待通りの結果となっていない。</p> |
| 研修(資質向上の取組) | ○学力向上研究指定校(文部省府教委)を生かした研究推進体制の確立と指導力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・府総合教育センターと連携した授業研究を推進する。 ・大学教授等を招聘した研修等を行う。 ・校内研修を通して教員個々の指導力の向上を図る。 | <p>○年間27回の校内研究会や年間6回の授業研究を通して、研究方向や研究の視点が明確になるとともに、徐々に若手教員の指導力も向上してきている。</p> <p>△研究・実践と児童の学力の定着・向上とを一体として捉えていく視点が不十分であった。</p> |
| 特別支援教育 | ○特別支援教育の理解と場に応じた対応力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達等に課題のある児童及び保護者への教育相談活動を充実させる。 ・発達障害の子を取り込んだ学級づくりとともに、日々の授業の工夫を行う。 | <p>○学校と保護者とが同じ視点で取り組めるように担任(学校)と保護者との関係強化に努める中で、安定した学校生活をおくることができた。</p> <p>△一部ではあるが、学校と保護者とが一致した方向で取り組めない家庭があり、今後も粘り強い対応が必要である。</p> |
| 開かれた学校づくり | ○保護者・地域との連携を進める中で、本校の教育への協力支援体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級だよりの発行、懇談会等を通して、保護者や地域と課題を共有し、課題解決を図る。 ・ホームページの更新などを通して、タイムリーな情報を保護者や地域に発信し、本校教育活動への関心を高める。 ・学校支援ボランティアの活用を増やし、本校への協力・支援体制の充実を図る。 | <p>○授業参観への出席は多いものの、懇談会の出席が少なかったが、今年度は関心も高まり増加してきている。</p> <p>○定期的なホームページの更新とともに、PTAのブログによりタイムリーな情報提供に努めた。</p> <p>○読み聞かせ、介護、ソロバンなどボランティアの活用が進み、多様な角度からの支援を受けることができた。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>①研究指定校として、研究・実践と児童の学力の定着・向上とを一体として捉えた研究活動を推進する。</p> <p>②自分の持ち物への自覚を高め、忘れ物や落とし物の減少を目指す。</p> <p>③PTA、地域との協力を得ながら、交通マナーの向上を図る。</p> <p>④保護者、教職員(校長、教頭、教務主任)とで構成する学校関係者評価委員会を校務分掌に位置づける。</p> | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|----------------------|--------------------------|--|---|
| ○心やさしく進んで学びきらり輝く子の育成 | | ○学校生活の規範意識や児童の一体感を高めることが出来た △全体的には、学力を高めることが出来たが、どの子にもという点では、まだ弱さが見られる。 | ①チームワークで教育活動を進め、自分で考え、意欲的に行動する児童を育成する。 ②すべての児童の学力の向上に努める。 ③教育実践モデル校を生かし指導力の向上を図る。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | 1 言語活動の充実 2 学力の定着 | ①朝会や学習発表会の表現活動の充実を図る。 ②読書活動の充実を図る。 ①授業の展開の工夫し活発な授業づくりを進める。 ②校内の診断テストを実施し、定着を検証する。 | ○集中して、人の顔を見て、体を止めて聞くようになってきた。学習発表会も感動的なものであった。 ○読む力を高める授業づくりの研究をし、研究発表会も実施した。授業の指導力向上が見られた。 △どの子も、学力の定着という点では、努力を要する。 |
| 生徒指導 | 1 自律的な学校生活の確立を図る。 | ①生活に関わる指標を設定し、月毎の評価・改善を進める。 ②児童会に月毎の目標を持たせ、学級での取組を進める。 | ○児童のあいさつの励行、チャイムで行動する、集合整列などのリズムある生活の向上が図れた。 △丁寧な言葉遣いの指導が継続して必要である。 |
| 健康(体育)・安全 | 1 健康の増進 2 安全の確保 | ①給食を残さず食べる取組を進める。 ①登下校の安全の一層の充実を図る。 | ○殆ど毎日残菜を出さずに食べることが出来た。 ○下校時刻を守りさっさと帰る点が向上した。 |

| | | | |
|---------------------------|--|--|---|
| 特別支援教育 | 1 こだま学級の取組の充実 2 通級指導教室の取組の充実 | ①その子にあった指導を行い学力・社会性を伸ばす。 ①その子にあった指導の充実を図る。 | ○初めて学習発表会で劇を発表し集団の力を示した。 ○発達障害の児童のきめ細かい指導がより進んだ。 △発達障害児の理解の研修が引き続いて必要である。 |
| 研修 (資質 向上の 取組) | 1 今日の授業改善の内容を理解し実践方法を身につける。 | ①研究授業・公開授業を計画的・継続的に進める。 ②研究発表会を実施し取組のまとめをする。 | ○「読む力」を高める授業の在り方について、全員が学期1回の公開授業を実施して力量を高めた。 ○多数参加の研究発表会を実施して、取組をまとめた。 |
| 開かれた学校づくり | 1 情報を適切に保護者に伝える。 2 保護者・地域との連携に努める。 | ①学校便り、学級通信の定期的な発行、取組のお知らせを適宜発行する。 ①適切な情報の提供に努める。 ②地域のボランティアの活用を図る。 | ○タイムリーに学校のお知らせを配布し、定期的な学校便り、学級通信の発行、ホームページも改善した。 ○読み聞かせボランティアを活用した。 △ホームページの更新は、改善できたが、更なるスピードアップが、必要である。 |
| 次年度に 向けた 改善の 方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、児童の自律的な学校生活の向上により、チャイム行動などきびきび行動する力がつき、友達関係も随分よくなってきた。また、あいさつ、授業での発表、朝会等での発表など表現力も伸びてきた。その上にたって、児童の仲のよい関係を一層育み、「われら南小っ子」の気持ちを高め、自分たちで課題を解決しあう力を伸ばし、意欲的・チャレンジ精神に満ちあふれる学校を目指したい。 ・元気・根気で活発な活動を高め、授業作り、学級作りを一体的に進め、家庭学習しっかりさせることを結びつけた指導により、学力の一層の向上を図る。 ・学力として重要な読む力の指導の在り方についての研修が教育実践モデル校の取り組みにより進展し、教員の指導力も少し進展したので、そのことを一層授業づくりにいかせるように努め、児童の生きる力、学力向上につなげていきたい。 ・読書習慣の確立に力を入れたい。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|--|--|
| <p>「郷土を愛し、かしこく、心豊かで、たくましい児童の育成」</p> <p>1 理科を中心に「学ぶ」意欲を育てるとともに、校区の豊かな自然に積極的にかかわる態度を育てる。(確かな学力)</p> <p>2 良さを認め、良さでつながる人間関係をつくる。(豊かな心)</p> <p>3 挨拶や体力づくりなどきびきび生き生き活動できる力を育てる。(健康な体)</p> | | <p>【成果】「目と耳と心で聴く」指導を進め授業や集会など集中力が高まり、静かに聴ける態度が育った。環境教育を進め、ものを大切にする姿勢が生まれた。挨拶運度を続け「どこでもだれにも自分から」挨拶できる児童が増えた。</p> <p>【課題】学年に応じた学習のルール(島小ルール)作りを更に高め、授業を大切に、学力充実を図る取組をより一層進める。</p> | <p>1 「学ぶ」学校づくり 授業を大切にする。「体験」「考える」をキーワードに児童に興味のわく学習を進める。基礎学力の定着を図る。</p> <p>2 「信頼」の学校づくり 心を育てる指導を大切にする。児童の良さに目を向け良い行いを励ます指導を続ける。</p> <p>3 「躍動感」のある学校づくり 毎日やるべきことをやりきる指導を続ける。児童が日々楽しみになる活動をつくる。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の徹底を図り、確かな学力をつける。 考える力を伸ばす。 関わる力(コミュニケーション能力)を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 読書タイム、チャレンジタイム、放課後補充学習など、個に応じた指導を意識し、毎日の学習を積み上げる。 すべての教科で体験活動を重視し実感の伴った理解を図るとともに、授業の中に「考える」場面を意図的に入れる。 考えをもち、書き、話し、表現することを大切にする。 | <p>○日常活動の充実により、日々の学習の積み上げができた。</p> <p>○理科を中心としながら体験活動が多くなり、児童が意欲的に学ぶ場面が多く見られた。</p> <p>△落ち着いて学習を進められるが、声の大きさなど「島小ルール」(学習規律)の定着が今一步。</p> |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 良さでつながる友人関係づくりを目指す。 全校児童が一体となって生き生きと過ごせる活動を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の活躍の場があり、認められる活動を進める。 遊びづくりをとおして笑顔のあふれる学級にする。 児童会行事など全校活動や異年齢活動を進める。 役割を自覚させ、責任をもって取り組ませる。 | <p>○毎日のスピーチ、日常的な作文を読み合う活動などをとおして児童同士の理解が進んだ。</p> <p>○全校遊び、学級遊び等、教員も進んで遊びの中に入り、心のつながりが深まった。</p> <p>△言葉使い、きまりを守るなどに若干の課題が残る。</p> |
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> きびきび、生き生きと活動できる児童を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> いつでも、どこでも、誰にでも、大きな声で「あいさつ運動」を進める。 朝の体力づくり(朝マラソン、朝縄跳び)を年間とおして進める。 登下校を集団下校にし、安全な通学をめざす。 | <p>○年間をとおして「あいさつ運動」を進め、様々な機会に児童に働きかけることができた。</p> <p>○朝の体力づくりが習慣化しリズムができた。学年ごとにめあてをもった取組ができた。</p> <p>△下校時の歩き方に課題があり、指導を繰り返したが十分な改善が図れなかった。</p> |

| | | | |
|------------------------|--|---|--|
| <p>研修（指導力の向上）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・府小研の理科研究協力校、センターの理科共同研究校としての活動を進める。 ・初任者研修を活用し全教員の指導力の向上を図る。 ・日常的な授業研究の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・理科研究を中心として、教員自らが教科研究の楽しさを感じる研究活動を充実させる。（実験、実習を重視した研究活動） ・身近な自然の事物・現象に積極的に働きかけ「なぜ」「どうして」「不思議」を感じる心を育てる。（教員も児童も） ・初任者研修を可能な限り全体の研修とする仕組みを考える。 ・日常的な公開授業の取組を進め、教材研究や授業づくりについて、互いに研修し合う雰囲気をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○実験、実習、観察等を中心とした研修活動となり、具体的な内容で話し合いが進み、教員の研究意欲の向上や指導力の向上につながった。 ○初任者研修を全職員が関わるよう進め、教員の研修の機会が多くなり全体の指導力向上につながった。 ○活発な公開授業、授業後の研修が無理なく実施でき、教科研究の大切さが実感できた。 |
| <p>特別支援教育 教育相談</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童に目と手が届く指導の充実を図る。（ユニバーサルデザインの教育） | <ul style="list-style-type: none"> ・困っていたり、悲しんでいたりと児童を見逃さない目と心を教員が持てるよう研修を進める。 ・不登校、ADHD等の研修を進め、児童理解が進むような研修を進める。 ・児童の実態交流を定期的に実施するとともに、課題の大きな児童への対応を組織的に進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○一緒に遊ぶことやなにげない児童との会話を大事にすることで、心をつなげ児童理解が深まった。 ○登校しぶり等、教育相談部を中心に組織的に対応することができ、児童の発達や状況の改善につながった。 △課題の大きな児童への対応が難しく、事例をもとにした職員研修に課題が残る。 |
| <p>開かれた学校</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会を利用して情報発信を心がける。 ・地域から学ぶ取組を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級だより、ホームページなどで学校の様子を知らせる。 ・丁寧な家庭訪問を心がけるとともに、保護者等の要望や指摘について即対応していく。 ・PTAと連携し、授業参観、学級懇談会等、学校に来てもらうことを増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> ○たよりやホームページの充実が図れた。 ○保護者の指摘等に迅速に対応できた。 ○授業参観等、学校にきてもらう機会を増やした。回を重ねるごとに、保護者の参加が多くなった。 △地域ぐるみで、子どもの安全を守る取組を更に進める必要がある。 |
| <p>次年度に向けた改善の方向性</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1 1時間1時間の授業を大事にする取組を進める。児童がさらに意欲的で主体的に学習を進められるよう楽しい授業を創造する。また、学力を高めるための授業改善を進める。「体験活動」や「考える」授業の充実を図る。学習規律（島小ルール）を定着させる。 2 児童の良さを引き出し、良さを認め、良さでつながる友人関係を構築する。一人一人丁寧に声をかけ関わる取組を進める。児童会や学級で児童同士の心をつなげる取組を推進する。不登校など課題の大きな児童への対応と児童理解の研修を進める。 3 登下校、挨拶、掃除など日々の活動をより充実させる。 4 遊びづくりを進め、児童が楽しいと感じられる学校になるような取組をする。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立三津小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|--|---|
| 一人一人の良さや可能性を引き出し、基礎基本の徹底を図ると共に自ら学ぶ意欲、思考力、表現力、知識・理解などの資質や能力の育成を図る。 | | 明るく元気で学習面においても生活面においても意欲的な児童が増えたが、主体性や集団の中の個のあり方に依然として課題がある。 | 教育目標「小規模校の特性を生かし、かしこく やさしく たくましい子の育成」に向けた達成目標(今年度身に付けさせたい力)の具現化を目指す。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <p>教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程実施状況を点検・調整する機能体制を整え、改善充実を図る。 <p>学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力実態を学力診断テスト等や日常の学習活動をもとに分析・把握して指導に生かす。 家庭と連携を図り家庭学習習慣の確立を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 月毎に教育課程の実施状況をまとめ、改善充実を図る。 重点研究教科の国語科の授業研究に取り組む。 全国学力・学習状況調査、基礎学力診断テスト、CRT(学年始)、活用力の定着等を測定する市販のテストを実施し、分析結果を指導に生かす。 全校百マス(足し算、引き算、かけ算)計算大会の実施 校内漢字検定認定試験の実施 家庭学習の手引き作成と家庭学習がんばり週間(学期2回)の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○週教育計画はその週に目指す教育活動のねらいのポイントが的確に記され組織的・協働的に教育活動を推進することができた。 △活用力の定着度をみる学力診断テストにより活用力の向上が実証されたが、依然として課題のある児童がいる。 ○百マス計算は、全校児童が同じ課題に取り組み、計算力だけでなく集中力が向上した。 ○漢字検定は、過去の問題を使用して全校的に認定試験を実施した結果、全校児童が合格し漢字の力だけでなく、努力し続ける力がついた。 ○家庭学習がんばり週間を実施し、家庭の協力のもと、家庭での学習時間が増大した。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 学級経営、学習指導の改善と充実(生徒指導の三機能を踏まえて) 存在感や充実感のある学校生活にする全校活動を進める。 特別活動の充実と発展 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態交流を日常的に行うとともに、あらゆる機会を捉えて、共感的な児童理解に努める。 全校児童を全教職員で教育する。 一人一人に成就感を体得させて、自発的・自主的な取組にする。 教師と児童、及び児童相互の望ましい人間関係を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校全体が落ち着いており、課題に対して真面目に取り組もうとする態度がどの児童にも見られる。 ○6年生が指導性を発揮し、全ての児童会活動が充実した。 ○取組過程(練習後)での話し合いを重視することにより、感動体験を共有することができた。 |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した基本的な生活習慣の確立 ・児童の健康実態を把握し、課題を早期に解決する。 ・事故災害の実態を把握し、安全管理の徹底を図る。 ・日常的な体力づくりを徹底する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化 ・学校保健、学校安全、食に関する教育の全体計画と年間指導計画の見直しを図る。 ・保健だよりを発行し、保護者への啓発を図ると共に、掲示物を工夫し、児童への健康に向けての実践的態度の育成を図る。 ・事故災害は軽微なものでも共通理解し教訓化する。 ・安全点検の徹底を図る。 ・始業前の体力づくりをやり切る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○全児童、保護者に意識され、基本的な生活習慣が向上した。 △就寝時刻や起床時刻が家庭の事情で守りにくい児童が固定化しているため、さらなる家庭との連携が必要である。 △簡単に骨折しやすい児童への食生活の改善を図る。 ○安全点検日に複数で点検することができ、不備な点は素早く改善できた。 ○朝ダッシュ、マラソン、縄跳びと年間を通して体力づくりに取り組むことができ、児童の運動能力が向上した。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害を正しく理解させる。 ・児童の実態を的確に把握して、個々の特性や能力に応じた適切な指導、援助を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の話を聞く。 ・個々の特性や能力に応じた適切な指導・援助を行う。 ・学習の遅れのある児童には、組織的に補習指導を行う指導体制を確立する。 ・特別支援教育部の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○手話や点字に興味を持つ児童が増えた。 ○気になる児童の実態交流を毎月実施し、手立てを共通理解して指導することができた。 ○毎月教育相談日を設定し、組織的に対応することができた。 |
| 研修研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人学び・学び合いの指導を通して、確かに読み取り、豊かに表現する児童を育成するための研修を行い、指導力の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・読むことの低中高学年別指導内容を明らかにする。 ・授業研究会(全体・ブロック)で「一人学び」の場を授業に位置づけることと「学び合い」を視点にした研究を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○読むことの指導内容を明確にする研究で指導方法や学びのポイントを明らかにすることができた。 ○一人一人の意欲が向上し、全員事前授業を公開し、ブロック別事前研究が充実した。 ○1時間の授業を構成する力が徐々に向上している。 |
| 保護者・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員がPTA活動や専門部活動に積極的に関わる。 ・地域の人材の積極的活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・原則的に会議を持ち、活動内容について十分な打ち合わせを行いPTA活動の活性化を図る。 ・授業や行事等で地域の人材や施設を活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校支援ボランティア等多くの方々にお世話になって、教育活動を充実することができた。 ○会員数が少ない中、全員参加で活発なPTA活動を推進することができた。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1. チャレンジ「本年度の教育目標」(身に付けさせたい力)の内容充実を図り、一人一人の児童が目標達成できるよう、学校・児童・保護者一体となって推進する。 2. 少人数の指導のあり方についての研修を深め、一人一人の課題を明確にし、個に応じた指導を推進する。 3. 基礎的・基本的な学力の習得と活用力の育成を図る。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立郷小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|---|--|
| <p>「心やさしく何事にも粘り強く活動する児童の育成」</p> <p>○自ら進んで学習に向かう子 (学ぶ意欲・考える力・話す聞く力)</p> <p>○思いやりの心を持つ子 (相手の気持ちを考える力・命や体を大切に する力)</p> <p>○たくましい体を持つ子 (健康な体・挑戦する力・継続する力)</p> | | <p>○全ての児童に学力の定着を図るために授業以外にも補習に力を入れ取り組んできた結果、少しずつ学習に対する意識の高揚が図られてきた。</p> <p>△基礎学力充実タイムなど学力向上のための取組がマンネリ化しないように取組の工夫改善を図る。</p> <p>○学校のきまりを児童や保護者に徹底を図ったことで意識の高まりが徐々に見られた。</p> <p>△規範意識の向上を図ることや基本的な生活習慣の向上に向けてさらに家庭との連携を強化する。</p> | <p>(1) 全ての児童に確かな学力を身に付けさせるために指導法の改善を図る。</p> <p>(2) 人を思いやる心を育成すると共に全ての教育活動を通して人権教育の推進を図る。</p> <p>(3) 授業規律を始めとする規範意識を育成する。</p> <p>(4) 朝マラソンや縄跳び、遊びを通して体力づくりの推進に努める。</p> <p>(5) 地域や保護者から信頼される学校づくりの推進を図る。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> 全ての児童に基礎基本の学力を身に付けさせるために繰り返し学習を重視し、指導の充実を図る 各種診断テスト等の結果から児童の学力実態を把握し、個々の児童の学力向上に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業時間の他、基礎学力充実タイムに読み・書き・計算の基礎的な学習を繰り返し指導することで全ての学習の基礎基本となる部分の徹底を図ることを大切にする。 担任による日々の学習補習や職員全体で実施する長期休業中の補習の取組などを通して、全ての児童に確かな学力が身につくように努める。 | <p>○基礎基本の学習を徹底したり、繰り返し学習を重視したりすることで少しずつ学力の向上につながってきている。</p> <p>△取組がマンネリ化しないように繰り返し学習や補習の取組などの指導方法についての工夫改善を図る。</p> |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 規範意識を培うため学校のきまりを活用し、指導の徹底を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会を捉えて、児童にやりきることの大切さを指導するとともに、授業規律や生活態度をよりよくするために生徒指導に関わる指導の徹底に努める。 気持ちよい挨拶ができる児童の育成を目指し、生徒指導部が中心になり様々な取組を推進する。 常に5分前行動を意識した行動ができるよう支援する。 | <p>○学校のきまりを児童や保護者にも徹底を図ることで意識の向上が徐々に見られる。</p> <p>○挨拶への意識が少しずつ向上している。</p> <p>△規範意識の向上を図ったり、基本的な生活習慣の向上に向けて取組を進めるために家庭との連携強化に一層努める。</p> |

| | | | |
|---------------|--|--|---|
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動を通して健康で安全に生活できる力の育成に努める。 ・基本的な生活習慣を確立する中で自分の健康について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソンや縄跳びの取組などを通して、自己の健康づくりや体力向上への意識の高揚を図るとともに、しんどいことから逃げない強い心の育成に努める。 ・基本的な生活習慣の確立を図るために家庭との連携を強化する。 ・食育の取組を進める中で体に良い食生活や健康について考える学習に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○健康安全や食育に関わる取組の中で、自分の健康を見つめ直すことができた。 ○体力づくりのための朝マラソンや縄跳びの取組について高学年がリードし、年間を通してよく頑張れた。 ○保健だよりで情報発信がよくできた。 △避難訓練(火災・地震・防犯)の計画的な実施を図る必要がある。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児に対する丁寧な関わりをすることで学力の向上を目指す。 ・特別な支援が必要な児童の実態把握とその指導の充実に努める。 ・障害がある人に対する正しい理解に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級で学ぶ児童一人一人の個別指導計画を作成し、指導の充実に努める。 ・気になる児童の交流を定期的に設定し、学級の実態、個々の実態を明らかにし、指導の方向性を明らかにする。 ・あらゆる教育活動の中に障害のある人に対する理解教育の視点を入れ、人を思いやる心優しい児童を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級で学ぶ児童一人一人が生き生きと学習に取り組むことができた。 △特別支援教育に関わる理解教育の取組を計画的に進める必要がある。 △特別支援学級在籍児童の長期、中期、短期指導計画を作成し、計画的に指導を進めることがもう少し不十分であった。 |
| 研修(資質向上の取組) | <ul style="list-style-type: none"> ・重点に関わる研究授業を計画的に進め、視点を明確にした事後研修会をする。 ・初任者研修を通して、教員全体の指導力量向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を計画的に進める中で、重点教科の指導法についての研修を進める。 ・低学年、高学年のグループを活用した分掌組織を作り、様々な取組について内容の充実に努める。 ・初任者への指導をすることで自己の指導実践力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○重点研究の研究授業を計画的に進めることができた。 ○毎回の研究授業で参観の視点を明確にしなが研修が深まった。 △研修内容に偏りがでないように、年度当初の計画を綿密に立てる必要がある。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりの推進をめざし、保護者、地域との連携を深める。 ・便りやホームページなどを利用して情報発信に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連絡を密にし、気になる事象については学校と家庭が同じ方向で指導できるように努める。 ・学校だよりや学級だより、保健だより等を通して、子ども達の様子や課題について共有できるように努める。 ・ホームページを定期的に更新する。 ・民生児童委員や保護者の協力で児童の登下校時に安全確保のための立ち番やあいさつの意識を高める取組を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○欠席時の連絡を始め、気になることなどの連絡を丁寧にする事で各保護者との連携を深めることができた。 △様々な機会をとらえて、学校の様子を地域に伝えることを増やす必要がある。 △ホームページの定期的な更新が不十分であった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の徹底を図ることを重点化し、全ての児童の学力向上を目指す。 ・全ての教育活動の中に人権尊重の意識を基盤にした学校運営、学級運営を行う。 ・気持ちよい挨拶がとびかうような学校づくりを目指す。 ・家庭との連携を深め、基本的な生活習慣の確立を目指す。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立橋小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|--|---|
| <p>児童・保護者及び地域の期待に応える教育を推進するため、教育関係諸法令及び学習指導要領、京都府教育委員会並びに京丹後市教育委員会の示す指導の重点や児童・地域の実態をふまえ、新しい時代を生きるにふさわしい児童の育成を目指す。</p> <p>そのために、公教育に課せられた使命と責任のもとに生涯にわたる学習の基礎を培うとともに、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指した教育実践を推進する。</p> <p>推進に当たり、創意ある綿密な教育計画の立案と進行管理及び評価を行い、全教職員の協力・協働体制のもとに、日々の教育実践を推進する。また、家庭・地域社会との連携を深め、学校評議員制度や外部評価などを活用して、信頼と協力を基本にした教育活動が展開できるよう努める。</p> <p>【めざす児童像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. たくましく元気な子(体) 2. 知恵を出しがんばる子(知) 3. なかよくやさしい子(徳) | | <p>○学校経営システムの構築を図り、組織的・効率的・機能的にPDCAのマネジメントサイクルによる学校運営を行うことができた。</p> <p>○基礎学力の向上に向けて、各基礎学力診断テスト分析による基礎学力定着状況をふまえ、指導方法の工夫、授業改善、家庭との連携を行い、課題克服に向けた多面的な取組を行うことができた。</p> <p>○児童会活動の充実が図られ、異年齢の豊かな人間関係の育成が行えた。学級経営については、各学級実態に応じた課題の焦点化を図り、課題解決に向けて着実に取組を進めることができた。組織的には、生徒指導部がセンター的な役割を果たし、家庭との連携を図りながら、課題解決を図ることができた。</p> <p>○学校教育課題を克服するために、橋中学校、PTA、地域の各団体との連携を計画的に行うことができた。</p> <p>△さらに、言語能力・課題解決力・表現力の育成をめざした個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>△さらに、全教育活動を通じて、主体性、表現力、人間関係を結ぶ力を伸ばさせるべき指導の充実を図る。</p> <p>△さらに、連携課題を焦点化し、日常的に連携を行うための工夫や地域の教育力を学校教育の充実に活かすための連携の在り方を追求する。</p> | <p>【めざす学校像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学力の充実・向上と一人一人の個性・良さ・可能性を伸ばそうとする学校 2. 家庭・地域との連携を深めながら特色ある開かれた学校 3. 児童が生き生きとして輝き、地域の信頼に支えられた活力と潤いのある学校 <p>【めざす授業像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・地域の実態をふまえ、全教職員が共通理解・内面理解した指導 2. 基礎・基本を徹底するため、個々の児童に視点をあてたきめ細かで丁寧な指導 3. 授業改善に務め、各教科の目標に準拠した指導 <p>【全教育活動で子ども達に育みたい資質・能力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力 2. 思いや考えを自分の言葉で豊かに表現する力 3. 学び合い・励まし合い・支え合う豊かな人間関係を結ぶ力 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <p>児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、基礎的・基本的な学力を身につけさせるとともに、児童の良さや長所を生かし、児童が自ら学ぶ意欲と自ら考える態度の育成に努める。</p> <p>学習指導要領に基づく教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容の充実を図る。また、蓄積した実践研究成果をふまえ、指導方法及び授業改善を積極的に図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力診断テスト分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善に取り組む。 ・少人数指導(算数科)による授業改善に取り組む。 ・算数科による授業研究に取り組み、算数科の基礎基本の定着、思考力を向上させるための授業改善に取り組む。 ・全校補習、昼ドリル時間、朝読書の充実を図るために教育課程編成の工夫を行うとともに、組織的指導体制を整える。 ・定期的な効果測定を行い、早期回復指導に取り組む。 ・全教育活動で言語活動の充実(書くこと・読むこと・読書)を図る。 ・家庭訪問、連絡ノート、懇談会、各たよりにより家庭との連携を図り、生活習慣、家庭学習課題の改善に取り組む。 | <p>○基礎学力診断テスト分析、学期毎の基礎学力達成状況をふまえ、早期に、個に応じた学習課題克服に向けて取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>○算数科の重点研究により、算数科の基礎・基本の定着を図り、思考力を伸ばす授業づくりが行えた。</p> <p>○算数科を中心とした少人数指導により、個に応じたきめ細かい指導を行い、基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>○全校体制による個別補習、言語活動の充実に向けた取り組みにより、基礎学力の向上を図ることができた。</p> <p>△さらに、日々の授業改善、効果測定に基づく個に応じた即時回復指導についての工夫、徹底を図る。</p> <p>△家庭と連携し、確実に個に応じた回復指導を行っていく。</p> |
| 生徒指導 | <p>人権尊重という観点に立ち、教育活動全体を通じて、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。また、「いじめ」「不登校」等の諸問題に対しては、日常的</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営案作成時の指導・助言。学期毎の課題と課題克服方針を明確にするための学級経営評価に取り組む。 ・学級経営の安定を図るための事例研究(学習集団の育成・人間関係づくり・自治的活動)に取り組む。 ・児童会活動を通して、思いやりの心と豊かな人間関係を育むために、多様な異年齢活動に取り組む。 ・学級での自治的活動に取り組む、自治能力の伸長を図る。 | <p>○年間を通して多様な異年齢活動が取り組み、日常的にも異年齢の豊かな人間関係の育成の成果が見受けられた。</p> <p>○各学級課題克服に向けての事例研修に基づく経営実践により、各学級課題の克服を図ることができた。</p> <p>○生徒指導部による課題把握・解決方針提起、日々の発信等のセンター的機能の発揮により、生徒指導課題について継続的・組織的に取り組み、改善を行うことができた。</p> |

| | | | |
|---------------|--|--|---|
| 生徒指導 | な教育相談活動を行うとともに「心の教育」の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止はもちろんのこと、日常的な諸課題に対し、生徒指導部のセンター機能の強化を図り、全校体制での推進を行うため、定例会により、的確に課題を把握し、課題克服方針を策定し、継続的・組織的に課題克服に取り組む。 ・生徒指導上個別な支援が必要な児童について、支援会議を持ち、具体的な指導内容の確認、支援方策・支援体制・家庭との連携内容の確認を行い、組織的に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○事象・現象としても、いじめ・不登校の未然防止、ガラス破損なし、校内事故・怪我人が1/3以下に減少した等、成果として確認できた。 △さらに、気持ちのよい挨拶、相手を大切にされた言葉遣い、安全な登下校の仕方、家庭での基本的な生活習慣の確立など、個別な課題克服に向けての指導を充実させる。 △学級における自治的な活動を充実させる。 |
| 健康・安全 | 生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむことができる能力や態度を育成するとともに、体育・運動能力の一層の充実を図り、健康で安全な生活を営む、たくましい実践力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して体力づくりに取り組む。(朝マラソン、朝縄跳) ・年間を通して、計画的に食育・保健指導に取り組む。 ・生活点検を実施し、生活改善に取り組む。 ・より良く生きるため性教育・薬物乱用防止教育に取り組む。 ・施設点検・管理を徹底し、安全指導に取り組む。 ・種々の危機状況を想定した、命を守るための避難訓練に取り組む。 ・登下校の安全を守るため地域・PTAと連携して取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○定期的な効果測定を行い、年間を通して体力づくりを取り組み、基礎体力の向上を図ることができた。 ○危機管理意識の高揚と、対応力を高めるための連携・訓練を行い、危機管理力の向上を図ることができた。 △生活点検結果の有効活用により、就寝時刻の改善を図る。 △生活安全に関わる環境整備・施設整備に取り組む。 △地域安全のための組織強化を図る。 |
| 特別支援教育 | 心身の障害の状態や特性に応じ、特別な配慮の下に、障害の軽減・克服を図りながら、個性・能力の伸長とたくましく生きる力を培うとともに、人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」の育成を図る。 また、すべての児童が障害のある人を正しく理解するための指導を計画的に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の支援会議により児童実態の把握を行い、指導・支援の在り方について協議し、全校体制で指導に取り組む。 ・正しい発達障害理解、特別支援教育体制の構築に関わる理論研修に取り組む。 ・特別支援教育コーディネーターを要に、教育支援を行うためのより効果的な校内体制づくりに取り組む。 ・個別の指導計画づくりを組織的に取り組む。 ・特別な配慮を要する児童の支援について、関係機関との連携を行いながら取り組む。 ・全ての児童が障害のある人を正しく理解するための理解教育、特別支援学校・聾学校との交流学习に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、共通理解を深めながら、個別支援の充実を図ることができた。 ○発達障害理解・特別支援校内体制づくりに関わる研修を行い、理論習得と体制づくりを行うことができた。 ○関係機関と連携を図り、特別な支援が必要な児童について指導が行えた。 ○計画的な理解教育、関係を深めることにつながる交流学习により、理解教育の充実を図ることができた。 △さらに校内の特別支援教育体制の整備を行う。 △さらに個別の指導計画の充実を図り、個に応じた支援の充実に努める。 |
| 研修(資質向上の取組) | 使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性を身につけるために、不断の研鑽に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画により、教科指導力、生徒指導力の向上、対応力向上をめざした理論研修・事例研修に取り組む。 ・今日的な教育課題・新学習指導要領に関わる研修(特別活動・道徳・外国語活動・移行内容)に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○年間計画に基づく専門性・対応力の向上に係る理論的研修・実践的研修が実施でき、実践力の向上に繋がった。 △さらに教科指導・学級経営・今日教育課題に関わる研修を充実させ、専門性の向上を図る。 |
| 保護者・地域との連携 | PTAをはじめ地域の関係諸機関等との連携を通して、子育て課題の共有化を図るとともに、地域の歴史・自然・産業等の教育資源や人材を学校教育活動の充実に活用するための、保護者・地域に開かれた学校づくりを推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係を築き、子育て課題を共有するために、迅速・的確な電話連絡、家庭訪問等、誠実に丁寧な家庭との連携を図り、子育て課題克服に向けて協力して取り組む。 ・教育活動のねらい、子どもの様子、連携課題を伝え、家庭との連携を密にするための学校だより、学級だよりの発行に取り組む。 ・地域の教育素材、人材を学校教育の充実に活かしていくための連携の在り方を探り、仕組みを構築していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○連携課題を明確にして、個別に迅速で丁寧な家庭との連携を行うことができた。 ○発信のねらいを明確にしたたよりの発行ができた。 ○PTAをはじめ、地域の各団体などとの連携を定期的に行うことができた。 △地域の教育素材・人材の力を借り、教育活動の充実を図ることができた。 △コミュニティ・スクール推進事業調査研究の充実を図る。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>【推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議、企画委員会、分掌部会の計画的運営と各会議間の連携の工夫を行い、組織的・効率的・機能的な教育活動を行う。 ・現在の学校経営システムについてさらに整備を図り、組織的・効率的・機能的にPDCAによる充実した学校運営を行う。 ・課題解決に向けて、各システムの機能化を図る。 <p>【教育活動・研修活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に、全教育活動で言語能力の向上をめざした教育活動の充実を図る。算数科を中心に、授業改善の取り組みの充実を図る。 ・課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。 ・教科指導・生徒指導力・対応力の向上を図るために、理論的・実践的研修を充実させる。 <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を学校教育の充実に生かすために、連携の在り方を追求する。コミュニティ・スクール推進委員会について、組織としての確立を図る。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立豊栄小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|---|
| 自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成 ・全教職員が一致した指導体制のもとに、保護者や地域の人たちと連携し、心豊かでたくましく、意欲的に学ぶ児童を育成する。 | | ・研究を積極的に行い、京丹後市教育実践モデル校として国語科を重点教科とした研究を積極的に行い、授業実践力や学級経営力の向上が見られた。 ・「豊栄ルール」を軸にした指導により、児童が自分の意見や考えを伝える力を少しずつ身につけ、落ち着いて生活できた。 ・きめ細やかな指導を充実させ、学力の充実、向上を図る。 | めざす児童象 と：友達と仲良くする よ：よく考え、よく学ぶ さ：最後までがんばる か：体を鍛える。 を全教育活動の柱にする。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 教育課程 学習指導 | ・児童の実態と学校経営方針のもとに教科・領域等、教育活動に関わる計画を作成し、実施する。 ・児童一人一人の学ぶ意欲を育て学力の充実と向上を図る。 | ・新学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成を行う。 ・重点教科を算数科とし、算数的活動を通して、筋道を立てて考える力の育成をめざす。 ・言葉を大切に授業を行い、表現力、伝える力とともに、学び合う学級を育てる。 ・基礎学力の充実を図るために、朝読書、ドリルの工夫・改善、家庭学習の推進、昼休みや放課後、長期休業中の補充学習にも取り組む。 ・学習環境を整備する。 | ○新学習指導要領の移行に伴う教育課程が実施できた。 また、PDCAサイクルの視点で評価し、改善点や目標を次の教育活動につないだ。 ○算数的活動と言語活動を関連させた学習が定着しつつある。 ○複数指導体制による個別指導、勉強会や補習への児童の積極的な参加が基礎学力の定着と向上につながった。 ○「〇〇発見コーナー」の設置は、児童の学びへの興味関心を喚起させる役目を果たした。 △児童が主体的に学ぶ自己教育力を育成する。 |
| 生徒指導 | ・めざす児童像を学級経営方針の基本にすえ、児童の実態を正しく把握し、人間としての生き方を自覚させるとともに行動力ある子どもを育てる。 | ・児童の内面理解に努め、豊かな心の育成を図る。 ・実態交流を日常的に行い、いじめ、不登校につながる兆候を見逃さず、組織的な対応を行う。 ・集団生活のルールやマナーの指導を行い規範意識を培う。 ・家庭、保護者との連携を充実し、基本的な生活習慣を体得させ、生活のリズムを確立させる。 ・日常生活での優しい言葉づかいや、挨拶の励行を指導する。 | ○基本的な生活習慣をつけるために家庭と連携した取組を実施し、意識化が進んだ。 ○問題事象には、生指主任を中心にした組織での対応が定着し、早期解決につながった。 △事例研究や中学校との連携を進める。 △規範意識の醸成 |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な生活を営む実践力を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 日常的に保健指導を進める。(歯の衛生、喫煙、飲酒等) 生活点検を実施し、健康的な生活習慣の確立をめざす。 給食の衛生管理と食に関する指導を行う。 自転車教室、避難訓練、防犯訓練等、安全指導を計画的に実施する。 毎月保健だよりを発行し、保護者への啓発を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○新型インフルエンザ対策では、職員研修や情報の交流、手洗いうがいの徹底により、感染拡大が抑えられた。 ○食に関する指導では栄養士による専門的な指導により、充実した食育学習が実施できた。 △日常的な繰り返し指導の結果、児童の健康や安全に対する意識は高まってはいるが、さらに指導が必要である。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校をめざし、保護者、地域と協力、連携しあう学校運営を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> リーフレット「豊栄小の教育」を作成し、PTA総会や学校説明会で保護者に説明し、学校への理解につなげる。 担任は日常的に保護者と連携し、丁寧な情報発信を行う。 学校だよりの全戸配布で、学校理解につなげる。 地域人材、施設、設備を活かした学習活動を積極的に推進する。 学校評議員、民生児童委員との連携を密にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○担任は「気軽でこまめな家庭訪問」で、保護者との信頼関係を深め、安定した学級経営につなげた。 ○PTA、学校評議員、民生児童委員等地域ネットワークの協力で生指や安全安心に関わる情報を得ることができ、迅速な対応を進めることができた。 △地域安全ボランティア組織の再構成 △教職員のより積極的な地域行事への参加 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な児童一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程を編成し、学ぶ意欲と基礎学力の充実に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 支援教育に係る校内指導体制(サポートチーム)を確立するとともに、具体的な指導方法について研修を実施する。 特別な支援が必要な児童の実態を把握し、関係機関と連携した教育相談を継続する。 個別の指導計画による個に応じた指導を進める。 保護者への啓発を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○全教職員の支援体制、発達検査の早期実施、保護者や関係機関との連携で個別の課題に応じた指導が進められた。 ○保護者と連携を密にし、就学指導を進めた。 △次年度は、年度当初から組織的な対応を進める。 |
| 研修(資質向上) | <ul style="list-style-type: none"> 授業研究から授業改善等について研修し、学級経営力、授業実践力の向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 研究授業に低高各ブロック研で主体的に取り組み、指導力、授業実践力の向上をめざす研究を進める。 教師は相互に授業評価を行い、検証のための資料を準備する。 外部研修を積極的に受講する。また、研修で学んだことは復講習を行い、本校の実践に活かす。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ブロック研やペア学年が活発に機能し、授業研究の充実、学級経営力の向上につながった。 ○ワークショップ型の事後研、出前講座の講師を招聘した校内研修、研究授業のまとめを日頃の授業実践に活かすことができた。 △研究の成果が日々の授業と、児童の学力向上に、より具体的につながるよう、さらに研究、研修を進める。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>次年度も「学力をつける」「心を育てる」「健康な体をつくる」を目標にする。その目標達成に向けて全教職員が組織的に具体的な動きをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上、定着をめざし、授業改善、指導力向上の研修、研究に取り組む。 ・児童に「自分で考え、判断できる力」「あきらめず最後まで頑張る力」を育てる。 ・学校・地域・保護者の連携強化のために、具体的な取組を行う。(保護者研修会、安全ボランティア組織の再結成等) | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立間人小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|---|
| ○みずから学ぶ子 (知) ○友達を思いやる子 (徳) ○生き生きと表現する子 (体) | | 「学力をつける」点で「読み・書き・計算」、社会や理科の用語理解等は定着が進み、自分の言葉でまとめたり、理由を書いたり、発言したりする力も伸びてきた。課題は、「心の育成」と学力の視点において「分かって使える」「応用・活用」である。 | 「学力を付ける」「豊かな心を育てる」「健康な体を作る」ことを目標に、達成目標を決めて取り組む。 (1) 読み・書き・覚え、自分の考えを生き生きと表現 (2) 元気な外遊びといろいろなことに挑戦 (3) 友達や人の気持ちを思いやり、仲良く行動 (4) 周りの動きや時間を意識した行動 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題 (自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | (1) わかる授業・楽しい授業で基礎・基本の学力を付ける。 (2) 考える力を育てる。 (3) 表現する力を伸ばす。 (4) 読書活動を進める。 | ○具体物や半具体物を使った授業、体験活動を十分に生かした授業、各種スキルを高めるための習熟をさせる授業等で学力と児童の学習意欲を高める。 ○算数科において問題解決的学習を基本に自分の力で考えて問題を解決する力を付けるとともに、粘り強く考える習慣を身に付ける。 ○分かったことを自分の言葉でまとめたり、自分の意見の理由を書いたりして、発言する力を伸ばす。 ○読書で学習や豊かな心の育成に向けた基盤づくりを行う。 | ○各種授業等で児童の学習意欲を高めることできた。 △全ての児童に学力を付けることには課題がある。 ○すぐに諦めないで、自分の力で考えて問題を解決しようとする習慣が、少しずつ身に付いてきた。 △自分で考え、判断する力をさらにのばす。 ○書いてまとめることを繰り返すことで書くことに自信が付き、的確に書けるようになった。 △意見に理由を付けて発言する力を伸ばす。 ○集中して読書ができた。 |
| 生徒指導 | (1) 児童と教師、児童と児童の信頼関係に基づいた学級づくりを行う。 (2) 不登校、いじめを未然に防止する。 (3) 存在感や達成感のある学校生活を過ごさせる。 | ○学級遊び、学級お楽しみ会等の自主的な取組を積極的に行い、他との良好な人間関係を築く学級づくりを行う。 ○学校生活のきまりを守らせ、児童の規範意識を高める。 ○関係組織と連携して不登校・いじめは早期発見と早期対応で未然に防ぐ。 ○各組織と連携し、望ましい集団活動や多様な体験活動等を通して児童一人一人に成功感や存在感が味わえるような教育活動を推進する。 ○児童の自発的・自主的な活動を大切に取組を進め、一人一人に存在感を持たせる。 | ○取組を進め、互いに良い関係が築けるようになってきた。 ○学級や学校全体が明るく、活動的になった。 △決まりを守る取組で規範意識を高められつつある。 ○特別支援教育部、教育相談部と連携した取組で不登校、いじめを未然に防止できた。 ○特別活動部、体育部が中心となった運動会や児童会行事で充実感を得られることができた。 △児童が学校生活を良くしていくための方法を考えて取り組み、改善することに課題がある。 |

| | | | |
|---------------|--|---|---|
| 健康（体育）・安全 | (1) 心身ともに健康な体づくりを行う。 (2) 健康な生活を創る。 | ○食育教育を4観点（体の健康・心の育成・社会性の涵養・自己管理能力）で取り組む。 ○生命の尊厳・人権尊重を基盤とした学級指導と保健授業を行う。（心と体の教育等） ○健康な生活づくりの取組を行う。（学校生活・家庭生活点検等） | ○食事の大切さについて児童の理解は進み、保護者も食事には関心を持っていただけた。 ○保健授業等で生命の大切さが理解でき、友達を大切にする心が育めた。 △得た知識を活かし、実生活をより良くしていく実践的態度の育成が課題である。 |
| 特別支援教育 | (1) 障害のある児童個々の教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、自分で生きていく力を育てる。 (2) 特別な教育的支援を必要とする児童に校内体制の確立を図り、実態に即した指導を組織的に展開する。 | ○特別支援学級・通級指導教室の指導の充実を図る。 ・個別の指導計画を作成と指導 ・基礎学力と社会性を身に付けさせる指導 ・家庭との連携 ○普通学級の特別な教育的支援の必要な児童への取組を行う。 ・アセスメント表・個別の指導計画を作成と指導、指導上配慮を要する児童の状況把握と組織的な対応、家庭との連携、関係機関との連携 | ○家庭との連携を図りながら、個の課題に応じたきめ細かで効果的な指導で基礎学力の充実を図ることができたが、社会性を身に付けさせることに課題がある。 ○普通学級での特別支援の必要な児童の指導を効果的に行うことができた。 ○校内組織が機能し、関係機関とも連携できた。 △より一層個別の指導計画を作成し、個々の課題克服に向けて有効な手立てを組んでいく。 |
| 危機管理 | (1) 児童・教職員が安心して学校生活が過ごせる。 | ○どんな些細なことも教職員で情報の共有化を図り、即座に組織で対応して解決する。 ○教職員の危機意識への感性を高める。 | ○常に情報を共有化して問題に対応できた。 ○組織で解決することを基本に据えて解決できた。 △教職員の危機認識の感性に課題がある。 |
| 信頼関係の構築 | (1) 学校が保護者や地域との連携を密にし、信頼関係を築き上げる。 (2) 地域の自然や人々から校区の素晴らしさを学ぶ。 | ○学校だより、学級通信等で学校や学級の様子や児童の様子を家庭や地域に知らせて、理解と協力を得る。 ○P T A・学校評議員・民生児童委員・守る会と連携して取り組む。 ○児童個々の事柄については、直接保護者と面談して話す機会を作る。 ○生活科・総合的な学習など地域教材から学ぶ取組を進めるとともに、地域の人材の活用を図る。 ○地域の行事等への積極的な参加を勧める。 | ○学級通信や学校だより等で学校の様子や児童の様子を保護者や地域に伝え、いろいろな協力を得られた。*アンケートの高い評価より ○地域の自然や産業、歴史等について学ぶことができた。 △間人地区の素晴らしさをもっと児童に学ばせる。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | ①新学習指導要領の移行において漏れ落ちがないように的確に教育活動を推進する。 ②児童一人一人が存在感を実感できる学級づくりを推進する。 ③指導方法を工夫・改善して全ての児童に確かな学力を身に付けさせる。 ④児童の規範意識を向上させる。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立竹野小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|--|---|
| (1) 授業改善を進め、学力向上を図る教育活動。 (2) 児童がのびのびと活動に励む教育活動。 (3) 情報発信と関係機関との連携を推進する教育活動。 | | 物事に真面目に取り組み、発表等表現力は伸びてきている。努力し、協力しあうことも随所に見られる。が、考え深め合うことや筋道だった思考をすることの弱さが見られる。少人数の中でいかに思考を広げ深めるか、自分の思いや考えをどのように伸ばしていくか、少人数の良さをどのように生かすか、今年度の大きな課題である。 | (1) 努力の成果が見える取組を推進し、評価へ繋る。 (2) 少人数を生かした学習活動の展開 (3) 月1回の更新を行い、ホームページを活用した情報発信を推進する。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | (1) 児童が主体的・意欲的に取り組めるよう、授業改善を図る。 (2) 基礎学力診断テストの分析から重点課題を明確にし、授業展開や回復指導に生かす。 (3) 学力実態の課題を明らかにし、回復・定着のための指導を進める。 | (1) 日々の授業を充実させる。 授業展開の工夫や、授業研究を通して実践力の向上を図る。 (2) 基礎学力診断テスト結果を踏まえた授業展開と国語科の補充学習設定、ドリルタイムの設定での定着を図る。 (3) 学力補充・回復・定着のための指導時間を設定する。またグループ研修の時間を設定し、授業改善を図る。 定例日(第2水曜、金曜)の設定。 | ○個々の課題を的確に把握し、きめ細かな指導に生かした。 ○授業研究を全学年で実施し、研究の成果を授業改善に生かすことができた。また児童は自分の考えや思いを自分のことばで表現できるようになってきた。 ○ドリルタイムを計画的に進めることができ、学習の定着が図れた。また、全校チャレンジドリルの実施により、取組への意欲を高めることができた。 |
| 生徒指導 | (1) 児童の生活実態の把握と内面理解に努める。 (2) 問題事象の的確な状況分析と、見通しを持った対処。 (3) 関係機関との連携。 | (1) 児童の状況把握から課題を探る。全教職員の一致した指導を進める。 (2) 問題事象の事実把握を迅速に、見通しを持った対処。原因の背景から内面理解をする。 (3) 保幼小中、保護者との連携を深める。 | ○特別支援教育、教育相談等と連携が図れ、機能的に手立てを打つことができた。また、教職員の共通理解が図れ、全教職員で全校児童を見ろという意識ができた。 ○こころ部会をもつことにより、気になる事象に早期に対応することができた。 ○児童会において、学級委員会を開催するようにしたことによって、問題を自分達で解決することができた。 |

| | | | |
|---------------|--|--|---|
| 健康(体育)・安全 | (1)生命を大切にし、健康な生活への行動変容を図る。 (2)食生活の自己管理能力と態度の育成を図る。 (3)病気の予防と心がまえの指導 (4)基本的生活習慣の確立を図る。 | (1)健康についての感心を高め、健康な生活を営む力の育成を図るためねらいを明確にした健康診断、保健学習を進める。 (2)栄養士を招聘し、望ましい食習慣や魚についての指導を行う。 (3)生活習慣病などの予防と生活習慣についての保健指導を行う。 (4)体力作りとして朝マラソン、なわとびを取り組む。 | ○取組における各組織の連携が図れ、方針通りに機能的な動きが取れた。 ○朝マラソン、なわとびなど体力づくりに積極的に取り組ませることができた。 ○新型インフルエンザ流行の際は、予防の徹底を図る取組を行うことができた。 |
| 開かれた学校づくり | (1)保護者、地域との連携を深め、情報発信に努める。 | (1)ホームページを活用するため、月1回以上の更新を行う。 (2)学校だより、学級だよりの発行。 | ○HPの学年ページを月1回更新することができ、情報発信を進めることができた。 ○閉校にあたり、地域、PTAとの思い出づくりの場を共に考え、取り組むことができた。 |
| 危機管理 | (1)安心安全な教育環境整備に努める。 (2)危機管理意識を高め、個人情報管理を徹底する。 | (1)月1回の校内安全点検を実施し、修理・補習箇所の速やかな改善に努める。 (2)ファイルサーバーでデータを管理することの意識を高め、個人情報の漏洩を防止する。 | ○毎月の校内安全点検を実施することができ、危険箇所は早期に対処することができた。 ○個人情報の持ち出しなど、機会ある毎に徹底し、危機管理意識が高まった。 |
| 研修(資質向上の取組) | (1)学習指導要領の平成23年度完全実施に向けた移行措置についての研修を行い、学習指導を進める。 (2)重点研究について研修を深め、実践力等資質向上を図る。 | (1)算数、理科の移行措置について研修を進め、各学年の学習指導を進める。 (2)重点研究推進計画に基づき、実践する。 ・各学年の研究授業の実施。 ・グループ研を行い、教材研究、授業展開等に生かす。 | ○学習指導要領の移行措置の研修を行い、徹底が図れた。 ○重点研究や学力についての協議では意見が言いやすく、参考にすることが多かった。 △研究授業に向けた研修が一時期に集中し、年間の研修時期のバランスが悪かった。 △取組の主体がいつも同じメンバーとなり、全体としての動きが弱かった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 統合の為、この項なし | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|--|--|
| 「ともに学びあう宇川の子の育成」に努めるとともに保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。 | | ・国語科の研究を通して、指導法の工夫や改善を図ることができ、基礎・基本の定着につなげることができた。更に表現力を高めるための指導法について研究を進める必要がある。 | 1 基礎学力の充実と向上 2 豊かな心の育成 3 学校大好き、いじめ・不登校の未然防止 4 信頼される学校づくり |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | (1)「わかる授業」を目指し、授業改善を行う。 (2)基礎学力診断テスト・全国学力学習状況調査・CRTの実態把握をし、基礎学力の向上を図る。 (3)家庭との連携を図る。 (4)小中連携を行う。 | ・児童の学力実態から個に応じた指導と回復を図り、年度末には検証テストも実施し今後へも生かす。 ・市の教育実践モデル校の指定を受け、国語科「話す・聞く力」の育成を目指す。 ・ドリルタイム、休み時間・放課後の補習・夏季休業中での算数補習(6日間) ・朝読書に取り組む。 ・家庭学習の充実のため家庭学習の手引きの配布、家庭学習がんばり週間の設置など保護者との連携を行う。 ・小中連携を活発化し合同研修会、出前授業、参観等を積極的に行う。 | ○検証テスト結果からも基礎・基本の定着状況が改善しつつあり、個に応じた指導の充実も図ることができた。 ○教育実践モデル校の取組により授業改善を行うことができた。 ○学習発表会、暗唱発表、音読等でも保護者に成果を発表することができた。 ○家庭学習の定着で中・高学年児童では、自主勉強ノートの内容が充実してきた。 △言語力「話す・聞く力」の育成のための指導を更に充実させる。 ○小・中連携で学力充実、生徒指導、教育相談等を含め連携の強化ができた。 |
| 生徒指導 | (1)児童の内面理解に努め、いじめ・不登校の未然防止を図る。 (2)望ましい集団活動を通して社会性を育てる。 (3)生徒指導の三機能を生かした学級経営に努める。 | ・児童と児童、児童と教師との信頼関係の構築に努め、存在感・充実感のある学級経営に心がける。 ・異年齢集団活動をとおして好ましい友人関係の育成を図る。 ・生徒指導部会と教育相談部会の定例化を図り、共通理解のもと課題解決を図る。 ・小中連携をはじめ家庭や各関係機関との連携を図っていく。 | ○不登校0が継続し、更に関係機関との緊密な連携もできた。 ○日常生活や行事等を通して、上級生が下級生の面倒をよく見るなど、心の教育に役立っている。 △学級経営では更に保護者と連携を密にしていく必要がある。 |

| | | | |
|---------------|---|---|--|
| 健康(体育)・安全 | (1) 家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立を図る。 (2) 新体力テストの結果を踏まえ、体力増進に務める。 (3) 校内外における事故防止と安全の確保に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学期はじめに生活習慣アンケートを実施する。 ・朝ランニング(春・秋)、なわとび(冬)を実施する。 ・各種大会への積極的な参加をしていく。 ・毎月の校舎内外の安全点検を実施する。 ・必要に応じた避難訓練を実施する。 ・保健指導や保健だより等により、健康の大切さや予防に心がけさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣アンケートの取組では、家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立に役立った。 ○各種大会へ向けて校内体制で取り組み、練習や成績により成就感、達成感等を味わわせ体力向上につながった。 △自転車乗車時で一旦停止などの交通ルールの一層の徹底が必要である。 |
| 研修(資質向上の取組) | (1) 初任者研修や授業実践力の向上を目指し、積極的に研修に取り組む。 (2) 市教育実践モデル校としての校内研修を活性化し、指導力向上へつなげていく。 (3) 小・中連携による研修を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づく初任者研修を行い、中堅教員・ベテラン教員の教育に対する更なる意欲・指導力の向上を図る。 ・重点教科「国語」で授業力向上を組織的に行う。 ・今日的教育課題に関わる研修を行う。 ・小・中合同研修会の充実を図り、職員同士の交流を積極的に取り組む。(音楽の合唱指導等) | <ul style="list-style-type: none"> ○初任者の指導力の向上が図られた。 ○低学年・高学年グループで教材研究・指導案作成・事後研究会等を実施し、徐々にあるが実践力の向上につながられた。 △「話す・聞く力」の理論研究を更に進める必要がある。 ○中学校の音楽科の教員による合唱研修会を実施し、音フェス指導にも役立った。 |
| 特別支援教育 | 障害のある児童個々の教育的ニーズに応じた、障害による困難の克服・改善を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を作成し、個に応じた指導を行う。 ・中学校・特別支援学校・関係機関との連携により、児童の適正な修・就学を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級の研究授業や公開授業を行い、実態把握について共通理解ができた。 △通常の学級に在籍する軽度発達障害児童等に対する具体的な支援が不十分であった。 |
| 特色ある学校づくり | (1) 学校評価をもとに学校評議員、関係者評価委員との連携 (2) 地域教材(人的・物的・環境)を生かした教育活動 (3) 保護者・地域から信頼される学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に関係者等に学校公開をし、情報の提供と連携の推進を図る。 ・総合的な学習の時間やクラブ活動で宇川地域の特色を生かした教育活動を行う。 ・学校行事や対外的な活動(陸上大会・音フェス)等に保護者に参観してもらう。 ・保護者や地域へタイムリーな情報を提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○民生児童委員、学校評議員、学校関係者評価委員等からの意見を教育活動に生かすことができた。 ○宇川地域の教材を生かし、特色ある教育活動ができた。 ○陸上大会・音フェスでの児童の真剣ながんばりを見てもらい、信頼される学校づくりに役立った。 △学校・学級の教育活動の発信の機会を更に広げる。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | (1) 市教育実践モデル校を受け(2年目予定)、国語科「話す・聞く力」の育成を図る。 (2) 学級経営や異年齢集団活動を更に充実させ、好ましい友人関係の構築と人権意識の高揚を図る取組を実践する。 (3) 小学校入学から中学校卒業までの9年間を見通して、小中連携を一層進める。 | | |

平成 21 年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立吉野小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|-------------------------|---|---|--|
| やさしい心を持ち、かしこくたくましい子を育てる | | <ul style="list-style-type: none"> ○図書館教育の研究を通して読書環境の整備が進んだ。 ○表現力の向上を柱に授業改善の取組が進んだ。 △基礎学力の充実に向けた取組を徹底させる。 △児童相互の関係に基づく学級経営を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童につけたい力を明らかにし、目標に向かう意欲、途中の変容を大切にしたい取組を進める。 (2) 校内の運営組織の機能化を図り、課題を見える形で共有する。 (3) 保護者や地域の願いを受け止め、積極的に情報発信し双方向の連携を進める。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力の定着を図る。 ・相手を意識した表現力の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にしたわかりやすい授業を進める。 (自分の考えを持つ場面、考えを交流する場面の工夫) ・教科や行事等全ての教育活動を通して表現力を育成する。 (各授業、行事、児童会活動での発表の工夫) ・チャレンジタイムや補充学習で繰り返し学習を徹底させる。 (全校一斉の読み取り教材の活用) ・家庭と連携して基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図る。 (家庭学習の手引きの活用) | <ul style="list-style-type: none"> ○国語を中心に、自分の考えを持つ場面、考えを交流する場面を意識した授業の工夫が進んだ。 ○集会や行事等で声の大きさや話し方を考えて発表ができた。 ○全校一斉の読み取り教材を活用した取組により、長い文章への抵抗が少なくなった。 △検証テストの実施により分析を行い、回復指導の実施など徹底した取組を進める。 △家庭学習の手引きの活用を工夫する。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・良好な友達関係を育成する。 ・いじめや不登校の未然防止に努める。 ・人権意識や規範意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態をていねいに掴み、全体で共有して組織で取り組む。 ・全教育活動を通してコミュニケーション能力の育成を進める。 (各授業、行事、児童会活動、学級活動での発表の工夫) ・良いことはほめ悪いことは叱ることを徹底させ規範意識を高める。 ・児童の状況等家庭への連絡を密にした取組を迅速に進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○個々の児童の実態把握を綿密に行い、情報の共有化と家庭との連携が進んだ。 ○問題事象への対応は組織的に迅速に取り組めた。 ○不登校児童への対応は関係機関と連携し組織的に取り組めた。(毎日の記録を基にした連携) △深い信頼関係に基づく友達関係づくりを全校で進める。 △目指す児童像を明示し、見通しをもった取組を進める。 |

| | | | |
|---------------|--|--|---|
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> 健康な心と体づくりを進める。 学校事故の未然防止や登下校の安全確保を進める。健康な心と体づくりを進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝の体力づくり(マラソン、縄跳び)を年間通して実施する。 さわやか点検を前期後期実施し、生活習慣確立の柱にする。 校内安全点検の確実な実施と整備を徹底する。 登下校の安全指導の徹底と、地域のボランティア等と連携した取組を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝の体力づくりでマラソン期間を延長して取り組むことで、走ることへの意欲が高まった。 学校事故防止に向け、安全点検実施に力を入れ、不備は早期に改善することで職員、児童の安全への意識が高まった。 通学班会をごまめに実施し、評価を加えながら安全な登下校の指導により児童の安全への意識が高まった。 △安全な登下校について、現場での具体的な指導など児童の意識を高める方法を工夫する。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標、取組等積極的に情報発信し、理解を得る。 授業や行事等で地域人材や施設の活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 各種たより、PTA だより、HP 等活用し情報発信する。 学校評価、保護者アンケート等を活用し、学校改善に生かす。 地域人材や施設を活用した学習計画を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校、学級たよりや HP 等で時機を逃さず情報発信したり、授業参観・行事等の感想、また保護者アンケート等を保護者や地域に返すことで、保護者からもよい評価を得られた。 △地域人材や施設のリストを更新し活用の促進を図る。 |
| 研修(資質向上の取組) | <ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上に向け、重点研究を進める。 初任者研修を全体の指導力向上につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> 研究推進部が研究内容を絞った授業研究をリードする。 各回の授業研究の成果を明確に示し、日々の授業に生かす方法を工夫する。〈若手教員の育成〉 初任者研修の講義、指導・助言を全校体制で取り組み、各教員の教師力向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 月1回の授業研究会を全教員が実施し、日々の授業に具体的に生かす研究が進んだ。 初任者研修等の講義、指導・助言を全校体制で行い、各教員の指導力向上につながった。 △研修計画を本校の課題や教員のキャリアに応じた視点で見直す。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> 特別な教育支援が必要な児童の個性や能力の伸長を図る。 個別の課題に応じた指導方法の改善を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 個々の児童の発達の課題を明らかにし、全教職員で課題の共有化を進める。(交流の定例化と必要な指導の確認、個別の指導計画充実) 教職員の研修を充実させ、特別支援教育部の指導性を高める。 通級指導教室、関係機関と連携した取組を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 個々の児童の発達の課題の把握と課題の共有化を学期ごとに実施し、各教員の一致した指導が進んだ。 自閉的な発達課題を持つ児童への対応について与謝の海養護学校から講師を招いて研修を行い、理解が深まった。 巡回教育相談の実施(4回)など関係機関との連携により指導内容の改善が進んだ。 △個別の課題に応じた指導計画を工夫する。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の定着に向けた、分析結果を生かした具体的な取組の推進 ○ 人権意識、規範意識の向上に向けた取組の推進 そのために・目指す方向性を明示し、後追いでない見通しをもった生徒指導の取組の充実 ・各部の組織的な運営の充実と全教職員による課題の共有化促進 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立溝谷小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|--|
| <p>「挑戦意欲と心の安定」と「確かな学力」を培う</p> <p>(1) 確かな学力を培う基盤として、全教育活動を通して良好な関係づくりを重視し、豊かなコミュニケーションをとおして心の安定や意欲的に挑戦する、我慢する、最後までやりとおす等の逞しい心と体をもった児童を育成する。</p> <p>(2) 確かな学力をつけるため、ことばを大切に、よく聞き、意欲をもって学び、考える力や自分の言葉でのびのびと表現できる力、考える力を育む授業づくり及び学習環境づくりを進める。</p> <p>(3) 教職員は豊かな人間性を身に付け、日々研鑽して個々の指導力、実践力を高める。</p> | <p>○ 「挨拶」「聞くこと・話すこと」を切り口に、よりよい「学校風土」づくりに更に一步近づけた。</p> <p>○ 校内授業研、研修活動の活性化をとおして教員同士が学び合い、育ち合い、実践力の向上が図られた。</p> <p>○ 学力課題を踏まえた補充学習、全校的な取組や個に応じた学習支援が組織体制で行われ、課題克服に迫れた。</p> <p>△ 実践力の向上、本校として付けるべく学力を明確にしたより一層の授業研究の推進と実践力の向上</p> <p>△ 「認め合い・支え合い」を基本とした好ましい友人関係の育成</p> <p>△ 規律・規範意識の醸成と多様な児童集団の場を活用したり一ダムの育成</p> <p>△ ねばり強く、最後までやり切る心と身体 of 育成</p> <p>△ 家庭・地域との連携の強化と連携内容の充実(健全育成・安全確保)</p> | <p>1 やさしさ</p> <p>(1) いい声、いい言葉による心がつながるあいさつをする。</p> <p>(2) 一人一人の違いを認め合える思いやりの心をもつ。</p> <p>2 かしこさ</p> <p>(1) しっかり聞き、はっきり話す。</p> <p>(2) つながりのある発言をとおして学び合いのある学習をする。</p> <p>3 たくましさ</p> <p>(1) いろいろな行事等に自分の力を出し切る。</p> <p>(2) きまりを守って行動する。</p> |

| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
|----------|--|--|--|
| 教育課程学習指導 | <p>1 「話すこと・聞くこと」「言語活動」を重視した学び合いのある授業作りの充実を図る。</p> <p>2 個に応じた指導・支援の充実を図る。</p> | <p>1 発言のルールや声の大きさ等について教室に掲示する。また、多様な考え等が発表できる発問を工夫する。</p> <p>2 ヒントカードやプリント類を用意し、個に応じた指導の工夫・改善を図る。</p> <p>3 基本的な生活習慣、学習習慣の確立・定着を図る。 ・月1回家庭学習ががんばり週間を設定する。</p> <p>4 基礎学力診断テストの結果分析を授業に生かす。</p> | <p>○ 発言のルール等について指導することにより、意欲的に学習に参加する児童が増えさせた。教師の発問を工夫する中で、児童の発言に繋がりが見られるようになった。</p> <p>△ 個に応じたヒントカードやプリント類等を用意できなかった。</p> <p>○ 月1回家庭学習ががんばり週間を設定し意欲付けを行った。その中で、宿題を忘れる児童は少なくなった。また、自主学習をする児童が増えた。</p> <p>○ 誤答分析等を行い、指導課題を明らかにした。検証テストを行い、不十分な点の回復を行った。</p> |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 生徒指導 | <p>1 児童の居場所がある学級経営・児童会活動の充実を図る。</p> <p>2 人権意識の高揚、規律の確立、規範意識の醸成を図る。</p> <p>3 不登校・いじめの未然防止を図る。</p> | <p>1 あらゆる場面を通して児童の内面理解に努める。</p> <p>2 児童が主体的に動く活動を組織する。</p> <p>3 学級活動、児童会活動を通してリーダーの育成を図る。</p> <p>4 不登校の未然防止について組織的に取り組む（複数で対応、記録をとる。）</p> | <p>○児童との個人面談を実施した。気になる児童については、定期的に家庭訪問や懇談をした。</p> <p>○異年齢集団活動は昨年度より回数を増やし計画的に実施した。リーダー層の下級生への関わりが上手になった。</p> <p>○定期的に保護者と懇談会を持ち連携を図る中で欠席日数が減少した。</p> |
| 健康(体育)・安全 | <p>1 基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>2 身の回りの危機に気づき、安全な行動ができる。</p> <p>3 体育的な行事に自分の力を出し切る。</p> | <p>1 学期 1 回よい生活習慣作りの取組を実施する。結果を資料化し家庭との連携を図る。</p> <p>2 計画的な安全点検、安全指導、登下校の指導、自転車点検等を実施する。</p> <p>3 児童が目標を持って行事に参加する。(運動会、校内マラソン大会)</p> | <p>○計画通りに学期 1 回実施できた。懇談会での資料とした。</p> <p>○安全点検等について、計画通りに実施できた。修繕できることはすぐに修繕し、児童の安全確保に努めた。</p> <p>△登下校の指導は、出来ない時があった。</p> <p>○校内マラソンは、多くの児童が自己ベストの記録であった。</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>1 家庭・地域社会との連携を図る。</p> <p>2 地域を生かした豊かな体験活動の充実を図る。</p> | <p>1 学校便りの全戸配付。HPの定期的な更新</p> <p>2 地域の人材を活用した取組の充実(米作り、溝谷太鼓等)</p> <p>3 校区安全ボランティアの活動の活用を図る。</p> | <p>○月 1 回学校便りの配付、HPの更新が出来た。</p> <p>△HPは掲載内容を充実する。</p> <p>○地域の人に協力して頂く場が昨年より増加した。</p> <p>△実際に活動して頂いている人を増やすことが課題</p> |
| 特別支援教育 | <p>1 個々の児童に応じた教育を進める。</p> <p>2 障害のある人についての正しい理解と認識を育てる。</p> | <p>1 個に応じた教育課程(教科内容等)を編成し、一人一人のニーズに応じた授業を行う。</p> <p>2 交流学习や授業参観、新入学児童説明会等で児童や保護者等への啓発を行う。</p> | <p>○個に応じた授業を行い、学習内容の定着が図られた。</p> <p>○2, 4, 6 年児童に障害についての話をした。</p> <p>○新入学児童説明会や朝会で保護者や児童に特別支援学級についての話をすることで、特別支援教育に対する理解が深まった。</p> |
| 道徳教育 | <p>1 基本的な生活習慣や人間としてもつべき規範意識を身につける。</p> <p>2 自尊感情や他者への思いやりの心を持つ。</p> | <p>1 道徳の授業参観を行う。</p> <p>2 道徳的実践の場として豊かな体験活動を充実する。</p> | <p>○年 1 回道徳の授業参観を実施した。</p> <p>○異年齢集団活動の場を増やした。その中で高学年の低学年に対する思いやりのある対応が見られた。</p> <p>○生徒指導部と連携して規範意識を身に付ける取組を実施し、価値の自覚を深めた。</p> <p>△体験活動の内容の検討(福祉体験等)</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>○ 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と言語活動を重視した授業づくりを進める。</p> <p>○ 異年齢集団活動を継続的・計画的に実施し、児童の好ましい友人関係の育成を図る。</p> <p>○ 家庭・地域社会と連携しながら児童の道徳性を育成するとともに、規範意識の醸成を図る。</p> | | |

平成 21 年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立鳥取小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|--|--|
| 1 不登校児童の未然防止 2 小学校の果たす役割への意識の高揚 3 人材育成 | | ○教職員共通理解のもとでの教育活動の推進の基礎ができてきた。 △個に応じた指導のもとでの学力の定着を図る。 | 1 学力の基礎・基本の定着と活用力の育成 2 自立心の基礎の育成 3 心身共に健全な育成 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | ・基礎学力の定着と学力の向上 ・算数科を中心とした主体的に考え、伝え合う授業づくりの推進 | ・授業の中での「考える場」「練り合いの場」の設定と「書きまとめること」の重視 ・個に応じた指導 ・TT授業、習熟の程度に応じた授業の実施(算数) ・授業研究の実施(事前研・模擬授業・事後研) ・チャレンジタイム、放課後補習の実施(学校体制のもと) ・検証テストの実施と課題への回復指導(毎学期・学年末) ・朝読書の実施と充実 | ○自分の考えを自分の言葉で伝える児童が増え、深められるようになってきた。 ○組織体制で取り組むことで、児童や教職員の意識の高揚が図られ、児童の変容も少しずつ見られるようになった。 △個に応じた指導の充実と授業の工夫・改善を図り、学力の向上を図る。 △教師の指導力の向上を図る。 |
| 生徒指導 | ・豊かな心を育む学級経営 ・教育相談活動の推進 | ・学校教育目標に沿った学級経営目標と児童の実態に応じた具体的実践目標の設定 ・学期毎の振り返りと次学期の目標設定(学級経営) ・2学期、「こだわり実践」をレポートにして交流し、学び合う。 ・事例研究会の実施 ・早期発見によるタイムリーな部会開催と全教職員による同一步調による支援 | ○事例研究やレポートによる研修会で、お互いの実践を学び合うことができた。 ○事象や児童の気になるサインを早期に発見し、部会での方針を共有化して、同一步調で対応することができた。 △基本的な生活習慣(時間厳守・あいさつ等)や生活規律等の自立心の基礎を培う指導の充実 △更なる早期発見、早期対応、未然防止の徹底 |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・逞しい心身の育成 ・登下校における安全への意識の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常の体力づくりの啓発 ・P T A、子ども見守り隊との連携(登下校) | <p>○P T A、子ども見守り隊の方にもお世話になり、一年間事故もなく安全に登下校できた。</p> <p>○年間を通して晴れた日は、外で遊ぶ児童が増えてきた。</p> <p>△体力向上に向けた全校的な取組や啓発を継続する必要がある。</p> |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況把握と課題にあった指導の充実 ・部会の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画、個別の指導票の作成と学期毎の見直しの実施 ・配慮児童について、タイムリーに部会を設定し、方針を共通理解し、同一歩調での支援・指導 ・特別支援学級との交換学習の実施 ・校内就学指導委員会と特別支援教育部会と連携して指導の充実を図る。 | <p>○タイムリーに部会を設定し、組織的な対応を図った。</p> <p>○保護者の理解のもと、個別の指導・支援を図った。</p> <p>△個別指導に基づいた個に応じた授業づくり。</p> <p>△合同部会も含めた部会を更に充実させ、学校体制で取組を推進する。</p> |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・学校側からの丁寧な情報発信 ・公開授業の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより・学級通信・HP等での情報発信 ・授業参観日等に、学校評議委員さん、民生児童委員さんに案内を配布 ・地域から学ぶ授業づくり | <p>○授業参観日には、毎回多数の参加があった。</p> <p>○総合的な学習の時間・社会科・生活科を中心に、地域から学ぶ学習をどの学年も実施し、学習発表会等で発表した。</p> <p>△分かりやすい情報発信の工夫</p> <p>△授業参観日における一日公開の検討</p> |
| 研修(資質向上の取組) | <ul style="list-style-type: none"> ・若手教職員の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践力を付けるため、研究授業の実施やベテラン教員の授業を日常的に参観できるように計画し、実施 ・校内研修の充実 ・日常的な授業参観・教室参観を実施し、実践に基づいたタイムリーな指導を実施 | <p>○具体的な実践を学び合う、教職員集団の確立ができた。</p> <p>○意図的な仕掛けによる校内研修の充実を図った。</p> <p>△更なる個々の教職員に応じた指導・支援の実施</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 中学校卒業時を見通した、小学校での学力の定着を図る取組の充実 2 心の教育の充実を図り、自立心の基礎の育成と中学校へつなげる取組 3 学校経営参画意識の高揚 4 不登校児童の未然防止(不登校「0」の継続) 5 校種間連携の強化 6 人材育成 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立黒部小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|----------------------------------|--|--|
| 1 知、徳、体のバランスの取れた「生きる力」を育成する。 2 京都府教育委員会指定「京の子ども、夢・未来校(教育課題対応校)」並びに京丹後市教育委員会研究指定校の教育研究の推進 3 基礎学力の定着と不登校を出さない教育活動を推進する。 | | ○しっかりと声で作文や日記を発表する児童が増えた。 ○目標に向かって共同して取り組む児童が増えた。 ○決められた時間に給食を食べきる児童が増えた。 △学校を休む児童数を減少させること △集団生活を送るために必要な社会性を定着・向上させること △指示待ち傾向で学習意欲の低い態度を改善すること △課題意識を持って、主体的に判断・行動する児童を増やすこと | 1 京都府教育委員会指定「京の子ども、夢・未来校(教育課題対応校)」京丹後市教育委員会研究指定校の実践活動の活性化、研究発表会の成功 2 教育目標の実現 ・かしこく…自己表現力、基礎学力の定着 ・やさしく…生活規律、人に対するやさしさ ・たくましく…学校を休まない、ねばり強い体 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | 1 基礎的、基本的な学力の定着 2 自己表現力の育成 | 1 「京の子ども、夢・未来校(教育課題対応校)」研究指定の実践の柱に学習規律の確立や国語科を中心とした課題設定学習方法の定着を位置づけて取り組む。 2 1年間の基礎学力(国語、算数)の定着具合を3学期1月末に検証(DRTテスト実施)し、学力が定着していない児童を放課後、補習する。 3 5校時前に、全学年一斉にドリルタイムを取り、習熟を図ったり、放課後の時間を活用して習熟の困難な児童の補習を行う。 4 全校の前での個人スピーチを実施して、人前で堂々と話すことができるようにする。(内容も学年に応じた工夫) | ○学習規律が身に付いて、静かに学習することが当たり前になってきた。(チャイムに応じた行動、しっかりと返事をして応答する。しっかりと話を聞く等) ○国語…全学年平均して8割以上定着した。 ○算数…全学年平均してほぼ8割以上定着した。 ○全校スピーチでは、生活を赤裸々に綴った作文等、学年に応じた内容を、一人一人の児童が堂々と自己表現した。 △その場で適切に表現する応用力に課題がある。 △自主性、積極性については、少しずつ改善しつつあるものの、まだまだ、継続的で重点的な指導が必要である。 |
| 生徒指導 | 1 学校生活規律の定着・向上 2 人にやさしい行動力の育成 | 1 児童自身が生活規律の向上を自分の問題と捉え、主体的に課題解決を図るような児童会活動を仕組む。 2 「京の子ども、夢・未来校(教育課題対応校)」研究指定の実践の柱(「心と体づくり」)に位置づけて、全校的に集中して取り組む。 3 日常的・定期的に児童の状況を全職員で詳細に把握の上、生徒指導主任を中心に全教職員で指導に当たる。 | ○生活規律は廊下歩行、トイレのスリッパそろえ等が向上し、学校全体が落ち着いた生活になってきた。 ○人にやさしい行動力は全般的には身に付いた。 △一部、自分より弱いと見ている人に対する言動に課題が残る。 △挨拶や返事は全体的には5割程度の定着率であり、自主性、積極性ととも辛抱強く指導していくことが必要だ。 |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| 健康(体育)・安全 | 1 欠席者数の減少 2 意欲的な給食態度への転換 3 体力・体位の向上 | 1 日々細かな健康管理・健康指導 2 研究実践の柱(「心と体作り」)に位置づけた重点的な取組の推進 3 朝の体力作り(持久走、縄跳び)の時間設定、姿勢体操の実施等 | ○欠席日数が昨年度比、一人平均約一日減少した。 ○遅食児童がほとんどいなくなった。(20分間の給食時間中にほとんどの児童が食べきるようになった。 ○大縄跳び(八の字跳び)の記録を更新するなど、児童の脚力の強さを明らかにすることができた。 △一部、体力的に低位な児童の改善が課題である。 |
| 研修 | 京都府教育委員会指定「京の子ども、夢…未来校(教育課題対応校)」、京丹後市教育委員会研究指定校の研究実践を通じた教育課題解決の方途について研修する。 | 1 研究体制を確立して組織的に実践する。 2 授業研究 3 児童の様子について各種の把握、分析、方針立て 4 研究実践の成果について研究発表会を開催して実践の成果を問う。 | ○共同歩調で組織的に研修する方法を学ぶことができた。 ○主体的に授業に取り組みさせる指導方法を身に付けさせた。 ○児童の実態を細かく把握・分析して、指導の準備をする大切さを学ぶことができた。 ○研究発表会を開催して多くの先生方から貴重な意見を頂いてその後の実践に役立てた。 |
| 危機管理 | 児童の安心安全を守るさまざまな環境整備 | 1 黒部校区安全ネットワークに係る地域との連携 2 グラウンドへの不審者侵入を防止する正門、裏門のチェーンの設置 3 管理棟とグラウンドを視覚的に遮断する樹木の上部伐採 | ○児童の登下校時に、にこにこカーを走らせ、児童の安全を確保することができた。 ○夜のグラウンドへの不審者侵入の未然防止に役立った。 ○管理棟からグラウンドの様子や来校者の状況が一目で見渡せるようになり、児童の安全確保に役立っている。 |
| 教育相談 | 不登校傾向児童の出現防止 | 1 詳細な児童把握と児童の情報の教育相談主任への焦点化 2 定期的な教育相談部会の開催と方針 3 個別の教育相談活動と家庭への適切な連絡 | ○不登校傾向が解消した。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 1 学校経営の重点(短期経営目標)の明確化、指導と評価の一体化(達成が具体的に見える指導目標による実践活動を推進させる。) 2 同一歩調による、全校的な教育活動の推進 3 教職員研修の充実(国語科を中心とした基礎学力定着のための指導方法他) 4 開かれた学校作りや地域との連携(学校支援地域支援本部事業の活用)による教育活動の活性化 5 目指す児童像の課題克服の実践 (1) 主体的な判断力・行動力の向上 (2) コミュニケーション能力(挨拶、返事、自己表現力)の向上 (3) 基礎的、基本的な学力(特に、国語、算数)の定着率(85%以上)の向上 (4) 心(人権認識・安全意識)や体(健康維持や体力づくり)の向上 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立野間小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|---|--|
| 保護者や地域の方々との信頼関係を土台にして、少人数であることを利点と捉え、児童一人ひとりに生きる力を育む。そのために、地域の自然や人材を十分活用し、体験を重視しながら教育活動の充実を図る。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域の方々から、様々な支援や理解を得て、信頼関係の中で、教育活動を展開することができたこと ○ 児童の生き生きとした表情や堂々と発表する力がついてきたこと △ 自分で根気強く考え抜く力に課題があること | 「力強く生きるための力」として、思考力・判断力・表現力の育成を図る。特に、「書くこと」を通して深くそして粘り強く考えることのできる児童を育成する。そのために、作文や日記・感想文等、国語科を中心として、全教育活動に「書くこと」を取り入れる。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着を図り、中学校へつながる学力をつける。 ②新学習指導要領への移行措置を確実に行う。 ③「書くこと」を通して、深く考える児童の育成を図る。 ④「学習指導」と「学級経営」を両面から充実・機能させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ①少人数であるからこそできる「個に応じた指導」を心がけ、基礎学力定着のための反復練習(ドリル)や学期ごとの定着度テストを実施し、確実な学力と結びつける。 ②週案に年間計画を添付し、移行措置に関わる部分は朱書きをして、常に意識・チェックができるようにする。 ③国語科での研究授業及び、日々の生活の中での作文指導や日記・手紙・感想文等の指導を通して書く力を育み、そのことを通して、深く考えることができるようにする。 ④学習の効果をあげるための学級経営について、毎週、担任会を開催し、交流・研修を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○少人数であることを生かし、個々の課題に応じた学習指導を実践できた。 ○補習タイムを全学年で実施し、どんどんプリント学習に挑戦させることにより、学力の定着と集中力が育てられた。 ○移行措置1年目であることを意識し、教務主任が中心となって、教育課程の進行管理が確実にできた。 ○毎週、担任会を開催し児童の実態交流や学級指導について意見交流をする中で、全校一致した指導ができた。 △より個々の課題に迫る指導法を工夫していきたい。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ①個々の児童の生活実態の把握や内面理解に基づく指導を行う。 ②目標を持った生活をさせる。 ③安定した学級経営を行う。 ④基本的生活習慣の確立による児童の体と心の安定を築く。 | <ul style="list-style-type: none"> ①児童との活動場面を大切に、児童の出す様々なサインを見逃すことなくキャッチし、指導に生かす。また、担任会等で児童の状況交流を大切にして、共通した指導を行う。 ②各自の年間目標(学習・生活)を玄関に掲示し、互いに励まし合いながら、目標達成を目指すよう指導を展開する。 ③望ましい人間関係の中でこそ、確かな学力・効果的な学習が保障できるので、担任会(毎週)で交流・評価を行う。 ④家庭と連携をとり、学習の支えとなる生活習慣として、『早寝・早起き・朝ご飯』の定着・徹底を図る。(毎朝の健康観察及び生活リズム週間の取組) | <ul style="list-style-type: none"> ○休み時間の遊び等の状況を教員が一緒になって遊ぶ中で把握し、個々の児童の良さや課題を見取り、その課題に対して適切かつタイムリーな指導が展開できた。 ○毎月、月初めの全校朝会で学級目標を発表し、月末には、その月の目標の振り返りをする中で、常に目標を意識した生活を作り出すことができた。 ○担任会での学級経営交流により、それぞれの学級を全員が同じ視点や課題意識で指導でき、効果的な指導が展開できた。 △生活習慣はほぼ定着したが、家庭の協力が要となる。 |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 健康(体育)・安全 | <p>①自分の体や命・健康についての認識を高め、自己管理に生かす。</p> <p>②望ましい食生活や食習慣を身につけ、健康的な生活を実践できる能力や態度を育成する。</p> <p>③児童の安全意識や危機回避の能力を高める。</p> | <p>①生徒指導の取組と連携して、生活習慣確立に向けた取組を展開し、その中で、自己の健康と生活習慣についての関わりを学習させる。 (生活リズム週間の取組と啓発たより発行) 年間を通した体力づくりに取り組む。</p> <p>②年間を通して『食』についての指導を展開し、自分の健康や成長と『食』についての関係を学習させる。また、その指導を通して、自分でどのような食生活が健康な体を作ることになるのかを考えさせ、実践できるような取組を行う。 (給食週間の取組・栄養教諭による『食』指導実施)</p> <p>③毎月の校内安全点検を児童と教師と一緒に実施することにより、安全な学習の場について考えさせ、危険についての認識を高める。(点検後の速やかな修繕を大切にす。 また、交通安全教室を実施し、交通事故防止に対する意識を高める。 集団避難訓練を年3回実施し、非常事態に対応できる能力を養う。</p> | <p>○生活リズムと自分の健康との関わりについて、取組を通して実感させることができた。(「早く寝て、とても落ち着いて勉強できた。」という児童の声がよく聞かれた。)</p> <p>○4月～10月までは、朝マラソンに取り組み、冬季は、縄跳びに取り組むことで、年間を通して体力づくりができた。また、持久力を大きな大会で試すため、『八丁浜ロードレース』に参加し、完走した。</p> <p>○給食を全児童がランチルームで教職員ととることによって、望ましい食事のマナーやその時々メニュー等の工夫について学習させることができた。特に、地元の鮎や特産物を利用した献立も実施し、ふるさとへの思いも深めることができた。</p> <p>○校内安全点検を毎月児童が教師と一緒に行うことで、危険箇所等について意識を高めることができた。また、修繕を早く行うことで、児童の点検意欲にもつながった。</p> <p>○火事や大雨・地震等の想定で避難訓練を実施し、児童の適切な対応力を高めることができた。</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>①保護者や地域の方々に学校に来て頂く機会を増やす。</p> <p>②学校だより等を活用して、情報を地域へ発信する。</p> | <p>①保護者への授業参観案内だけでなく、地域の方々へも児童の活動状況を見て頂く機会を設定する。(夏休み体験発表会・作品展・運動会・文化祭典・書き初め展等)</p> <p>②学校だよりを学区全戸配付する。</p> | <p>○地域の方々が、気軽に学校へ来てくださるようになった。</p> <p>○これまで以上に、地域の方々からの学校教育への協力が得られるようになった。</p> <p>○学校だよりによって、学校の教育活動を発信できた。</p> |
| 研修(教職員の資質向上) | <p>①作文指導等「書くこと」に関する研修を進めることで指導力を高める。</p> | <p>①どの教師も研究授業を行い、教材の扱い方や授業の進め方等について、互いに研修を深める。 「書くこと」についての指導力を高める。</p> | <p>○授業の構成の仕方や「書くこと」についての指導力を高めることができた。</p> <p>○講師を招聘し、研修を深められた。(8月)</p> |
| その他、特色ある学校づくり | <p>①野間小ならではの体験活動を教育課程に位置づける。</p> <p>②地域との連携行事を行う。</p> | <p>①野間川への鮎の放流や蕎麦づくり体験などを教育課程に組み込み、地域の方々とは触れ合いながら学習を進める。</p> <p>②地区運動会や野間地区文化祭典を実施する。</p> | <p>○鮎の放流、蕎麦の種まきから収穫までの体験、蕎麦打ち体験等を地域の方々の協力を得て実施でき、ふるさとへの思いを高めることができた。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>①個々の学習課題に応じた指導法を工夫し、学力の定着を目指す。</p> <p>②学力定着のための家庭学習の在り方や家庭との連携について研修し、実践する。</p> <p>③教職員の危機管理意識を一層高め、様々な危機対応ができる能力を身につける。(児童の安全確保・文書の徹底管理等)</p> <p>④少人数の利点を生かし、地域の恵まれた環境を活用した教育課程の編制及び実施。(少人数のデメリットを最小限にするための教育課程の工夫)</p> | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|---|---|
| <p>確かな学力と豊かな心と体の育成を図るとともに、保護者・地域から信頼される学校づくりをめざす。</p> | | <p>○全教育課程に道徳教育を位置付け、「心地よい学校生活」の構築に努め、自己存在感、連帯感等を創りだし、学校生活が活性化した。</p> <p>△特定の学年で学級経営・学力の課題が残った。</p> | <p>校訓「一生懸命」を根幹に置いて、「わかる授業づくり」と「信頼関係に基づく学級づくり」に努める。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| <p>教育課程 学習指導</p> | <p>○学力の充実と向上をめざす。 (学習の質と量の改善)</p> <p>(1) 重点教科 算数科「思考力を深める授業づくり」の積極的な研究実践活動の推進</p> <p>(2) 家庭との連携による家庭学習習慣の確立</p> | <p>(1) 算数科の授業研究を通しての指導方法の工夫改善</p> <p>(2) 授業規律の確立</p> <p>(3) ドリル学習、補充学習等による学力の定着を図る取組</p> <p>(4) 放課後及び長期休業中における個別補習の実施</p> <p>(5) 読書活動の推進充実(国語力の基礎を培う)</p> <p>(6) 家庭学習の手引きを活用した家庭学習習慣の確立及び家庭との連携</p> | <p>○個に応じたきめ細かな指導が充実し、児童の学習意欲や学習態度が向上した。</p> <p>○どの学級も授業規律の確立に全力で取り組み、落ち着いた学習環境を築くことができた。</p> <p>△特定の学年が学力状況に課題を残し、学力の二極化を克服しきれていない。</p> <p>△家庭学習の絶対量が不足しているとともに、家庭学習習慣が付ききっていない。</p> |
| <p>生徒指導</p> | <p>○学級づくりを基盤においた「豊かな心」の育成</p> <p>(1) 規範意識の高揚と規律ある学校生活の確立</p> <p>(2) 豊かな人間関係の育成</p> <p>(3) 不登校やいじめを起こさせない指導と教育相談活動の充実</p> <p>(4) 鋭い人権感覚と人権認識の醸成</p> | <p>(1) 児童の内面を揺さぶる道徳の時間の授業改善</p> <p>(2) 異年齢集団活動を基軸に置いた豊かな人間関係を育む特別教育活動の推進・充実</p> <p>(3) 学級経営と授業づくりを基盤に置いた積極的な生徒指導及び生徒指導の機能化</p> <p>(4) 不登校・いじめの未然防止を図る教育相談体制の確立と日常的な観察、相談活動の充実</p> <p>(5) 多種多様な体験活動の推進</p> | <p>○大部分の学級で学級経営が安定して、全校的に学習・生活規律が向上した。</p> <p>○不登校児童は存在しなかった。不登校傾向児童も学校体制でサポートでき、不登校の未然防止ができた。</p> <p>○2年間の道徳教育指定によるマナーの向上等が継続できており、好影響が財産として残っている。</p> <p>△人権に係る取組期間中は意識した態度・行動がとれるが、日常の人権感覚・人権認識が浅い。</p> <p>△学習や生活の目標を達成させたり、自己実現を図る積極的な生徒指導をめざしたが、後追いの生徒指導の方が目立った。</p> |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 健康(体育)・安全 | (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 学校内外における事故防止と安心・安全の確保 (3) 体育・スポーツ活動の一層の充実 | (1) 毎学期の重点的保健指導の推進 (2) 家庭・地域及び「久美っ子見守り隊・安全サポーターの会」と連携した安心・安全のための取組の充実 (3) 教育課程内外の体育・スポーツ活動の時間数の増加及び各種大会への積極的な参加による体力づくり (4) 社会体育との連携 | ○教職員・PTA及び地域で組織する「久美っ子見守り隊・安全サポーターの会」の十分な連携が図られ、事件・事故が防止できた。 ○運動好きな子どもを増やすとともに、体力づくりを積極的に取り組むことで、体力・運動能力は伸びた。 △保護者との連携にした取組によって、基本的な生活習慣の一定の改善は見られたが、継続を含めて課題は多い。 |
| 特別支援教育 | (1) 特別支援学級及び通級指導教室における当該児童の障害の改善・克服 (2) 通常の学級における特別支援教育の推進 | (1) 特別支援コーディネーターのリーダーシップによる校内推進体制の確立及び研修の充実 (2) 自立し、社会参加ができる資質を養うことができる「個別の指導計画」の活用と指導方法の工夫・改善 (3) 通常の学級に在籍する特別な教育支援を要する児童に対して、適切な指導支援の実施 (4) 児童・保護者・地域への理解啓発の推進 | ○特別支援学級及び通級指導教室の当該児童の能力や社会性が向上した。 ○「個別の指導計画」を有効に活用して、指導方法の工夫改善を日常の授業に取り入れ、当該児童の個性の伸長が見られた。 ○児童・保護者への理解が深まり、指導の充実につながった。 △通常の学級の当該児童への指導支援に課題がある。 |
| 研修(資質向上の取組) | (1) 職種・経験年数等に応じた実践的指導力の向上 | (1) 重点研究(算数科)を中心とした校内研修の工夫改善 (授業研究・示範授業・グループ研・模擬授業・理論研) (2) 日常の教育実践で能力・実績を向上させる教職員評価の積極的な取組と活用 (1) 公的研修機会の活用 | ○重点課題である「授業づくり」と絡めて、多種多様な角度から研修を積み上げ、授業力・学級経営力に反映できた。 ○教職員評価の目標管理をベースにして、自己の実践の見直し・改善が図られた。 △特定の教員においては、指導力を含めて課題が残る。 |
| 保護者・地域との連携 | (1) 開かれた特色ある学校づくりの推進 | (1) 教育活動及び学校評価(内部評価・外部アンケート)を基盤においた情報連携・行動連携 (2) コミュニティスクールとしての存在・役割・責務を考えた教育活動の創造 | ○本校の教育教育活動全般について保護者・地域の信頼や期待に一定の評価を得た。 ○地域で子どもを守る安心・安全の取組が軌道に乗った。 △地域の物的・人的資源の活用がまだ十分でない。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 1・学力の向上を図るために、授業改善を一層進めるとともに、家庭や地域と一体となった学習環境・学習整備の確立をめざす。 2・学校経営・学級経営の充実を基盤においた「豊かな心」を培うために、好ましい人間関係の構築を図る取組を展開する。 3・教職員の資質能力の向上と人材育成を図ることにより、学校力を一層高める。 4・学校創立140周年記念を機に、保護者・地域・住民と一体となった取組を推進することで、真に「生きる力」の育成をめざす。 | | |

平成 21 年 度 学 校 評 価 自 己 評 価 報 告

学校名〔京丹後市立川上小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|-------------------------------------|---|---|--|
| 「さらなる高みへの挑戦」個に対応した指導意欲の喚起と継続をめざした指導 | | 目標への積極的な意欲を見せるが、その継続となると大きな壁が横たわっている。その克服を授業の中で試みることに。 | 各教師の指導力量の向上 組織としての協働体制 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲の喚起と継続させるための教師の準備 ・授業時間の効率的活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する準備（教材研究等）を徹底する。 ・2教科等の合科授業を行い、お互いの教科の独自性と効率を図る。 | ○その教師の個性的な力量と学校としての重点研究教科の準備を徹底することで、教師自らが授業を楽しめ、そのことが児童の意欲につながった。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り集団の活用 ・個に注目し、個が生き生きとした学校生活を送る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大目標から、学級や各個人目標まで細分化した目標を明確に立てること。また、児童が自分で立てる目標だけでなく、担任が児童一人一人に対して指導目標を設定する。 | ○目標の具体化が明確になり、学校全体から各学級へ、そして個人へと細分化された目標がわかりやすく取り組みやすい内容であった。 |
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人目標を持った体力づくりや生活習慣の改善（早寝等） | <ul style="list-style-type: none"> ・早寝、忘れ物、家庭学習等家庭との連携を大切にする。学校だけで目標を立てるのではなく、保護者に参画させることでともに取り組んでいくという意識化につながる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 早寝等の生活習慣はずいぶん改善された(90%)。 △ 忘れ物については大きな課題である（60%）。 |

| | | | |
|--|--|---|---|
| <p>研修(資 質向上 の取組)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教員の自主的な研究及び 研修自己研修と校内研 修会との積極的な関連 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己研修を深めることが、グループ研修や全体研修の 内容充実や深まりのために大きく影響する。各教師の 自己研修を深めることによって授業改善を図る。 | <p>○研究した内容を必ず準備した上で、グループ研や全 体研究会を実施した。自己責任で授業改善し、児童 への指導がより改善に向かい、児童の学力に成果を 見た。</p> |
| <p>特別支 援教育</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な児童に対する 個別対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級に在籍する児童への指導 ・普通学級に在籍する児童への支援 | <p>○支援を必要とする児童は、各担任だけに任せるので はなく、学校としての支援体制で対応してきた。</p> |
| <p>地域と の連携</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の連携を発展的 に継続する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携事業が多いが、その都度地域の方々との 交流も深まる。そのことをチャンスと見なし、お互い の理解し合える場として積極的に参加する。 | <p>△本校にとって、地域との連携は大変大きな意味を持 つ。しかし、ただ継続させるだけではなく、今の保 護者世代の意見等も取り入れた改善を考える必要が ある。</p> |
| <p>次年度 に 向けた 改善の 方向性</p> | <p>本年度の重点研究である「体感・ものづくり」の研究は、軌道に乗り、教師の自己研修を始め教職員組織としての研修体制もできてきた。 その結果、授業改善は確かに進んできた。次年度は、その成果が児童の変容として客観的に確認できるかどうかという検証が課題である。</p> | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立海部小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|---|--|
| 1 児童に確かな学力を付ける。 2 教職員が組織的・協働的に活動する。 3 保護者や地域から信頼される学校づくりをめざす。 | | ○学力実態を把握し、定着を図る取組を進めた。 ○地域の行事に積極的に参加し、信頼関係が深まった。 △個々の学力課題を解決するための取組を進める。 △表現力を付ける。 | 1 国語科の重点研究により、表現力を育成する。 2 異年齢活動を重視する。 3 日常的な体力づくりに取り組む。 4 教職員の協働体制を確立する。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語科の「話す・聞く」領域を中心に伝え合う力を育てる。 ・個々の学力課題解決の手立てを講じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を通じて、組織的に学び合う。 ・全校スピーチなど発表の場を多様に設定する。 ・学力テストの結果を分析し、指導に生かす。 ・個々の学力課題解決のために、学力補充時間に複数で指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○研究授業を通じて、授業展開や指導方法について学び合うことができた。 ○全校スピーチでは、自分の考えをしっかりと発表することができるようになるとともに、その場ですぐに感想が言える児童が増えてきた。 ○年3回の学力分析をし、学校全体で学力実態が共有化できた。 △活用力を付ける研修を行い、指導に生かせるようにする。 △より個々の課題に視点を当てた学力補充に取り組む。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の活動により、好ましい人間関係を育成する。 ・問題行動を早期に発見し、組織的に対応する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で行う各活動のねらいを明確にするとともに、練習の振り返りを大事にして、児童がお互いの気持ちを分かり合うようにする。 ・学級での話し合い活動を重視する。 ・児童の実態を共通認識するため、毎週児童の実態を交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○異年齢の活動を通して、高学年のリーダー性が育つとともに、みんなで協力してやり遂げることの楽しさを感じることができた。 ○児童の実態交流を丁寧に行い、状況の共通確認ができた。 ○問題事象について、組織的に対応することができた。 △不登校の未然防止と課題解消に向けて取り組む。 |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して体力づくりに取り組む。 ・基本的な生活習慣を確立する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中間休みに、目標を持たせてランニングや縄跳びなどを行う。 ・体力課題を克服するため、体育の時間に「海部小サーキット」を取り入れる。 ・対外的な大会に積極的に参加させる。 ・生活習慣を確立するために、「すっきり点検」に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童が自分の目標に向かってよく努力していた。 ○「海部小サーキット」が定着してきた。 ○対外的な大会に大勢の児童が積極的に参加した。 △「すっきり点検」の内容を工夫するとともに、PTAと連携しながら進める。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・地域関係団体との連携を深める。 ・学校の情報発信に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・海部土曜お楽しみ会に毎回参加する。 ・学校の様子を知ってもらうために、学校だよりや学級通信の紙面を工夫して発行する。 ・学校改善に向けて、年2回の学校評価アンケートを行う。 ・地域の方に社会人講師として授業に参加してもらう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○海部土曜お楽しみ会に積極的に参加し、連携が深まった。 ○学校だよりの紙面の工夫や学級だよりの積極的な発信をすることができた。 ○年2回の学校アンケートを実施することができた。 △ホームページの更新があまりできなかった。 |
| 危機管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、児童の安全確保のための環境を整備する。 ・より実践的な対応訓練を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「あまべっ子見守り隊」との連携を図り、児童の安全確保を充実させる。 ・関係機関と連携して、「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を行う。 ・毎月校内の安全点検を行う。 ・年3回の避難訓練を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「あまべっ子見守り隊」との連携により、児童の安全確保をすることができた。 ○関係機関と連携して、「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を行うことができた。 △駆け込み訓練の内容をさらに工夫する。 △危機管理マニュアルの内容を充実させる。 |
| 特色ある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動(歌唱)を継続して行い、豊かな感性や表現力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝音楽と全校音楽の時間を設定し、計画的に進める。 ・学習発表会や七夕ふれあい集会等で、保護者や地域の方に歌を聴いてもらう。 ・優れた音楽を鑑賞する機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ○音楽活動を計画的に進めることができた。 ○学習発表会等で発表することにより、保護者等に感動してもらい、児童も歌声に自信をもつことができた。 ○東京混声合唱団に来てもらうことにより、児童の歌に対する意欲がさらに高まった。 △どの児童ものびのびと歌えるように、さらに指導を工夫する。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 重点研究において今後も表現力の育成を進める。 2 お互いが学び合って指導力量の向上が図れるような、組織体制づくりや協働意識の高揚に努める。 3 重点項目や具体的方策をより具体化・焦点化する。 4 学校評価をより学校改善に生かせるように工夫していく。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立佐濃小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|--|---|
| 児童がお互いの良さを認め合い、学び合っ て持っている力を高めあっていく学校 | | ○全教職員が共通理解のもとにすべての教育活動に一致し て取り組める態勢がつけられた。 △個々の学級、個々の児童の学力状況を分析することによ り、授業改善等をとおして、さらなる底上げを図っていく。 | 一人一人に確かな学力をつけ、豊かな心を育ててい く学校づくり |
| 評価項 目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの明確な授業を計画的に進める。 ・常に授業改善の視点を持って授業づくりをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・京丹後市指定の教育実践モデル校として校内での授業研究を進め、明確な授業づくりを研究していく。 ・朝ドリルや放課後の補習などにより定着を図る。 ・年間をとおして読書タイムを設定し、読解力への基礎となる力を育成する。 ・初任者に対する研修に全教員が関わることにより、再度、基本の研修をする場とする | <ul style="list-style-type: none"> ○国語を中心に書く活動を重視した研究も進み、年度末の総括テストでは各学年とも概ね良好な結果が得られた。 ○系統的な補習プリントを作成し、効果が得られた。 ○読書が好きという児童が8割を越すことができた。 ○全教職員による研究授業を含めた研修を行うことで、授業力が向上した。 △読書内容の見直しと本嫌いな児童への対応を図る。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士がお互いの良さを認め合えるような心を育成する。 ・規律ある生活ができるための指導を重視していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での活動を多く取り入れることにより、全校児童のつながりを深めるようにする。 ・支援部と担任が連携をして、児童の的確な状況把握のもとに支援についての明確な方策を立てる。 ・チャイムによる行動等、規律ある行動を身につけさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童会を中心とした異年齢の活動が活発に実施された。 ○友だちへの肯定的評価は児童アンケートで9割達成 ○不登校児童は0人であり、登校渋りを見せた児童に対しては早期に対応し解決が図れた。 △規律ある行動を一步進めて向上心へと高める。 |
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力づくりを推進していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全校体制で体力づくりの取組をする。 ・期間を決めて、秋は朝マラソン、冬はなわとび等の取組を行い、体力向上の意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○長縄はチーム活動により、短縄は個々人が目標を設定して、学校全体で活発に取り組み、体力増進が図れた。 △朝マラソンの期間が短く不十分であった。 |

| | | | |
|---------------|--|---|---|
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・ていねいでわかりやすく情報を発信していく。 ・定期的に保護者や地域に学校の様子を見てもらう機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級通信等で学校の様子をわかりやすく発信する。 ・授業参観や学級懇談会を計画的に実施する。 ・評価についてのアンケート結果をできるだけオープンにするとともに要望に対しては誠実に応えていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○9割の保護者の方から学校だより等により、適切に情報が発信できているとのアンケート回答があった。 ○年間8回の授業公開を実施し学習状況を見てもらった。 ○地区行事に9割を越える児童が参加することができた。 △アンケートの問いに対して「わからない」の回答が多いものもあり取組内容をもっと目に見える形にする。 |
| 危機管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・危機に対して的確に対応できるような児童の育成を目指し、訓練の機会を設定する。 ・教職員が常に危機に対して対応できることを目指し、そのための研修の場を設ける。 ・保護者・地域と連携して危機を回避できるような態勢づくりに努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間4回は計画的に訓練を実施し、命や体を大切にす意識を高める。 ・教師自身も危機対応について関係機関から学ぶための研修の場を設定する。 ・登下校時における交通指導や安全指導を保護者や地域の方と連携しながら進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○年間4回の避難訓練を実施した。特に不審者対応については関係機関と連携して具体的に教室に不審者が侵入した場合を想定しての訓練により身を守り意識が高められた。 ○通学時における事故から身を守るために、教職員と母親委員会、地区委員とで毎月交通指導を実施することで事故もなく安全確保ができた。 △ここにこカーによる見守り活動を実施していただける会員をさらに呼びかけていく。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする個々の児童の教育的ニーズに応じ、よりよい指導方法を模索するとともに、工夫改善を図り、わかりやすい授業を創り出していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童について、個別の指導計画等を作成するなどして、よりきめの細かい対応を心がける。 ・全教職員が共通理解のもとでその子の課題に応じた支援を進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○支援部が中心となり担任と連携しながら具体的な手だてのあり方を探ることで個々の児童実態に応じた組織的対応ができた。 ○保護者との教育相談もきめ細かに行うことができ、そのことで児童が学習や日常活動に意欲的に向かえることに繋がった。 △個別の指導計画を学習活動においてもきめ細かに立てよりよい支援の方法を探っていく必要がある。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ○学力の定着向上を図るため、授業改善に向けていっそう研究を進める。 ○児童が明るく元気ではつらつと活動できる校風を築く。 ○感謝の気持ちが持てる子、ふるさとを大切にす気持ちが持てる子の育成を目指す。 ○地域、保護者との繋がりを大切にして、よりいっそうの連携を深めていく。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立田村小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--------------------------------------|--|--|---|
| 生き生き笑顔で学ぶ学校・児童 「意欲的に学び、努力する」児童の育成 | | ○国語科の授業研究を進める中で、児童はより深い読み取りが出来るようになり、また誰もが意見を発表し合える学習集団となってきた。 △算数科の学力の定着と充実を図る。 △更に自分の力を高めようと努力する意識の高揚を図る。 | ・算数科における学び方を学ばせ、算数科の学力の定着を図る。 ・児童がコツコツと努力し、自分の目標を達成する指導を丁寧に行い、一人一人に自信を持たせ、次への挑戦の意欲を高める指導の充実を図る。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | ○算数科の学力を定着させる。 ○確かな学力を付けるための基礎として漢字の力を全員に付ける。 | ○算数科の学び方を指導する。 ・問題文の読み取り方を指導する。(分かっていることと、問われていることとを読み取り、図や線分図等に表し、自分で解く ・解き方を文章に表し、考え方を説明する。 ・全員が発表し、互いの考え方を知るとともに、深め合う。 ○学年に配当されている漢字の読みを授業・ドリル時間・家庭学習において身に付けさせる。 | ○児童は問題文の読み取り方や、自分で解き、書く等のやり方を身に付けてきた。また、自分の考えを臆せず言えるようになり、友達の意見を聞き、考え合える学習集団になってきた。 △自分の考えを書くことについては、今後も指導を要する。 ○漢字の読みは概ね達成した。 |
| 生徒指導 | ○豊かな心の育成を図る。 ・様々な取り組みをする中で自信を付けさせる。 ・友達の良さを認め合える仲間づくりを更に進める。 ・学校生活におけるルールを知り、守る意識を持たせる。 ○全校生の前で大きな声で発表や意見が言える。 | ○教育活動において児童に付けたい力を教職員が共通理解する。 ・全学級において同じ視点で取り組む。(実践中の交流をする) ・児童に具体的な目標を持たせ、努力することにより、成果につながることを理解させながら取り組みを進める。 ・生徒指導のねらいを児童会活動と関連付け、児童にねらいを意識させながら取り組む。 ○全校生の前で大きな声で発表したり、意見が言えたりする活動を多く取り組む。 | ○取り組みの途中の交流を大切にし、改善を図りながら全学級で様々な取り組みが進められた。 ○一人一人が目標を持ち、良く努力したことを評価することにより、自尊の感情を高めたり、友達の努力を認め合えたりすることができてきた。 ○児童会の月目標を児童自身が考え、決めることにより、意識しながら守ることができるようになった。 ○児童朝会等で誰もが発表できるようになった。 △学校生活におけるルールは取り組み中だけになりがちであり、未定着である。 |

| | | | |
|---------------|--|---|---|
| 健康(体育)・安全 | <p>○健康な体と根気強く取り組む態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康・体力の向上を図る。 ・自分の生活を見つめ、考えた行動ができる児童の育成 ・「食」についての意識を高めるとともに、良い食事のマナーを身に付ける。 | <p>○良い生活習慣を意識し、身に付ける取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートを行い、実態を把握するとともに良い生活習慣についての指導を行う。(早寝・早起き・朝ごはん等) ・アンケート結果をもとに、保護者への働きかけを行う。また、生活リズム等についての講演会も行う。 ・体力の向上に繋がる取り組みを全校で行う。 ・食に関する指導を行う。 ・委員会活動で手洗い・うがいの励行や食事のマナーについて呼びかける。 | <p>○朝ごはんを食べることは、家庭の協力もあり、定着してきた。</p> <p>△テレビ視聴の時間、早寝をすることなどは高学年においてなかなか守れない。</p> <p>○朝マラソン、縄跳び練習、外遊び、学年を越えた遊びなどが進められた。</p> <p>○栄養教諭を招聘し、食に関する指導を行うことで、好き嫌いの意識が少し解消された。(魚・野菜等)</p> <p>○手洗い・うがいの効用なのか、欠席者が少なかった。</p> <p>△食事のマナーについては、継続しての指導が必要である。</p> |
| 特別支援教育 | <p>個に応じた指導や支援を充実する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の努力の様子や、課題を丁寧に把握し、具体的な指導の在り方について協議し、指導を行う。 | <p>○教職員の共通理解による指導により、一人一人が意欲を高め努力をするようになってきた。</p> <p>△更なる課題解決のため、指導方法の改善や工夫が必要である。</p> |
| 研修 | <p>教師の指導力量を高める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会を充実させ、授業力を高める。 ・復講習を有効に行い、全教職員の学びとする。 ・職員室等で日常的に研修ができる環境づくりを行う。 | <p>○授業研究会に向けて、教材研究を丁寧に行うことにより、児童に学ばせる内容についてのより深い研修ができた。</p> <p>○経験がある教師による教科や生徒指導等についての日常的な研修が行われ、良い学び合いとなった。</p> |
| 保護者・地域との連携 | <p>○地域を学ぶ・地域から学ぶ。地域の協力を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い体験活動を行う。 ・安心・安全な登下校を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や社会科等の学習で行う。 ・地域にある施設について学んだり、交流したりする。 ・地域の見守り隊やむくどり子ども教室の協力を得る。 | <p>○地域の産業(梨の袋掛け等、田植え等)を体験することにより、地域の農業についての学習に生かした。</p> <p>○地域にある施設を見学したり交流したりすることにより、福祉に関する学習ができた。</p> <p>○事故なく安全な登下校ができた。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 確かな学力の充実と、更なる向上を目指した算数科の授業を中心として授業の研究を行う。 ・ 漢字の読みを児童全員に定着させる。また、書く力も付ける。 ・ 個に応じた指導や支援について研修や協議を行い、指導に生かす。 ・ 保護者・地域との連携を更に図り、学校教育への理解や協力を得る。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立神野小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|--|
| <p>1 学力の充実・向上の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いを言葉で表現し、伝えあい・深めあいのある授業づくり <p>2 豊かな人間性と心身ともにたくましい児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの違いを認めあい、励ましあい、苦手なことにもチャレンジする児童の育成 <p>3 安全・安心な学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の登下校の実施 <p>4 地域とつながる学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「神野チャレンジ教室」「神野っ子セーフティネット」への協力 ・ 挨拶でつながる学校・家庭・地域連携による安心、安全の確保（付き添いボランティア・SGLとの連携） <p>5 信頼される学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習参観懇談会の充実、家庭との連携、 ・ 学校評議員会・学校関係者評価の実施等 | <p>○授業改善により、学習規律や指導課題である「聞く力」も育ってきている。ドリルの時間を「漢字の読み書き、四則計算」の統一した内容で基礎基本の定着を図ることができた。</p> <p>○企画委員会・学年ブロックの連携、行事と連動する学級経営により、問題事象の未然防止となった。</p> <p>△自分の考え、思いを伝える表現力をはぐくみ、全教育活動を通してことばの力を向上させる。</p> <p>△互いの違いを認めあう豊かな心と規範意識を醸成する。「ありがとう・ごめんなさい」が言える児童の育成を推進する。</p> <p>△家庭と連携し基本的な生活習慣の確立と家庭学習の習慣化を図る。</p> | <p>1 学びあう子（知）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞く力、読む力、書く力、計算する力の向上から基本的な学習習慣の確立 ・ 主体的に学ぶ課題解決的な学習の授業づくり ・ 朝読書、国語・算数のドリル学習、放課後補習による基礎・基本の力の定着 <p>2 認めあう子（徳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規範意識を醸成するため、生徒指導と児童会活動を連動させて、全校あげて集団のルールの確立、集団生活づくりを進める。〔あ（挨拶）す（スリッパそろえ）・こ（5分前行動）・そ（掃除）は（走らない廊下）・やるぞー（家庭学習 10分間×学年の数）の習慣化を指導の柱として実践する。〕 ・ 「ありがとう」「たすかった」「うれしい」等の言葉を大切にし、自分の気持ちを伝えあい、協力して目標やすべきことに頑張る学級づくりの推進 ・ 全校集会、挨拶、登下校の指導の充実 <p>3 たくましい子（体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の目標に向かって苦手なことにもチャレンジする児童の育成 ・ 朝の体力づくり、児童会活動、休み時間、体育の授業等を通して、進んで運動する児童の育成 ・ 家庭と連携し、身につけなければならない基本的な生活習慣、家庭学習の習慣化の徹底 |

| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
|---------------|--|--|--|
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立 ・基礎基本の習得 ・児童が主体的に学ぶ授業づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・学びのきまりの指導の徹底 ・ノート指導の徹底 ・基礎基本の徹底と課題解決的な学習指導方法の研究・推進（放課後学習等の継続） | <p>○昨年度より発表し、友達の意見を聞き、ノートに丁寧に書いている。課題解決学習について国語科で実践した。家庭学習の自主勉強も全学年がしている。</p> <p>△自分の言葉で豊かに語る事ができる児童の育成</p> |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・月目標設定による指導の徹底 ・規範意識の醸成 指導の柱（を共通理解し | <ul style="list-style-type: none"> ・生指部、児童会担当との連携から課題解決に向けた月目標の設定、実践（学級指導と児童会活動とを一致させた指導の継続） ・規範意識の醸成のために「挨拶、スリッパそろえ、5分前行動、掃除、走らない廊下、家庭学習」の実践化 | <p>○学級と児童会の取組とが一緒になった取組や活動を通して、達成感と意欲が生まれた。（挨拶、5分前行動、掃除、家庭学習）</p> <p>○不登校なし△自分達の生活上の課題発見・話し合いの充実・解決の継続</p> |
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりの充実 ・登下校指導の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソンの継続、運動会、マラソン大会、大縄大会の実施 ・通学班長・班会の継続指導 | <p>○マラソン大会で3学年が新記録達成</p> <p>○登下校中の挨拶が増えたという保護者地域の声あり</p> <p>△通学班会で状況を振り返り、考え実行させることを継続</p> |
| 研修（教職員の資質向上） | <ul style="list-style-type: none"> ・指導法研究、実践 ・校内研の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導法の工夫改善の実践化・授業公開・事後研究の実施 ・講師招聘による研修実施、復講習、理論研の実施 | <p>○授業を互いに見合うことを3学期（2月）まで継続、事後研実施、児童による司会者をたてた授業の試行の実施</p> <p>△指導法の更なる工夫改善の追求（学習方法等）</p> |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全確保 ・体験活動の推進（地域連携） | <ul style="list-style-type: none"> ・付き添いボランティア、SGLとの連携による安全指導 ・地域主催による毎土曜日体験教室（午前中実施）への学校の参画、参加 | <p>○登下校中の指導の徹底を図り、安全に対する意識の向上・一列歩行の習慣化を図った。毎土曜日体験教室に教師も参加できた。ホームページを2日に1回更新した。</p> <p>△保護者の理解を得るために、行事等の変更の丁寧な説明をする。</p> |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内サポート体制の確立（指導計画作成等） | <ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童への指導の共通理解からの実践化（毎学期ごとに個別の指導計画作成・評価の共通理解） | <p>○学校全体で、個別の指導計画の共通理解のもとサポート体制ができた。</p> <p>△特別支援教育に対する児童・保護者の更なる理解の推進</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習後、児童からでてきた言葉（何かしてもらったら感謝のことば「ありがとう」、困っている人がいたら「どうしたの？」、人を傷つけてしまったら「ごめんなさい」のことばかけ）を大事にし、このことばでつながる人間関係づくりをベースにした学校経営を目指す。 ・ことばで考え・思いを伝えあうことをもとにした学習法の研究を行い、授業実践力を高め、学力充実向上を図る。教師の指導と児童会の動きを連動させ、児童自身が生活をつくっていく意欲を大切にしたい取組を学校全体で行い、学校と保護者と一緒になって取り組む（「あすこそはやるぞー」のような）実践を継続する。PTAとの連携のもとに取り組んだ生活リズム点検から基本的な生活習慣（生活リズム）づくり、自主勉強を継続させていく。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立湊小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--------------------------|---|---|--|
| ・自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く児童の育成 | | <ul style="list-style-type: none"> ○国語科(文学的な文章)を重点に、児童相互の伝え合う授業づくりを推進し、自分の言葉で伝え合う学びが広がってきた。 ○関わり合い・伝え合い・認め合いの「三合い活動」をキーワードに取り組み、学年を超えた児童の関係づくりが一層進んだ。 ○発達課題のある児童に対して、個に応じた指導を丁寧に進め、保護者からの厚い信頼を得ることが出来た。 △わかる授業づくりと低位の児童の学力の向上 △学校評価を生かした学校改善 | ・一人一人の確かな学力と温かな心を育む学校 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> (1)基礎・基本を徹底し、確かな学力をつける。 (2)指導と評価の一体化を図る取組を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書、昼ドリル、ミナトップ等の補習学習の充実 ・学力診断テスト・CRTテスト等の全校的分析及び課題把握、手立ての交流 ・学力検証(DRT)テストの実施と分析 ・個人カルテの作成と学力課題の次年度への接続 ・家庭学習についての啓発及び実態調査の実施 ・国語科を中心とした授業づくりを通して、観点別学習状況の評価を意識した実践の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○朝読書等の取組により、本に親しみ朝から学習に向かう姿勢が向上した。 ○全校的分析をもとに、学級や個々の学力課題を明確にした回復が図れ、個人カルテを次年度に接続できた。 ○家庭学習を取り組む環境づくりや意欲の向上が図れた。 △さらなる基礎基本の徹底に向けた取組内容の充実 △指導と評価の一層の充実 |
| 生徒指導 | (3)好ましい人間関係を図ると共に、一人一人の個性を伸ばし、課題に取り組む意欲と実践力を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢活動をもとに、学年を超えた児童の関わりを重視した取組の充実(児童会活動、放課後の時間等の活用) ・やり遂げる感動、達成感、成就感を体感させる行事及び取組の充実(フィールド学習、春の運動会、大縄大会等) ・「生活見直し週間」の実施 ・「湊大橋」(生徒指導ニュース)の発行 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童会行事のめあてを「3合い活動」(伝え合い、認め合い、鍛え合い)の視点で明確にして取り組む中で、温かい児童の関係が深まった。 ○「生活見直し習慣」の取組により、児童の生活の立て直しが図られ、「湊大橋」で家庭にも啓発できた。 △自己肯定感を高め、意欲的に行動できる児童の育成 |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 健康(体育)・安全 | (4)自分の心や体を見つめ、より健康で安全に生きようとする児童を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通したミニ保健指導の実施をもとに体や健康に対する意識を高める。 ・食に関する年間指導計画の作成及び栄養教諭と連携した食育指導の実施 ・地域見守り隊と連携した登下校の安全指導 ・関係機関と連携した防犯教室及び避難訓練の実施 ・年間を通した体力作り及び外遊びの奨励 ・保健だよりを活用した保護者への喚起・啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ○保健行事等を活用して、保健指導が一層進んだ。 ○給食週間の取組では、栄養教諭とのTT指導により食育指導の充実が図られた。(中・高学年を中心に) ○地域と連携した登下校時の安全・安心の取組が進んだ。 △安全点検の徹底を図り、安全に対する意識を高める。 △業間や放課後を活用した外遊びの奨励 |
| 特別支援教育 | <p>(5)障害のある児童一人一人の教育的ニーズに応じ、課題の克服を図りながら個性や能力の伸長に努める。</p> <p>(6)すべての児童が障害のある人を正しく理解するための指導を計画的に進める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害を持った児童への個別指導と教育相談の実施 ・スクールカウンセラーなどの関係機関と連携した教育相談活動の実施 ・対象児童のアセスメント票や個別指導計画等の作成及び具体的な指導 ・人権講話(障害者の方の話)や体験学習等の実施 ・特別支援教育部の機能化 | <ul style="list-style-type: none"> ○発達上課題のある児童に対する取り出し指導を実施するなど、個々のニーズに応じた指導が行えた。 ○医師やスクールカウンセラー等、関係機関と連携しながら具体的な教育相談活動を進めることが出来た。 ○身体障害者の方を招聘し、話を聞いたり実際に車椅子体験を行うことが出来た。 △個別の指導計画、支援計画等の内容充実 |
| 研修(教員の資質向上) | <p>(7)国語科を重点教科に、「伝え合う」授業づくりを進める。</p> <p>(8)新学習指導要領の理解を深める研修の充実を図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・国語科(説明的な文章)の研究授業をもとに豊かな伝え合いを目指した授業づくりの推進 ・外部からの講師を活用した研修の充実 ・新学習指導要領に係る校内研修の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○全学年で研究授業を実施し、充実した事前研・事後研を通して読みを深める授業づくりを学ぶことが出来た。 ○総合教育センター(北部研修所)の出前授業により、校内研修の活性化が図られ、内容的にも深められた。 △外国語活動等の指導に生かせる研修の実施 |
| 開かれた学校づくり | (9)教育活動内容を積極的に伝え、信頼される学校づくりに努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者(学校評議員、民生児童委員等)との定例的な懇談会の開催及び教育活動の具体的な説明 ・地域の自然、歴史、産業等を生かした地域学習の取組充実 ・たより、HP等による教育活動の地域への発信 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校関係者と毎学期懇談会開催し、学校の取組について丁寧な評価を受けることが出来た。 ○社会科、総合学習等で地域から豊かに学べ、学んだことをたよりやHP等で地域へ発信出来た。 △学校関係者等の評価をもとに学校の活性化につながる。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>1 基礎基本の徹底をもとにして、学力の一層の充実・向上を図っていく。</p> <p>2 伝え合い・認め合い・鍛え合いの「3合い活動」をキーワードに、「生きる力」の育成につながる児童の関係づくりをより確かなものにしていく。</p> <p>3 児童をしっかりと育て鍛える指導力の向上を図るために、校内研修をより充実したものにしていく。</p> | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|--|--|
| <p>【教育目標】 「確かな学力を身につけ、こころ豊かで、たくましく主体的に生き抜く生徒の育成」</p> <p>【めざす学校像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとって開かれた学校 <p>【めざす生徒像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って生き生きと活動する生徒 ・人の気持ちがわかる優しい生徒 ・心のこもった挨拶ができる生徒 ・からだを鍛え、たくましい生徒 <p>◎確かな学力の育成 ◎豊かな心の育成 ◎開かれた学校づくり</p> | | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力課題の分析に基づいた授業、学力の定着を図る校内授業研究会、週末課題、補習・補充学習の実施 ・京都式少人数授業の実施（英語・数学） ・不登校生徒への組織的な対応により好転した生徒が増加 ・多様な指導方法による道徳授業の実施 ・組織的な体制と早期発見・早期指導により問題事象が減少 ・積極的な学校公開、情報発信 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学力生徒への指導、家庭学習の定着、意欲・関心を高める指導方法 ・不登校生徒の解消と未然防止 ・全教育活動を通して人権意識・規範意識を醸成する指導 ・個別の支援計画による個々の生徒への具体的な指導 | <p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業実践力の向上 ○言語活動の充実 ○学習習慣の確立 ○総合的な学習の時間の充実 ○読書活動の推進 <p>【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育を全ての教育活動で展開 ○人権・規範意識の醸成 ○不登校・いじめの未然防止 ○健全な食生活の実践 ○体力の向上・健康安全教育の推進 <p>【開かれた学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校・地域・家庭との一体化 ○家庭の教育力の醸成 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の先行実施 ・学習意欲の向上 ・指導方法の工夫改善 ・学力課題の分析 ・基礎基本の定着 ・学習規律の確立と家庭学習 ・習慣の定着 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の見直し、時間数の確保 ・各種のテストの客観的な分析に基づいた授業、補習・補充・週末課題、小テストや繰り返し学習 ・少人数授業（数学・英語）の実施 ・全教員による校内授業研究会の実施 ・学力と生活の相関関係について保護者に啓発 ・生徒の学習状況の交流（毎週） | <ul style="list-style-type: none"> ○低学力の生徒の意欲が向上し、学力が定着 ○課題に応じた指導などで生徒の意欲が向上 ○習熟の程度に応じた授業の実施 ○客観的な資料に基づいた説明で保護者の意識が変化 ○全教職員による学習状況交流により、学習規律が定着 △生徒に興味関心を持たせる授業実践力 △家庭との連携を図った家庭学習習慣の定着 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の内面に迫る指導 ・問題事象の減少 ・的確な生徒の実対把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのふれあいの時間を確保、学級経営及び部活動指導の充実（心をゆさぶる指導、ミーティングを重視） ・道徳の時間との関連を図った行事、学級・全校指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○全教職員で生徒の指導にあたることで、生徒との関係づくりが構築（部活動のミーティングの内容も充実） ○アンケートや的確な日々の実態把握により、問題事象 |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見・早期対応 ・不登校出現率の低下 ・生徒の主体的な取組 ・保護者への情報提供 ・関係諸機関との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・短期・中期の指導方針の提案、報告・連絡・相談の徹底 ・毎日(学年)、毎週(生徒指導部)生徒の実態把握と交流 ・教育相談部(的確な実態把握と分析、具体的な方針など) ・定期的な全校集会(生徒の主体的な取組、教師の講話) ・P.T.Aへの積極的な情報提供 ・警察、遊技場、医療関係などと定期的に情報交換 | <p>を未然に防ぐことが出来、問題事象の件数が減少傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全教職員の情報の共有化で一致した指導が展開 ○個別の指導計画、ケース会議、S.Cとの連携、継続的な保護者面談など組織的対応により回復した生徒が増加 △家庭との連携を図った規範意識・人権意識の醸成 △不登校・問題事象の減少 |
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・体系的な保健教育の推進 ・組織的・計画的・継続的な食育推進計画に基づいた取組の推進 ・安全な生活を営むための安全教育の推進 ・体力の向上に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいた保健学習、保健指導 ・道徳・総合・特別活動との関連を図った保健教育の指導 ・基本的な生活習慣の確立を図るための保護者への啓発 ・教科等との関連を図った食に関する指導を推進 ・交通安全指導の徹底(交通教室、P.T.Aとの連携) ・避難訓練の実施(地震・火災・不審者) ・体力の客観的な分析に基づいた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○現代的課題に対応する保健教育の実施(薬物、性教育等) ○保健・安全計画の策定 ○スクールランチ(毎日)の放送により給食マナー、感謝の気持ちなど生徒の給食に対する意識が高揚 △校内外の安全指導の徹底(特に自転車の交通マナー) △危機管理マニュアルの見直しと改善 △教科等との関連を図った食育の推進 |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織的・系統的なキャリア教育の推進 ・進路相談室等を活用した情報提供と進路相談 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいた系統的な進路指導 ・啓発的経験を得させる活動 ・計画的な進路相談 | <ul style="list-style-type: none"> ○組織的・系統的・計画的な進路指導を各学年で実施 ○福祉体験(1年)職場体験(2年)体験セミナー(3年)などの啓発的な体験活動が定着 ○二者・三者面談を定期的実施、生徒の意識が高揚 △進路相談室の有効活用 |
| 小中連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見据えた教育の推進に向け、小中の課題を共有化するとともに、課題の克服に向けて連携を一層充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力充実担当者会の実施 学力の分析、授業参観、出前授業、体験授業、校内研修 ・教育相談担当者会の実施 不登校児童・生徒の課題交流及び研修 | <ul style="list-style-type: none"> ○小中の学力課題や指導方法をお互いに交流することで授業改善が一層推進 ○課題を共有することで、不登校に対する指導が充実 ○中学校への円滑な接続 △系統的な指導 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開など地域や保護者に積極的な情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容、生徒の活動などを保護者や地域に発信 ・地域への奉仕活動 ・学校の評価結果の公開 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校行事には500名の保護者や地域の人が参観 ○地域と一体となったクリーンキャンペーンを実施 ○保護者アンケートも高い評価 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>◎ 当たり前のことが当たり前に出来る生徒の育成 (学力の向上と心の教育を基本に据えた学校経営)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教職員の資質能力の向上(生徒の心を揺さぶる教員、授業で勝負できる教員) 2 組織として機能する学校(心と学力のプロジェクトの機能化、生徒の実態や客観的な資料分析に基づいた具体的な指導) 3 家庭や地域と一体となった教育活動(開かれた学校、積極的な情報発信、地域の人材活用) | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|---|
| <p>1 生涯学習の基盤として、豊かな心とたくましく生きる力の育成をめざし、基礎基本を徹底し、確かな学力を付ける教育活動の充実を図る。</p> <p>2 教養と社会対応力、思いやりの心を持つ視野の広い生徒を育成するため、学校内外での体験活動と生徒指導・教育相談を充実させる。</p> <p>3 体育・スポーツ活動を重視し、挑戦することを通して向上心、忍耐力、協調性等の育成を図る。</p> <p>4 地域・保護者連携を高め、開かれた教育活動を通して信頼される学校づくりを推進する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>教育活動に対する「結果責任」意識の高揚</p> | | <p>「文武両道」を伝統とする学校として、心技体の調和のとれた生徒育成をめざし教育活動を進めた。</p> <p>○全体指導を重視し、規律があり安定した学校生活につなげ、生徒・保護者の学校評価も上昇した。</p> <p>○教師力向上の研究指定を生かし、授業改善や学力充実につながる諸活動を展開し、教員のスキルアップや学力向上につなげた。</p> <p>○開き発信することを通して学校力を高めるため各種の取組・活動を積極的に展開し成果につなげた。</p> <p>○課題を踏まえて部活動の充実に取り組み、各種調査結果も高まり、各大会の結果にもつながった。</p> <p>△生徒の変容につながる学級経営、生徒指導、授業改善への一層の工夫と努力を行う。</p> <p>△不登校問題の改善に向けて、多面的な検討を進める必要がある。</p> | <p>～文武両道の大宮中学校～</p> <p>☆ふれあい・対話を通して、友を支援励まし合う、規律ある生徒を育成する。</p> <p>☆分かりやすい授業を通じた基礎学力の定着や言語力の育成を通して、学力向上に努める。</p> <p>☆道徳教育、体験活動、部活指導等を通して、たくましく豊かな心を育てる。</p> <p>☆地域連携、小中連携を踏まえて、教育活動の質的向上をめざす。</p> <p>《生徒に求める心と姿勢》</p> <p>①気持ちよく挨拶する。(いつでも、どこでも)</p> <p>②感謝の心を持つ。(ありがとうの心と言葉を)</p> <p>③相手、そして自分の持っているものを大切にする。(相手、次に自分)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>《教育活動への信頼度》</p> <p>生徒評価・・・71%、保護者評価・・・85%</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <p>○指導力量、授業改善につながる研修の充実と意欲的な授業公開に努める。</p> <p>○生徒の学力を高めるため組織的、意欲的な活動を展開する。</p> <p>○授業改善に向けた計画的な活動を展開する。</p> <p>《教科共通目標の観点》</p> <p>①開かれた授業と指導力の向上</p> <p>②規律ある分かりやすい授業</p> <p>③基本の徹底、言語力の育成</p> | <p>☆「見せる、見せられる」教育活動を積極的に進め、学校教育の充実並びに指導力の向上につなげる。</p> <p>☆目標を明確にした授業公開を増やし、評価を受ける中で授業改善を進める。</p> <p>☆各学力テストの分析や授業評価アンケート(2回)等を通して学力実態、学習状況を把握し、期待に応える授業・学習指導を進める。</p> <p>□学習指導の目標を意識した授業研究を計画的に実施し、授業改善を進める。</p> <p>□各種学力テストを分析検討し、教科に指導の方向性を示す。</p> <p>□協同学習、「学集会」、家庭学習支援等を通して学習状況を把握し適切な提起につなげる。</p> | <p>○6回の休日参観日を含む13回の参観日を設定し、参観者を増やすために様々な工夫を進めた。(年間2000名程度の参観者)</p> <p>○授業改善に向けて、工夫した定期的な研究会を実施すると共に、授業姿勢・評価等アンケートも年間2回行い、改善に活用した。(各教科1～2回授業研、全体授業研3回実施)</p> <p>○授業以外の学習指導も積極的に進め、協働意識の下で基礎学力定着につながっている。「協同学習」(終SH後30分間×9日間×3回)・「学集会」(休業中の学習活動)・「ふりスタ」(1学期から16日間実施)</p> <p>△授業規律課題への組織的総合的な努力の継続</p> <p>△家庭学習の定着に向けた家庭連携の充実</p> |
| 健康安全 | <p>○健康を第一に考え、健康と安全に関わる指導、訓練を計画的に行い徹底する。</p> <p>○生徒の安全を守るための関係諸機関との連携を進める。</p> | <p>☆火災・不審者・地震等の避難訓練並びに情報化社会への適正な対応力を高める啓発・指導を通して、危機対応力を高める。</p> <p>☆PTA活動と連携し交通安全等安全に関わる取組を展開する</p> <p>□生きた教材としての学校給食に関する活動・取組を通して、食生活への関心を高める。(給食委員会との連携)</p> <p>□安全につながる基本的生活習慣の充実に努めると共に、生徒会・委員会活動と連携した取組、活動を展開する。</p> <p>□保健体育科と連携した性教育や保健指導等の充実を進める。</p> | <p>○部活中のケガの多さを踏まえ、各部の予防研修、熱中症予防講演会、緊急対応研修等を行った。</p> <p>○新型インフル予防対応を総合的に進め、2学期予定行事もすべて実施できた。</p> <p>○保健便り、安全ニュースを適宜発行した。</p> <p>○情報社会対応講演会を警察と連携し実施した。</p> <p>○PTA活動(「ここにこカー」活用21日間)と連携した交通、登下校の安全指導ができた。</p> <p>△食育の充実と交通安全指導の徹底。</p> |

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>生徒指導 教育相談</p> | <p>○支え合い、指摘し合える生徒を育てるための緻密な学級経営 ○生徒の内面理解に努めると共に問題事象や現状の背景分析と家庭、関係諸機関等との連携を丁寧に進める。 ○報告・連絡・相談による早期発見、早期対応(個別指導)の充実を進める。 ○スクールカウンセラー、教育相談担当者との連携充実を図る。</p> | <p>☆ふれあい、話し込みを大切にし、事象対応は「スピード・丁寧・誠実」を意識し、動きを止めない指導を進める。 ☆ルール、マナーを守り、挨拶のできる生徒を育てる。 ☆定期的にアンケート等を実施し、生徒の悩みや相談について把握し、指導・支援を行う。 □支え合いと他者へ指摘できる態度の育成など学級経営重視を軸とし、反社会的問題事象の減少を一層進める。 □支え合う心の育成など学級経営重視を軸とし、不登校生徒の減少に努める。 □家庭訪問など保護者との接点を大切にし、専門家との連携を通して、各生徒の早期改善をめざす。</p> | <p>○反社会的事象が増加し、規律の緩みが危惧される中、協働意識を高め、前向きな努力が継続できている。 ○諸課題の解決に向けて、保護者・PTA並びに関係機関との連携を重視し、改善に取り組んだ。 ○不登校問題の解決改善に向けて、手法の改善や様々な工夫を進め、成果にもつなげた。 △情報交流の迅速・徹底を進め、状況の共通認識を高め、規範意識の回復を図る。 △不登校生徒の数的状況の改善に向けて、小中連携の充実など一層の工夫と努力</p> |
| <p>特別活動</p> | <p>○教育目標、重点目標に沿った内容の工夫改善を進める。 ○生徒会本部、各中央委員会、各専門委員会はねらいを持って動きが見える活動を行う。</p> | <p>☆合唱祭、体育祭の活性化を意識し、成功させる。 ☆行事、学校生活の充実のため、わかりやすく動きの見える活動を行う。 □生徒会本部の指導性が発揮される活動、取組を展開し、生徒活動の充実を図る。 □各専門委員会、各中央委員会の活動を調整し、生徒の充実感につながる分かりやすい取組を展開する。</p> | <p>○ねらいを明確にし、学級づくりにつなげながら、達成感を高め、行事の成功につなげた。 (活動の高評価90%超と多数の参観者) ○一日の生活の中で、各委員会が役割を分担し委員の充実感につながる分かりやすい取組が展開できた。(見える活動の充実) ○自尊心の高揚も意識した多様な講演会等の実施 △生徒会活動の活性化と機能化の追求。</p> |
| <p>進路指導</p> | <p>○進路実現をめざし、各学年で実態に合った効果的な進路学習、指導を行う。 ○進路に関わる保護者連携、情報発信を各学年で丁寧に進行。</p> | <p>☆3年間を通じた系統的な進路情報の提供を行うと共に、12月に全学年で三者面談を実施し、指導に生かす。 □将来を見通した系統的で体験的な進路学習(キャリア教育)の充実を進める。 □3年生の希望進路実現に向けて課題意識を高めるため、2学期以降の学習活動の充実を進める。</p> | <p>○全学年三者面談は進路・学習・生活全般を考えるよい機会となった。 ○地域の協力を得て農業、福祉、職場体験等を実施した。(生徒評価89%、保護者評価97%) ○進路指導との関連性を高めた学習活動の充実。 ○系統的で丁寧な進路情報の提供に努め、生徒・家庭の意識を高めることができた。 △キャリア教育の充実と進路学習教材の整備</p> |
| <p>開かれた 学校づくり (保護者・地域との連携)</p> | <p>信頼される学校づくり ○学校開放と教育内容の充実を進める。 ○積極的な広報活動に努め、地域貢献を進める。 ○評価活動を進め、教育充実につなげる。</p> | <p>☆教育活動に対する外部評価、各アンケートを行い、次年度に生かす。 ☆教育活動の公開、発信を心がけ、地域連携の教育を推進する。 ☆ホームページ更新を定期的に行うと共に、利用しやすさを追求する。 □ホームページ更新のできる教職員を複数養成する。 □民生児童委員、保護司会など関係団体との連携を大切にし、情報交流を進める。</p> | <p>○様々な公開を通して教育活動と個々の指導力を高めようとする姿勢が定着してきている。 ○教育評価アンケート(PTA・生徒)の実施 ○情報発信を心がけ、ホームページ更新(40回程度)は積極的に実施した。(PTA閲覧率42%) ○学校支援ボランティアを活用し、教育活動の充実につなげた。(6種8名延べ60日程度) △地域と連携した教育活動の質的向上</p> |
| <p>次年度に向けた 改善の 方向性</p> | <p>文武両道の伝統を継承し、生徒・保護者・地域社会から信頼される、より良い学校づくりを進める。現状を踏まえ危機感を持ち、目標の焦点化、明確化を進め、責任感、組織力、協働意識を通して課題の解決改善につなげる。教育活動を支える心として、「生徒に求める心と姿勢」をあらゆる角度から指導する。</p> | | <p>(次年度の重点目標の方向性) 1 規律ある学校・学級経営の充実 2 分かりやすい授業を通じた学力充実、向上 3 生徒会活動の活性化と部活動の重視継続 4 小中連携の充実と学校支援地域本部事業活用</p> |

平成 21 年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学び、確かな学力を身につける。 ・自尊感情を尊び、豊かな心を育てる。 ・心身を鍛え、克己心を養う。 ・地域に開かれた学校作りを進める。 | | <p>△学力の二極化（数学）、下位層（生徒指導上の課題を含む）への具体的な手立て、学習習慣の定着を図る。</p> <p>○不登校出現率を低位にとどめた。(H19:5人、H20:5人)</p> <p>○好ましい人間関係が全体に広まってきた。</p> <p>△あいさつや制服の着こなしなど外部の評価に耐えられる価値観を育成する。</p> <p>○校種間・関係機関・関係団体との連携が進んだ。</p> | <p>学習規律の確立</p> <p>【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人の話を聴く」 ・「時間を守る」 ・「考える」 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立を基盤とした授業改善による基礎学力の定着 ・学習習慣の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業における効果的な講座編制 ・学力実態分析、年4回の校内授業研究会の実施 ・学力充実向上部、生徒指導部を中心とした授業規律の徹底 ・特別活動部による授業規律の確立を目指した生徒の主体的な取組 ・週末課題、ドリル学習、教え合い学習の実施 ・長期休業中の補充学習 | <p>○基礎学力の定着が各種テスト結果（国語、数学、英語）に数値として現れた。</p> <p>○落ち着いて授業が開始できるようになるなど全体として学習規律が一步前進した。</p> <p>△授業規律の確立、基礎学力の定着が個々の教師の指導力に大きく左右されており、教科部会の充実など、指導方法の工夫改善をさらに組織的に進めていく必要がある。</p> |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の醸成 ・生徒との信頼関係づくり ・好ましい人間関係の育成 ・問題事象の未然防止 ・教育相談活動の充実と家庭との連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動、業間指導等、生徒とのかかわりの重視 ・毅然とした指導、問題事象等の正確な情報収集と教職員の共通理解、複数指導等の組織的な対応（週1回定例の生徒指導部会及び教育相談部会の実施、週1回定例の「気づき」の発行、保健室を中心とした教育相談活動及び情報収集） ・望ましい集団活動の活性化（体育祭、合唱祭、部活動、ボランティア活動における活動の工夫） | <p>○生徒の主体的な活動が活性化し、全体として規律ある学校生活が送れるようになった。</p> <p>○不登校出現率（年間30日以上）を低位にとどめることができた。(H20年度5名、H21年度7名)</p> <p>△生徒の居場所づくり、怠学傾向にある反社会的問題事象を繰り返す生徒への具体的な個別の指導を工夫する必要がある。</p> |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進 健康教育、性教育の充実 安全に対する意識の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> 毎日の健康観察、保健室の来室状況の把握、養護教諭と連携した組織的な指導、保健だよりの発行 薬物乱用防止指導、性教育等の系統的・計画的な実施 毎日の登下校の安全指導の励行、定期的な PTA 登校指導、交通安全教室の実施(1年) 生徒会保健委員会の活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○健康管理を適切に行い、健康づくりを推進した。 ○性教育の指導計画を見直し、3年間を見通し実態に合った指導計画に改善できた。 ○ヘルメット着用が定着し、登下校中の交通事故発生も減少した。 △安全に対する危機意識の高揚を図る必要がある。 |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望の実現を目指す取組の充実 自己理解、望ましい職業観の育成 進路情報の周知と啓発的な体験活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 進路学習(各学年)、福祉体験活動(3年)職場体験(2年生)の実施。 生徒対象の講話学習(職業安定所職員、高等学校教員)、保護者対象の進学説明会の実施(6月:3年、10月:全学年対象)、進路だよりの定期的な発行 高校が実施する体験学習や体験セミナーへの積極的参加 全学年三者面談の実施(11月)二者面談(必要に応じて) | <ul style="list-style-type: none"> △啓発的な体験活動をさらに計画的・系統的に取り入れる必要がある。(今年度は新型インフルエンザ感染予防のため、2・3年生の体験活動を中止) △よりきめ細かな個別の指導を行う必要がある。 ○進路情報を適切に保護者へ周知し、進路指導を進めることができた。 |
| 研修(資質向上の取組) | <ul style="list-style-type: none"> 本校の課題に応じた研修の実施(授業規律の確立を基盤とした授業力の向上) 初任者研修を校内研修の場として活用 教職員の学校運営への参画 | <ul style="list-style-type: none"> 教科部会による指導方法についての研修と指導の統一 初任者や先輩教員による研究授業と事後研究会の実施 先輩教員との複数指導や複数家庭訪問等の実施 学校評価と教職員評価の連動と有効活用 | <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の危機意識と共通理解が進み問題事象に全体が敏感に対応できるようになった。 △授業規律の確立をテーマとした研究授業を組織的・継続的に取り組んでいく必要がある。 △客観的データ等を活用し、学校評価及び教職員評価をさらにわかりやすく改善していく。 |
| 保護者・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれた学校づくり 双方向の情報交流を生かした学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応 生徒指導総合連携推進事業の継続・発展{小中高連携・関係機関・関係団体との連携(病院、市民福祉課、警察、保護司、民生児童委員等)} 地域の教育力の活用{ボランティア活動、職場体験、福祉体験、伝統文化体験学習、選択教科の外部講師(美術・家庭)} 学校評価の工夫改善 | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者や関係団体などと連携を深め、信頼される学校づくりを前進させることができた。 △ホームページなどを活用した定期的な情報発信を進めていく。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立を基盤とした授業改善による基礎学力の定着(若手教員の授業力の向上を目指した校内研修と教科部会の充実) 生徒の自律的な力、支え合う力の育成(生徒指導部と特別活動部の連携、行事や生徒会活動のさらなる工夫、部活動全体の活性化) 学習指導・生徒指導・教育相談における校種間、関係機関、関係団体との連携強化(情報連携から行動連携へ) | | |

平成 21 年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立橋中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|---|---|
| <p>1 学校教育目標 知・徳・体の調和のとれた発達を図るため「基礎学力の定着」と「学力の向上」を図り「豊かな心」と「主体的に生きる能力の育成」に努める。</p> <p>2 目指す生徒像 (1) 基礎・基本の学力を身に付け、目標を持って学習に取り組む生徒 (2) 郷土を愛し、思いやりの心を身に付けた生徒 (3) 何事にも「頑張り」「努力する」生徒</p> <p>3 学力向上のための具体的目標 1年 授業規律と基礎学力の定着 2年 学習意欲の向上と学習習慣の定着 3年 学力向上と進路を目指した計画的・意欲的な学習態度</p> | | <p>○目標標準学力検査、全国学力・学習状況調査、京都府中学校学力診断テスト等の結果によれば、学力は定着しており、特に3年生は大きく定着・向上した。</p> <p>○問題事象はわずかで、不登校生徒は0である。不登校傾向生徒も減少した。</p> <p>○地域行事への参加体制は強く、合同行事も生まれ、多くの参加が実現した。 (課題) △少人数授業の充実ときめ細かな指導による学力の向上 △特別支援学級生徒への複数配置の授業形態による基礎基本の定着及び社会性や生きる力を身に付けさせる指導の実施 △作品展等、地域を対象とする学校行事の工夫</p> | <p>○学力向上プラン ・「英語」「数学」の効果的な少人数授業を行う。</p> <p>・家庭学習の定着 ・「授業に集中できる」生徒を育成する。 ・学力向上に焦点化した小中連携の推進 ・長期休業中の補習授業の実施(夏・冬) 「ふりスタ」の活用 ・広域テスト全科目平均点以上(理解度の認証)</p> <p>○豊かな心と主体性の育成プラン ・道徳教育の充実 年間計画に基づいた授業実践 「京の子ども、明日への扉」の有効活用 ・職場体験、福祉体験学習の効果的推進 ・活力と思いやりを大切にする学級経営 ・特別支援学級生徒に「社会性」を身に付けさせることを主眼とした指導の推進</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | ○学力の向上 昨年度の「京の子ども 夢・未来校(学力向上公募校)」の研究成果を生かし、更に授業改善を目指す。また、家庭学習の定着について、課題提示(宿題)や自主学習の在り方を研修し、保護者の理解・協力を得ながら、連携し推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科において読解力向上を視点を据えた授業を行う。 ・5教科で授業改善プランの立案と改善を行い、読解力の向上と意欲の向上を意識した授業展開をする。 ・上記プランの交流や検討・検証を行う。 ・広域テストやCRT等で平均以上を取る取組(リピート学習、時間内小テスト、放課後学習、家庭学習の充実、協同学習など)を実施する。 ・週末課題を提示し、確認テストを実施する。 ・生徒全員にやり切らせる指導を行う。 | <p>○目標標準学力検査、全国学力・学習状況調査、京都府中学校学力診断テスト等の結果によれば、学年によりバラツキはあるが、学年が上がるにつれて学力は概ね定着している。</p> <p>○生徒は落ち着き、授業規律は大きく崩れることはない。</p> <p>△意欲的に意見を発表する態度の育成等、自己表現力を伸ばすために国語科でのNIEや総合的な学習の時間の指導で改善を目指したが、十分な成果が得られなかった。</p> <p>△家庭学習時間が少なく、家庭での主体的な学習習慣の育成が課題である。PTA等、家庭との連携による改善を図る必要がある。</p> |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒のより良い人間関係育成 ○不登校生徒出現の未然防止 ○ネット関連問題事象の未然防止を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導を行う。 ・学校生活のきまりを徹底する。 ・生徒指導部会を毎週開催する。 問題事象が発生した場合は、その日の内に解決を図る。 ・朝会開催時に生徒指導部より課題提起と指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導主任を中心に指導方針に基づいて指導を進め、問題事象への迅速な指導を行った。 △ここ数年0であった不登校生徒を出してしまった。 小学校から引きずる人間関係の課題を中学校で解決できず、不登校の兆しへの初期対応が不十分であった。 |
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が日常生活や安全教育・性教育等を通して、主体的に健康で安全な生活を創り出す態度を育成する。 ○食育教育の推進 危機管理体制の整備・充実と全教職員の危機管理意識の向上 ○通学路の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康維持のために、養護教諭が中心となり保健室指導および学級指導を行う。また、性教育等の指導を進める。 ・給食週間の取組を通して食育を充実させる。 ・避難訓練を各学期に1回以上実施。 ・校内施設・設備の安全点検を各学期に1回以上実施 ・P-T-Aへの安全指導の協力依頼および教職員と連携協力による安全確保(行事、朝の登校時、日没の早い晩秋の下校時の安全指導) | <ul style="list-style-type: none"> ○登下校時や学校行事等における交通事故や大きな事故等はなく、安全が保たれている。 ○生徒の実態調査アンケートから始まる給食週間を充実させ、生徒の食や食生活への関心を高めた。 △部活動時間等において、体育館やグラウンドでの負傷が見られた。生徒の体力や敏捷性の低下等に起因すると考えられるもの、不注意によるもの等が見られ、生徒の実態に合わせた指導の充実が必要となっている。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者及び地域との連携を強化し、教育活動に対する評価を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月学校だよりの発行 ・行事前の案内状の配布と新聞折込の実施 ・学校評議員・P-T-Aとの連携強化 ・年2回学校評価アンケートの実施 ・地域行事への積極的な参加 | <ul style="list-style-type: none"> ○広報活動を充実させ、P-T-Aとも連携しながら学校や学校の取組を広く周知した。作品展やP-T-A主催の発達障害等をテーマにした講演会等は、昨年度の反省を踏まえて取り組み、参加者は急増した。 △学校評価に関わるアンケート等の充実(項目等) |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見通した計画的・系統的な進路指導・キャリア教育の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路関係の取組を充実させて、生徒が将来の目標に向かって主体的に学習する機会を与える。 ・三者面談・進路説明会の充実と3年進路希望調査の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○3年生の進路指導において情報収集に努めると共に各家庭との連携を深め、学校の指導内容について理解を得ることに努めた結果、納得のいく進路決定が進んでいる。 △キャリア教育と進路指導のカリキュラムの整理 |
| 特色ある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ○「豊かな心」「主体的に生きる能力」を育成するため、総合的な学習の時間や道徳教育、また進路指導における職場体験等体験学習のカリキュラムの充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、地域調べ学習と共に福祉体験学習を充実させる ・2年生は、職場体験学習に加えて、新たに地域の産業である農業体験学習を実施する。 ・3年生は、地域の福祉施設を利用した福祉体験学習を実施する。 ・生徒会活動の一環として、P-T-Aと連携し校区内全家庭対象の廃品回収および文化鑑賞会を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○体験学習の充実のために地域産業分野の体験場所の開拓に努め、新たに農業体験を実施することができた。 ○P-T-Aとも連携し、学校評議員の助言も得ながら、従来から実施している校下全地域をあげての廃品回収を今年も取り組み生徒の主体的な活動となるよう指導に努めた。 △農業体験の指導カリキュラムの改善・充実 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ○少人数授業によるきめ細かな指導の充実による学力の定着と向上 ○家庭学習の充実による主体的な学習態度の育成 ○特別支援教育について <ul style="list-style-type: none"> ・複数教員配置の授業による基礎基本の定着 ・生徒の発達課題に応じた指導計画を立案し、社会性や自立を助ける指導の実施 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立間人中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---------------------------------|--|--|
| 1 確かな学力を身につけ進路を切り拓く力をつける。 2 心の教育の充実をめざし、豊かな感性を身につける。 | | 生活規律の向上をめざす指導と進路の実現にむけた取組み(ドリル、補充学習等)により意欲的な学習を行なおうとする気運が高まった。 個々人の実態に応じた内面に訴える指導を展開させることに課題が残った。(学力向上、問題行動の対応) | 1 わかる授業の展開、意欲の醸成 (1) 授業規律の向上、既習事項を確認させる。 (2) 自信につなげる補充学習の設定し、検証する。 2 良好な人間関係構築、人権意識高揚 (1) 生徒理解に徹する。(教科指導、学級指導、面談を通して) (2) 道徳の時間、部活動の活性化を図る。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | 学習習慣を定着させ、学力向上を図る。 | 既習事項習得の確認テスト、理解度の把握、計画した中心発問等による授業展開を充実させる。 教員の参観授業の結果をもとに授業の構想を工夫すること 思考力を試す問いかけを盛り込む定期テストにすること | ○繰り返し行なう学習により重点事項が理解できるようになった生徒が増えた。 △基本問題に対応ができて長文の読解、思考力、表現力については課題がある。学習内容を整理し、的を得た説明により、じっくり聞かせる指導を行なうことである。 |
| 生徒指導 | 目標を確認し、つけるべき力を自覚させ、今後の生き方を支援する。 | 全教員一斉に行う教育相談活動(全校生徒対象) 評価集会(保護者、地域、教師、生徒からの声をもとにした良さを認め合う場の設定) 生徒への個別対応 | ○面談を通して生徒の実態を把握し、今後の指導が効果的にできた。 △内面に迫る指導に心がけ、さらに生徒と教師の良好な信頼関係を築き、先行的な指導が要る。 |

| | | | |
|-------------------------|--|--|--|
| 健康(体育)・安全 | 心身ともに健康で安全に過ごす生徒を育成する。 | 日々の健康観察と指導(朝練習への参加、給食の状況把握、保健室への来室) 保健教育(健康管理、性教育、薬物指導)・・・保健所との連携、講話 安全教育(交通マナー、登下校の指導、避難訓練)・・・交通教室の実施、PTA 交通指導 | ○就寝・起床、運動、食事のバランスが整い、朝のトレーニングへの参加生徒が増え欠席者が激減した。保健室へ来室する生徒の思いに共感し自立する支援ができた。 △自分自身の心と体の状態をしっかりと把握させる必要がある。 △安全指導は関係機関、保護者や地域と連動した取組を今後さらに継続していくことである。 |
| 進路指導 | 望ましい職業観や勤労観を身につける。 | 1年福祉体験、2年職場体験、3年高等学校体験セミナーへの参加、全学年 進路学習(講話 ハローワーク、地域住民他) | ○地域の方からの講話は、将来を展望し、よりよい生き方を模索できた。 △体験し、実感したことを日々の生活に生かす指導が必要である。 |
| 特色ある学校づくり(1) | 基礎基本を定着させ、分かる喜びを味わわせ、できることを増やし、自信につなげる。 | チャイムなしの学校生活 生徒の自主的な活動の育成 放課後重点補強学習 全学年 火曜日・木曜日 家庭学習 月曜日～木曜日1時間以上の学習(毎日の課題提示) 金曜日(3教科週末の課題) 個別学習 学力実態にあわせた問題の提示 | ○家庭学習が定着し、自主的な活動ができるようになった。 △できる喜びや自信をもたせ、さらに学力向上をめざす取組を継続していく必要がある。 △学習内容の検証結果をもとにした適切な教材を作成することが臨まれる。 |
| 特色ある学校づくり(2) 保護者・地域との連携 | 教育活動の理解、協力を求め、生徒の健全育成をめざす。 | 地域貢献活動(6月学年ごとの浜掃除作業 8月各区長と生徒の相談後、町内公共施設等の清掃活動 9月生徒と保護者、地域住民と海岸清掃)・親子行事(PTA活動) 地域へ生徒の活動を発信すること(吹奏楽演奏 福祉施設慰問、ミニコンサート) | ○PTA、地域の方々の協力もあり、浜掃除では生徒の意欲的な活動になった。 ○吹奏楽ミニコンサートは、生徒の活動を地域へ発信できた。 △さらに多くの方々とともに活動ができるよう広報活動を工夫し、教育活動の理解を得ることである。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 地域の学校として信用と信頼を得る学校づくりをめざす 1めざす学校及び現状を地域に発信する。(学校公開、たより・学級通信の発行) 2地域を巻き込む教育活動を展開する。(部活動支援、生徒・地域合同取組、学校評価) 3道徳教育、特別活動(生徒会、部活、地域貢献活動)、学力の充実に力点をおく。 上記3点を基本に据え、生徒の内面に迫る学習指導と生徒指導を推進していく。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|--|
| 1 質の高い学力の育成 2 進路指導の充実 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上 | 1 学力の定着 ○学習意欲を高める教材の工夫や授業改善の充実 △授業規律と学習習慣の確立、学力の向上、評価研究の実施 2 生徒指導の充実 ○生徒指導部会の定例化、主任を中心とした指導体制の確立 △教職員の危機意識の高揚 3 道徳の充実 △校内研修の実施、他教科・他領域との関連を図った年間計画 4 健康や体力の向上 ○定期的な生徒の実態交流と研修の実施 △教育相談部会の充実、一人一人の存在感がある部活動の充実 5 信頼される学校づくり ○積極的な学校公開の実施 △教育活動の情報発信、小中連携、家庭と地域との連携強化 | 1 京の子ども夢・未来校指定研究を軸に、一人一人に質の高い学力の育成を図る。 2 夢や希望をもって未来を拓く、進路指導の充実を図る。 3 生徒指導の一層の充実を図る。 4 道徳の時間を要とした「心の教育」の充実を図り、心豊かな人間性を育む。 5 教育活動全体を通して、健康や体力の向上に努めさせる。 6 信頼され、開かれた学校づくりに努める。 7 小・中・高連携の更なる推進に努める。 8 効果的な運営を目指した各分掌間の連携の強化を図る。 9 教職員の指導力向上を図る研修の充実を図る。 |

| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
|--------------|---|--|---|
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・「京の子ども夢・未来校」指定研究を軸に、質の高い学力の育成と研究推進 ・学力の実態把握と向上 ・思考力、判断力、表現力の育成(言語の力・活用する力) ・指導方法の研究と改善 ・授業規律の確立 ・家庭学習習慣の確立 ・学校生活の活性化と日常活動の創造 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会と各分掌との連携強化で組織的な研究実践を推進 ・SHR、生徒会活動、部活動、学校行事等すべての教育活動を通して自己表現の場を設定 ・家庭学習の習慣化に向けた日々の課題の提示と添削、やりきらせる指導の継続 ・全教科における週末課題の取組 ・授業規律に関する指導の統一 ・生徒会活動の充実 ・学級活動の日、生徒会活動の日を隔週で設定 | <ul style="list-style-type: none"> ○新教育課程の趣旨を踏まえた外部研修が校内研修にフィードバックできた。 ○言語の力の理論学習、及び視点を明確にした授業研究を実施することができた。 ○積極的な研修と授業改善、生徒の意欲を引き出す学校活性化の取組が教職員はもとより宇川中学校全体の学校力のレベルを引き上げることに繋がった。 △新教育課程の全面実施と移行措置に伴う追加項目がわかる教科年間指導計画の作成 △研究授業事前研究が個人の授業準備に留まり不十分になりがち。複数教師による事前研究が必要 |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・好ましい人間関係の育成と学級経営の充実 ・自らの課題を解決する意欲の育成 ・規範意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・気づきメモによる状況交流と生徒理解 ・定例生指部会の実施、組織的な対応 ・教科指導、部活指導を中心とした規範意識の育成 ・地域、家庭、校種間と連携した生徒指導の充実 ・積極的な生徒指導と教育相談活動による生徒理解 | <ul style="list-style-type: none"> ○学級活動、部活動等で「言語の力」を意識した自己表現の取組は学級の人間関係の構築に活かすことが出来た。 ○気づきメモを定期的に記入することで、情報交流と全教職員が一致した指導の確認が素早く出来た。 ○言葉遣い等の指導は規律ある学校生活つなげられた。 △生徒指導、教育相談に関わる学級経営力の充実 △卒業生の状況をふまえ、中高連携強化と指導体制の確立 |
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談機能の充実を図り、不登校未然防止 ・安全教育の充実 ・部活動の推進 ・食育指導の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態交流、教育相談部会を定期的実施 ・計画的な性教育、食育指導等の指導、 ・毎月1回、校舎内外の安全点検を実施 ・一人一人が存在感のある部活動と一人一言「振り返りタイム」の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○不登校、生徒理解のための校内研修を行うことが出来た。 ○AED校内研修が出来た。 ○部活動における一人一言「振り返りタイム」の取組は、部活への意欲とチーム力を高めるのに効果的だった。 △危機管理マニュアルの見直し、食育指導の推進 |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・三年間を見通した系統的、計画的な進路指導の推進 ・目的意識を高める指導の充実 ・学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験、講話学習の実施、進路学習の充実 ・計画的な二者面談、三者面談の実施 ・進路情報の収集と活用の推進 ・放課後学習会と家庭学習課題の実施と添削指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○二者、三者面談は、進路に対する生徒の意識を高めた。 ○家庭学習課題と添削指導は、生徒の学習意欲と家庭学習習慣の定着につながった。 △三年間を見通した系統的な進路学習 |
| 研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力向上を図る研修の実施 ・外部研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導部と「京の子ども、夢・未来校」研究推進委員会と連携した研修の実施 ・学校評価の有効活用 ・外部研修の内容を校内研修へフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ○言語の力を育てる理論研究が深まり、教材の工夫や授業改善が進んだ。 ○研修で学んだことを伝達し、共有化を図ることが出来た。 △学校評価の改善 |
| 保護者・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携事業の発展 ・教育活動の積極的な公開 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導・生徒指導に関する小中連携の実施(出前授業、相互の授業参観、夏季合同研修会等の充実) ・ホームページの更新 ・内にも外にも「広く見せる・聞かせる宇川」を発信する広報活動の充実 ・PTA活動「家庭教育研修会」を年2回開催 | <ul style="list-style-type: none"> ○小中連携では、「学力」の共通課題を認識し、中一ギャップを埋める取組が出来た。 ○行事では保護者に限らず多くの地域の方の参加があり、生徒達のチャレンジ意欲と自信につながった。 ○学校の様々な取組は、保護者・地域から厚い信頼と大きな期待を得て、地域に根付く学校へと変わりつつある。 △地域と連携した教育活動 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域に信頼される魅力ある学校づくり(本年度以上に学校教育活動や生徒達の様子を地域に紹介する。) 2 宇川地区及び日本の伝統・文化を知るとともに、世界に目を向ける国際理解教育の充実 3 「自分を表現する力」「すべての教育活動における意欲」を更に高め、全教科における質の高い学力の育成 4 夢を持ちチャレンジする生徒の育成 | | |

平成 21 年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|---|--|
| <p>1 一人一人の生徒に確かな学力の定着を図る教育活動の推進</p> <p>2 心の教育の充実を図り、心を揺さぶり、心を鍛え、主体性をはぐくむ教育活動の推進</p> <p>3 自立への歩みを理解し、深い信頼と強い絆のもとに進める不登校の未然防止と解消</p> <p>4 安心・安全で、開き、信頼される学校づくりの推進</p> | <p>1 学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力は平均以上を達成 ○ 学力向上の小中連携 △ 表現力の育成 <p>2 心の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> △ 道徳の時間の改善 △ 学校全体としての道徳性を高める計画的実践 ○ 文化芸術鑑賞の継続実施 <p>3 不登校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校の未然防止および解消 △ スクールカウンセラーの活用 <p>4 安心・安全、開かれた学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校・学年・学級だより △ 定例学校公開の周知と参加者数の増加 | <p>1 学力</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 指導方法の工夫改善と指導体制の充実 (2) 基礎・基本の徹底、学力の充実・向上 (3) 生徒が充実感を抱く魅力的な授業づくり <p>2 心の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 文科省指定道徳教育実践研究事業 (2) 道徳の時間の充実・改善 (3) 学校全体の道徳性を高める取組 <p>3 生徒指導・不登校</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 不登校未然防止・取組充実 (2) スクール・カウンセラー等との連携・活用 (3) 実態把握と組織的指導体制確立 <p>4 安心・安全で、開き、信頼される学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育活動・学校運営等の積極的な公開 (2) 地域社会との連携、教育力の活用 (3) 危機管理体制の整備と充実 | |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <p>学力</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 指導方法の工夫改善と指導体制の充実 (2) 基礎・基本の徹底、学力の充実・向上 (3) 生徒が充実感を抱く魅力的な授業づくり | <p>学力</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 診断テスト・定期テスト等学力実態把握、分析対策 生徒と教師の信頼関係作り 分かりやすい授業作り (2) 全校学習等授業外学習、年3回参加意欲を高める。 長期休業中の学習会・ふりスタ等 朝読書等で、豊かな表現力育成を図る。 (3) 指導案、授業形態、発問の工夫等、授業改善 教員の校内外研修、公開授業 生徒・保護者アンケートの活用 | <p>学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標標準学力検査、全国学力・学習状況調査、府中学校学力診断テスト等、市、府の平均を達成している。 △ 一部達成度の不満足な部分は再度指導した。 ○ 定期テスト等で個人学力を把握し、指導に生かした。 ○ 小中連携を強化。「実態交流」「小学校でつけておく力」等が効果をあげている。今年度新たに、小中教師の授業参観交流を実施 ○ 全校学習(年3回、英数国)、休業中学習会、ふりかえりスタディ、個人宿題等、意欲を高めた。 |
| 生徒指導 | <p>生徒指導・不登校</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 未然防止・取組充実 (2) スクール・カウンセラー等との連携・活用 (3) 実態把握と組織的指導体制確立 | <p>生徒指導・不登校(最重点課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 未然防止等 ア 生徒指導部会及び教育相談部会 毎週定期開催 イ 落ち着いた学校生活の実現、問題には即対応 ウ 毎日、生徒全員の出欠動向を把握。毎日対応 エ 家庭訪問等懇切丁寧な対応、指導の深まり オ 小中連携強化 (2) カウンセラー ア カウンセリングの働きかけと計画的な実施 イ 心の教室相談員との協力、連携 ウ 教師のカウンセリングについての研修 (3) 実態把握等 ア 教育相談部会の毎週開催 実態把握と具体的な動き | <p>生徒指導・不登校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現状把握・方針・学年行動等、すばやい対応をした。 ○ 本人・保護者を納得させる粘り強い指導ができた。 ○ 大きな問題事象はなく落ち着いた生活・授業ができています。安心できる学校づくりが基本 △ 小中の細かな連携と継続性の確保、ていねいな取組が大切。 ○ 全欠席の不登校は0人である。 △ 不登校に陥りやすい生徒は多く気をゆるめることはできない。 ○ 個別の事例について、一人は教室授業等への参加、もう一人は夕方登校等大きく改善できた。 ○ 今年度新規に校区小中教育相談部会を2回開催し、 |

| | | | |
|-----------------------|--|--|--|
| | | イ 管理職、担任、学年、教科等多くの教師の連携 ウ 教師の感覚・意識の向上、保護者対応の深まり | 各校の現状と対応等を交流した。 |
| 健康(体育)・安全 | 健康 (1) 認識を高める。 (2) 基本的な生活習慣の確立 安全 (1) 安心・安全な学校 (2) 安全教育・指導の徹底 | 健康 (1) 実態に即した保健教育と保健管理の徹底 (2) 喫煙・薬物乱用、感染症予防等自覚を高める。 安全 (1) 事故を未然に防ぐ意識、安全マニュアルの見直し 危機管理意識、自覚を高める研修。毎月、安全点検 (2) 通学路確認、登校指導や定期的な下校指導 交通教室、避難訓練等の実施 | 健康 ○ 新型インフルエンザの拡大防止に努めた。 ○ 保健便りで意識を高めた。 ○ 薬物、喫煙、飲酒等関係機関と連携し指導した。 △ 基本的な生活習慣の指導等、家庭との連携が必要 安全 ○ 毎月校内安全点検を実施、修繕に努めた。 ○ 不審者、火災、地震等避難訓練を実施 ○ 登下校指導毎日実施 △ 交通マナー意識の徹底が課題 |
| (A) 進路指導 | 進路 (1) 希望進路実現に向けて、学力の充実向上、やる気を育成 (2) 正しい職業観や勤労意欲を身につけさせる。 | 進路 (1) 学力・意欲 ア きめの細かい指導を積み重ねる。 イ 年度当初から全学年計画的に二者・三者による進路相談を実施し、課題を明確にして指導する。 (2) 学級・総合等の指導充実 ア 親からの手紙(1年)、職場体験学習(2年)、個人レポート作成・発表(3年)等 イ 細やかな進路対策 個人家庭学習ノート、朝学習等 | 進路 ○ 希望進路の実現に向けて3年生全員努力している。 ○ 家庭と連携し進路相談を積み重ねている。 ○ 3年学年教師は細かく個別進路相談に応じている。 ○ 職場体験、卒業生の話等意識を高めた。 ○ 高校等の進路情報提供と的確な対応 △ 生き方にかかわる早期からの個に応じた進路指導 △ 進路目的、将来の見通しを踏まえた進路指導 |
| (B) 特色ある学校づくり 心の教育 | 心の教育 (1) 文科省指定道徳教育実践研究事業1年目の取組 (2) 道徳の時間の充実・改善 (3) 学校全体の道徳性を高める取組 | 心の教育 (1) 道徳教育推進体制の整備・確立、年間指導計画、全体計画の見直し (2) 道徳の時間の充実改善 資料読み、中心発問、板書、発言させる工夫、指導案改善等 (3) 学校教育活動全体を視野に入れた取組 教科・特別活動・総合等との関連 | 心の教育 ○ 道徳推進教師を中心に推進体制は大きく改善 ○ 道徳の時間は大きく改善 資料解釈・指導案・中心発問・板書等 ○ 保護者啓発 講演会、道徳授業参観、学校・学年・学級便り等 △ 学校教育活動全体に道徳教育の視点を確立 △ 給食、掲示、合唱、挨拶等に道徳的視点を意識 |
| (C) 開かれた学校づくり | 安心・安全で、開き、信頼される学校づくりの推進 (1) 教育活動・学校運営等の積極的な公開 (2) 地域社会との連携、教育力の活用 | 開かれた学校 (1) 公開 ア 月に1度、ホームページ更新 イ 学校便り月2回発行 ウ 学校公開、年間いつでも公開。参加者を増やす。 (2) 連携 ア 地域社会の行事に参加し、ふれあいを深めるとともに、地域に貢献する。 イ 総合的な学習の時間に地域の学習をする。 ウ 小中合同で「弥栄っ子ふれあいフォーラム」を開催し地域社会にアピールする。 | 開かれた学校 (1) 公開 ○ ホームページ更新に努めた。 ○ 学校便り月2回発行で保護者理解に努めた。 △ 行事には参観が多いが公開の申込は少ない。 ○ 第2回作品展を開催。大好評で理解を深めた。 (2) 連携 ○ 地区運動会で役割を果たし、ほめられた。 ○ 社会福祉協議会等のボランティアに参加した。 ○ 1年地域学習、2年職場体験学習で地域を学んだ。 △ 弥栄っ子ふれあいフォーラムはインフルエンザのため中止となった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 1 学力向上の取組充実 2 道徳教育の充実による心の教育の推進 3 生徒指導の充実、不登校の未然防止と解消の実践 4 保護者・地域と連携した開かれた学校づくりの推進 5 小中連携を深め、円滑な接続を図る。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|-----------------------------------|--|--|--|
| 「ふるさとを愛し、夢を持ち、賢く逞しく 生き抜く生徒の育成」 | | <ul style="list-style-type: none"> ・問題事象に対する生徒指導部中心の組織的・原則的な対応課題 ・授業改善、観点別評価Cの生徒への手立てを意識した授業作り | 「豊かな人間性の育成」「確かな学力の育成」 「開かれた学校づくり」について個々の教職員がそれぞれの分野に於いて具体策を示し、組織的な指導に当たり、信頼される学校づくりをめざす。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 確かな学力の育成 | (1) 授業実践力の向上 (2) 学習習慣の確立 (3) 言語活動の充実 (4) 読書活動の充実 | ①感じたことや思いを文字で表現する機会を多く持つ。 ②学習発表会等における内容や発表の仕方を工夫する。 ③系統別部会が創造的に活動し、授業改善意識を高める。 ④関心意欲等、具体的評価内容を交流・充実させる。 ⑤生徒の生活実態を把握し、生徒や家庭に実態を知らせる。 ⑥生徒実態に即した家庭学習のあり方を検討・指導する。 ⑦読書エッセイ(教師)と読書コメント(生徒)を掲示紹介し、読書意欲を喚起する。 | ○各教科で「発表」を意識した授業づくりを行った。発表に抵抗感がなくなり、全校国語(スピーチコンテスト)も発表内容・方法等、質が向上した。 ○定期的な系統別部会により、授業形態や資料・発問を工夫する等、授業改善への意識が高まった。 △評価規準・内容の曖昧さ(教科指導者による)をなくし、生徒・保護者から信頼される評価・評定を目指す。 △家庭学習の実態把握だけでなく、学習習慣確立に向けた家庭学習のあり方について具体的に指導する。 |
| 豊かな人間性の育成 | (1) 道徳教育をすべての教育活動を通じて実践 (2) 規範意識の醸成 (3) 不登校・いじめの未然防止と解消 (4) 積極的なボランティア活動の創造 | ①問題事象等、課題と指導内容を明確にし、生徒指導部を中心に組織的に対応する。 ②教師の語り込みや働きかけ等を積極的に行い、生徒との信頼関係を作る。 ③学校生活や家庭生活の課題に対して様々な道徳教育(道徳の時間も含む)を実践する。 ④社会人講話から自らを振り返らせ、望ましい生き方を追求させる。 ⑤特別活動を充実させ、リーダー層を中心に組織的な課題解決を追求させる。 ⑥教育相談小会議を機能させ、課題を解決する。 ⑦主体的に取り組めるボランティア活動を創造する。 | ○規範意識や仲間関係に係る諸問題に対して原則的に対応し、落ち着いた雰囲気生活させることが出来た。 ○全校道徳や社会人講話を実施し、生徒相互の価値を交流したり講師の価値や生き方に触れることで、自分を振り返り、あり方を考えさせることが出来た。 ○SCと連携した不登校(傾向も含む)生徒別小会議の充実により、改善の方向に進んだ生徒が多い。 ○社会教育と連動した地域別サロン活動を実施する等、ボランティア活動への関心を高めることが出来た。 △教師自身の生き方を問い直し、指導意識を高める。 △保護者に生徒の実態を的確に認識させ、家庭教育力を高めるとともに、地域への働きかけ(啓発)を強める。 |

| | | | |
|----------------------|---|--|---|
| <p>体力の向上と健康安全の推進</p> | <p>(1) 食育指導の充実 (2) 部活動の充実と達成感の享受 (3) 緊急時対応訓練の充実</p> | <p>①食育指導を充実させ、望ましい食生活と習慣について考えさせる。 ②教師の指導意識を高め、部活動を充実させる。 ③緊急時対応の訓練を充実させる。</p> | <p>○養護教諭と連携した栄養教諭の食育指導（「中学生の体作りと栄養バランス」）により健康な体づくりへの関心が高まった。 △部活指導のあり方について職員で交流し、指導意欲を高める。 △緊急時の対応訓練内容を工夫し、具体的な対応方法について教職員に徹底する。</p> |
| <p>進路指導の充実</p> | <p>(1) 全体計画の検討・改善 (2) キャリア教育の充実</p> | <p>①生徒の実態を踏まえ、進路指導全体計画を改善する。 ②職場体験学習を充実させ、仕事や自分の将来設計について考えさせる。</p> | <p>○地域学習と職場体験学習を連動させ、自分と地域の将来を考えることで将来目標を設定することが出来た。 △生徒実態に合った指導内容を工夫・実践し、全体計画を見直す。</p> |
| <p>特別支援教育の充実</p> | <p>(1) 生活実態と学習状況の把握分析 (2) 実態交流と具体的支援の検討</p> | <p>①特別な支援を要する生徒の実態を把握し、指導を工夫する。 ②観点別評価C生徒への手立てを意識して指導する。</p> | <p>○特別な支援を要する生徒について交流し、実態把握した。 △個別の支援計画作成に止まらず、具体的実践・交流・改善のサイクルを作り上げる。 △さらに観点別評価C生徒への手立てを意識した授業作りを意識させる。</p> |
| <p>保護者・地域との連携</p> | <p>(1) 家庭・地域社会との連携 (2) 家庭の教育力の醸成</p> | <p>①悪いことも良いことも積極的に家庭連絡する。（家庭訪問・電話連絡等） ②学級通信や学校だより等により生徒の様子を伝える。 ③PTA本部・専門部活動を充実させる。 ④関係諸機関との連携を密にする。</p> | <p>○学校行事等への家庭・地域の関心は高く、行事や普段の取組を通して生徒の頑張りを発信することが出来た。 ○学校での教育活動内容を率直に伝え、協力を求めることが出来た。 △家庭の教育力を高めるため、生徒の実態を的確に伝え、同一視点での指導の協力を強く求める。 △小中連携の強化とともに町内諸団体との連携を密にし、子育てネットワークを作る。望ましい久美浜の児童生徒像を確認し、具体的な協働の取組を実施する。</p> |
| <p>次年度に向けた改善の方向性</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・三者会議、企画会議に於いて学校課題を明確にし、組織的な実践により課題解決を図る。 ・全校道徳と学年道徳を充実させ、豊かな人間性を育成するとともに望ましい仲間関係を作る。 ・SCと連携した不登校生徒のケース会議を充実させ、解消に向けた諸取組を実施する。 ・小中連携（言語活動・表現力の充実、理数科への興味関心の高揚）の具体的実践内容を検討し、実践に結びつける。 ・「授業と学力」「家庭学習の重要性」について生徒・保護者に分かりやすく指導し、保護者の協力を求めながら学校との信頼関係を確立する。また、地域との連携を深め、望ましい久美中生徒像を共通理解・確認するとともに地域を挙げた具体的な取組を実施する。 | | |

平成21年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立高龍中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|
| 1 創意ある教育課程の編成 2 学力の充実・向上 3 心の教育の充実 4 特別支援教育の推進 5 開かれた学校づくり | 1 創意ある教育課程の編成 ○高龍中学校教育プロジェクトの改善を行った。 2 学力の充実・向上 ○少人数指導等の授業研究、補習指導の工夫によって基礎基本は一定定着した。 △発展的な指導に課題があった。 3 心の教育の充実 ○問題事象は年間を通して0であった。 ○全校道徳、「はあとほっとタイム」を改善した。 △登校渋りや集団に入れない生徒へ指導に課題が残った。 4 特別支援教育の推進 △個別支援計画による具体的な指導に課題が残った。 5 開かれた学校づくり ○学校評価を保護者や関係者に公開、評価を得た。 △学校評価の工夫改善を図る。 | 1 教育プロジェクトの推進を軸に、創意ある教育課程を編成し、学校運営を組織的に推進 2 学力の充実・向上 (1)各教科の基礎基本の定着 (2)自ら学ぶ意欲の向上、個に応じた指導の充実 (3)授業改善の推進と指導力の向上 (4)読書活動の推進、総合的な学習の時間の充実 3 豊かな人間性の育成 1)不登校の解消 (2)道徳教育・進路指導・人権教育・特別活動充実 4 特別支援教育の充実 障害ある生徒一人一人の教育ニーズに応じた教育支援 5 開かれ、信頼される学校づくり (1)学校・家庭・地域社会の一体化 (2)学校評価の充実 (3)家庭の教育力の向上 |

| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
|--------------|--|--|---|
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育プロジェクトの研究推進 ・各教科の基礎基本の定着 ・自ら学ぶ意欲の向上、個に応じた指導の充実 ・授業改善の推進と指導力の向上 ・家庭学習の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育プロジェクト会議の定例化 ・教育実践モデル校、学力調査活用アクションプラン推進校研究 ・学力課題の分析(CRT、学力診断テスト等) ・京都式少人数授業実施(数学、英語) ・全教職員による授業研究会実施 ・家庭学習の定着指導(課題の提示、点検)家庭生活(学習)習慣の向上 ・定期的な授業アンケートによる実態把握 ・小中連携(授業参観、出前授業、会議) | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の充実を目指し、本校アクションプランを策定し、学力向上に向けた教職員の意識が向上した。 ○習熟の程度に応じた授業の実施が基礎学力定着に繋がった。 ○校内授業研究会を年間6回実施した。3つの研究テーマに沿って研究協議を深めた。 ○家庭学習習慣化と充実に向けて、課題の提示や点検をし、保護者や小学校教員対象の教育講演会を開催し、意識化を図るきっかけとなった。(京都教育大学大学院教授) ○定期的学習アンケートから、家庭学習の時間の増加が見られた。 ○小学校への出前授業の実施、小中の授業参観を実施し、課題を共有した。 △学力診断テストの正答率の向上を図る。 |

| | | | |
|---------------|---|---|--|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の未然防止と解消 ・規範意識の高揚 ・自己肯定感の向上 ・情報の共有化、組織的な対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握と組織的な対応、保護者との連携（生徒指導部会、教育相談部会） ・「はあとほっとタイム」の充実 ・SC、相談員、関係機関との連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> ○問題事象が年間通してなかった。 ○「はあとほっとタイム」を改善し自己肯定感の醸成に繋がった。 △年間通して30日以上欠席生徒が多数出現した。人間関係作り为重点を置き指導方法を検討する必要がある。 △SC、相談員、関係機関との連携強化と個別支援を充実させる。 |
| 健康(体育)・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全確保 ・健康安全意識の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 毎朝の立ち番、放課後の教職員立ち番 ・「夏みかんの日」の取組の継続発展 ・避難訓練(火災、不審者)の実施 ・性教育、薬物乱用防止教室の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○登下校時の事故はなかった。PTAの安全への協力体制が高い水準である。 ○「夏みかんの日」の集会を機に命の大切さを再確認し、生活改善に繋がった。 ○避難訓練実施、講義を受け、安全意識の高揚に繋がった。 △大人の目の届かない場面では交通安全が徹底出来ない。 △健康安全計画の見直しを図る。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある生徒一人一人の教育ニーズに応じた教育支援 ・コーディネーターを中心とした校内体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒の実態把握 ・個別の指導計画の作成・実践・評価 ・特別支援教育の理解を深める研修 ・校内委員会の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ○他の機関との連携を図ることで、指導や対応の仕方等について研修を深めることが出来た。 △通常学級在籍生徒の具体的な支援を図る体制作りを行う。 △教育相談部との連携のあり方を研究することが課題である。 |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現 ・進路学習の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいた系統的な進路指導 ・体験学習の実施、高校制度学習 ・計画的な進路相談 | <ul style="list-style-type: none"> ○全員が第一希望の進路を実現した。 ○組織的・系統的・計画的な進路指導が出来た。 ○全学年保護者に高校制度改革説明会を実施した。 |
| 開かれ、信頼される学校作り | <ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域社会の一体化 ・学校評価の充実 ・家庭の教育力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学校公開の実施 ・夏休み地域ふれあい活動の実施 ・評議員、民生児童委員との定期的な懇談 ・学校評価(自己評価)の地域保護者へ発信 ・家庭との連携強化 ・教育講演会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校便りやリーフレットの配布・回覧、HP等により情報提供し、本校の教育に保護者も地域も大変協力的である。 ○学校評価(自己評価)を中間・年度末に保護者や関係者に公開し、教育プロジェクトの取組に一定の評価を得た。 ○学校評議員会や民生児童委員との定期的な学校公開・懇談会で積極的に発信が出来た。 ○子育て講演会や教育講演会を開催し、家庭のあり方について研修を深めた。 △学校評価の公表方法を改善し、多くの意見等を得ることで、今後の学校教育の改善に繋がなければならない。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>本年度は、京丹後市教育委員会「教育実践モデル校」、京都府教育委員会「学力調査活用アクションプラン推進校」の指定研究を受けたことを機に、教育プロジェクト研究を工夫改善し教育を推進してきた。生徒の学習意欲や家庭学習の習慣化に一定の成果があったが、中学校教育の総和である希望進路実現を目指し、学力診断テストの正答率を向上させるために、一層の工夫改善を図らなければならない。また、今年度は不登校の多数の出現がみられた。不登校の未然防止と解消が大きな課題である。</p> <p>次年度は、教育プロジェクトの構想の見直しを図りたい。学力向上については授業改善と主体的な家庭学習の定着を、心の教育の充実についてはすべての生徒に自己肯定感の醸成と不登校生徒の未然防止と解消を重点課題として取り組みたい。保護者や地域、関係機関との連携、小中高の連携を強化し、課題解決を図りたい。</p> | | |